



Cisco Unified Presence 展開ガイド リリース 7.0 **Deployment Guide for Cisco Unified Presence Release 7.0**

2009 年 2 月 20 日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、
正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、
弊社担当者にご確認ください。

CCVP, the Cisco logo, and Welcome to the Human Network are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0711R)

Cisco Unified Presence 展開ガイド リリース 7.0

Copyright © 2009 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2009–2010, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

Cisco Unified Presence 展開の概要	1-1
Cisco Unified Communications Manager とのインターフェイスについて	1-1
主なコンポーネント	1-1
SIP インターフェイス	1-2
CTI インターフェイス	1-3
AXL/SOAP インターフェイス	1-3
LDAP インターフェイス	1-3
シスコ統合	1-4
サードパーティ統合	1-4
詳細な情報の取得	1-5

CHAPTER 2

Cisco Unified Presence のスケーラビリティ	2-1
用語の定義	2-1
クラスタ間展開	2-2
マルチノードのスケーラビリティ機能	2-3
マルチノード展開モデルについて	2-3
平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ展開	2-4
平衡型冗長ハイ アベイラビリティ展開	2-5
アクティブ/スタンバイ冗長ハイ アベイラビリティ展開	2-6
非ハイ アベイラビリティ展開	2-7
システム トポロジ管理 GUI について	2-8
ノード管理について	2-8
ノードの作成と移動	2-8
ノード名設定	2-9
ユーザ管理について	2-9
ユーザ割り当て	2-9
ユーザ再分散	2-10
Sync Agent サービス	2-10
ハードウェア推奨事項	2-11
マルチノード機能のインストールおよび設定	2-12
新規インストールの実行	2-12
アップグレードの実行	2-13
アップグレードに関するその他の考慮事項	2-13
新しいノードの追加	2-13

ユーザの展開および割り当て	2-14
クラスタの拡張	2-15
ハードウェア問題の解決	2-15
ベスト プラクティス情報	2-16
マルチノード システムの監視	2-17
マルチノード機能の DNS 設定オプションについて	2-17
クラスタレベルの DNS SRV	2-17
サブクラスタレベルの DNS SRV	2-18

CHAPTER 3

Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator とを統合するための Cisco Unified Communications Manager の設定 3-1

この統合の前提条件	3-1
サービス パラメータの設定	3-2
Cisco Unified Communications Manager でライセンスを設定する方法	3-2
Cisco Unified Presence のライセンス要件	3-2
Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件	3-3
ライセンス ファイルの取得	3-4
ライセンス ファイルのアップロード	3-5
ライセンス情報の表示	3-5
ライセンス機能の割り当て	3-6
Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法	3-6
ユーザ クレデンシャル ポリシーの修正	3-7
各電話へのプライマリ内線の関連付け	3-7
エンドユーザおよび関連するデバイスの追加	3-8
ライン アピアランスへのエンドユーザの関連付け	3-9
ユーザ グループへのエンドユーザの割り当て	3-9
Cisco Unified Communications Manager で SIP トランクを設定する方法	3-10
Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定	3-10
Cisco Unified Presence の SIP トランクの設定	3-11
Cisco Unified Communications Manager で CTI ゲートウェイを設定する方法	3-12
CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザの設定	3-12
CTI 対応ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加	3-12
アプリケーション ユーザへの CTI デバイス制御の割り当て	3-13
Cisco Unified Communications Manager で Cisco IP PhoneMessenger サービスを設定する方法	3-13
アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定	3-14
Cisco IP PhoneMessenger の電話サービスの設定	3-14
Cisco IP PhoneMessenger サービスへの電話の登録	3-15

Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Personal Communicator クラ イアントを設定する方法	3-15
電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加 回線、ユーザ、および電話番号の関連付け	3-16
Cisco Unified Personal Communicator でのサイレント動作	3-18
エクステンション モビリティの設定	3-20
ダイヤル ルールを設定する方法	3-21
アプリケーション ダイヤル ルールおよびディレクトリ検索ルール	3-21
Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法	3-21
アプリケーション ダイヤル ルールの設定	3-22
ディレクトリ検索ルールの設定	3-22
必要なサービスが実行されていることの確認	3-23

CHAPTER 4

**Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間のセキュリ
ティの設定** 4-1

セキュリティを設定するための前提条件	4-1
証明書交換を設定する方法	4-1
Cisco Unified Communications Manager からの証明書のダウンロード	4-2
Cisco Unified Presence からの証明書のダウンロード	4-2
Cisco Unified Presence への Cisco Unified Communications Manager 証明書のアップ ロード	4-2
SIP プロキシ サービスの再起動	4-3
Cisco Unified Communications Manager への Cisco Unified Presence 証明書のアップ ロード	4-3
Cisco Unified Communications Manager サービスの再起動	4-4
Cisco Unified Presence で TLS 設定を設定する方法	4-4
TLS ピア サブジェクトの設定	4-4
TLS コンテキストの設定	4-5

CHAPTER 5

ネットワークで展開するための Cisco Unified Presence の設定 5-1

システム トポロジ	5-1
ライセンス ファイルのアップロード	5-1
プレゼンス ゲートウェイを設定する方法	5-2
プレゼンス ゲートウェイ設定オプション	5-2
プレゼンス ゲートウェイの設定	5-3
プロキシ サーバ設定の設定	5-3
CTI ゲートウェイの有効化	5-4
Cisco IP PhoneMessenger 設定の設定	5-4
Cisco Unified Presence サービスをアクティブにする方法	5-4

同期エージェントのアクティブ化	5-5
プロキシ サービスのアクティブ化	5-5
Cisco Unified Presence サービスのアクティブ化	5-6
クラスタ間ピアを設定する方法	5-6
クラスタ間ピアの設定	5-6
クラスタ間同期エージェントのアクティブ化	5-7

CHAPTER 6

Cisco Unified Personal Communicator と統合するための Cisco Unified Presence の設定 6-1

この統合の要件	6-1
LDAP サーバの設定	6-1
Cisco Unified Personal Communicator に Cisco Unified Presence を設定する方法	6-2
ノードの設定	6-3
プロキシ リスナーの選択	6-3
TFTP サーバ アドレスの指定	6-4
LDAP 設定を設定する方法	6-6
LDAP 属性マップの設定	6-6
連絡先名の表示に関する規則	6-7
Web サーバからの連絡先画像のフェッチ	6-8
LDAP サーバの名前とアドレスの指定	6-9
LDAP プロファイルの作成	6-10
CTI ゲートウェイ設定を設定する方法	6-12
CTI ゲートウェイ サーバの名前とアドレスの指定	6-13
デスク電話モードのフェールオーバーおよびリカバリ	6-14
CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ	6-14
CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ	6-14
CTI ゲートウェイ プロファイルの作成	6-15
アプリケーション プロファイルを変更する方法	6-16
単独のユーザのアプリケーション プロファイルの変更	6-17
複数のユーザのアプリケーション プロファイルの変更	6-17
インスタント メッセージングのグローバルな無効化	6-18
連絡先リストの最大サイズの設定	6-18
Cisco Unified Personal Communicator トラフィックを通すためのファイアウォールの設定	6-19
ポイントツーポイント ビデオ コールおよびマルチポイント ビデオ会議に対応するためのユーザの設定	6-19

CHAPTER 7

Cisco Unified Personal Communicator の展開と更新 7-1

アプリケーションを展開する方法	7-1
-----------------	-----

インストーラ パッケージの名前	7-1
ソフトウェア ダウンロード サイト	7-2
Mac OS 環境でのアプリケーションの展開	7-3
Microsoft Windows 環境でのアプリケーションおよびカメラ ドライバの展開	7-3
アプリケーションのインストール	7-4
アプリケーションの更新	7-4
ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストールと設定	7-5
Cisco Unified Personal Communicator でのサードパーティ製のヘッドセットの使用	7-5
ユーザに提供する情報	7-6

APPENDIX A

マルチノード機能のハードウェアに関するマトリクス	A-1
サポート対象のハードウェア	A-1
ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン	A-2

APPENDIX B

Cisco Unified Personal Communicator の推奨サーバの設定	B-1
ボイスメール サーバを設定する方法	B-1
Cisco Unity Connection サーバの設定	B-2
Cisco Unity サーバの設定	B-4
Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定	B-7
Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定	B-8
Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定	B-10
Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成	B-11
会議サーバを設定する方法	B-13
Cisco Unified MeetingPlace Express および Cisco Unified MeetingPlace Express VT サーバの設定	B-14
Cisco Unified MeetingPlace サーバの設定	B-16
Cisco Webex Meeting Center サーバの設定	B-18
Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定	B-18
Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成	B-20
ビデオ会議リソースの設定	B-21

APPENDIX C

Cisco Unified Personal Communicator の展開後の新規ユーザの追加	C-1
Cisco Unified Personal Communicator の全機能を活用するための新規ユーザの設定	C-1



CHAPTER 1

Cisco Unified Presence 展開の概要

- 「Cisco Unified Communications Manager とのインターフェイスについて」 (P.1-1)
- 「シスコ統合」 (P.1-4)
- 「サードパーティ統合」 (P.1-4)
- 「詳細な情報の取得」 (P.1-5)

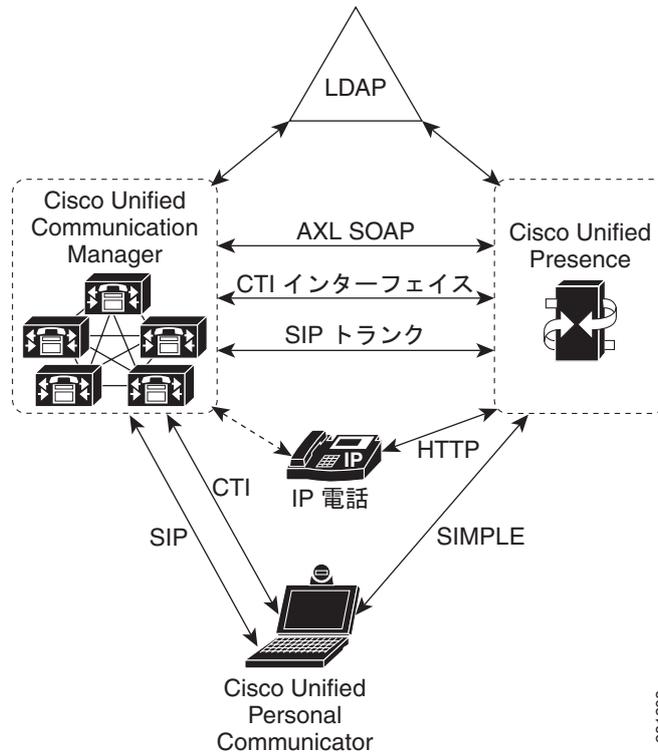
Cisco Unified Communications Manager とのインターフェイスについて

- 「主なコンポーネント」 (P.1-1)
- 「SIP インターフェイス」 (P.1-2)
- 「CTI インターフェイス」 (P.1-3)
- 「AXL/SOAP インターフェイス」 (P.1-3)
- 「LDAP インターフェイス」 (P.1-3)

主なコンポーネント

図 1-1 に、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間の主なコンポーネントやインターフェイスを含めた基本的な Cisco Unified Presence の展開を示します。

図 1-1 Cisco Unified Presence の基本的な展開



SIP インターフェイス

SIP 接続は、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間でプレゼンス情報の交換を処理します。Cisco Unified Communications Manager で SIP 接続を有効にするには、Cisco Unified Presence サーバをアプリケーションサーバとして追加し、Cisco Unified Presence サーバを指すように SIP トランクを設定する必要があります。

Cisco Unified Presence で、Cisco Unified Communications Manager をプレゼンスゲートウェイとして設定すると、Cisco Unified Presence から、SIP トランク経由で SIP サブスクライブメッセージを Cisco Unified Communications Manager に送信できるようになります。



(注)

Cisco Unified Presence は、TLS 経由の SIP/SIMPLE インターフェイスを使用して Cisco Unified Presence に接続するクライアント（シスコまたはサードパーティのクライアント）をサポートしません。TCP 経由の SIP 接続だけがサポートされます。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager で SIP トランクを設定する方法」(P.3-10)
- 「プレゼンスゲートウェイを設定する方法」(P.5-2)

CTI インターフェイス

Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) インターフェイスは、Cisco Unified Presence サーバのユーザのために CTI 通信をすべて処理して Cisco Unified Communications Manager の電話を制御します。そのためには、Cisco Unified Presence と通信しているどの Cisco Unified Communications Manager サブスクリバでも CTI マネージャ サービスがアクティブになっている必要があります。

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Presence ユーザを CTI 対応グループに関連付ける必要があります、そのユーザに割り当てられているプライマリ内線を CTI 対応にする必要があります。CTI ゲートウェイを Cisco Unified Presence で有効にする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager との Cisco Unified Presence データベース同期化によって、Cisco Unified Personal Communicator クライアントの CTI 設定 (CTI サーバおよび CTI プロファイル) が自動的に作成されます。どの CTI 通信も、Cisco Unified Presence サーバ経由ではなく、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Personal Communicator との間で直接発生することに注意してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager で CTI ゲートウェイを設定する方法」(P.3-12)
- 「CTI ゲートウェイの有効化」(P.5-4)

AXL/SOAP インターフェイス

AXL/SOAP インターフェイスは、Cisco Unified Communications Manager からのデータベース同期化を処理し、Cisco Unified Presence データベースにデータを入力します。データベース同期化をアクティブにするには、Cisco Unified Presence で同期エージェント サービスを起動する必要があります。

同期エージェントは、デフォルトでは Cisco Unified Presence クラスタ内の全ノードに全ユーザを等しくロード バランシングを行います。また、管理者は Cisco Unified Presence クラスタの特定のノードに手動でユーザを割り当てることもできます。

シングル ノードおよびデュアル ノードの Cisco Unified Presence で、Cisco Unified Communications Manager とのデータベース同期化を実行する際の推奨される同期化間隔については、次の URL にある『Cisco Unified Presence SRND』ドキュメントを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html

関連項目

「同期エージェントのアクティブ化」(P.5-5)

LDAP インターフェイス

Cisco Unified Communications Manager は、LDAP 経由の手動による設定または同期化によってすべてのユーザ情報を直接取得します。次に、Cisco Unified Presence は (AXL/SOAP インターフェイスを使用して) Cisco Unified Communications Manager からこのすべてのユーザ情報を同期化します。

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Personal Communicator クライアントおよび Cisco Unified Presence エンドユーザ GUI のユーザに LDAP 認証を提供します。

Cisco Unified Personal Communicator ユーザが Cisco Unified Presence にログオンし、LDAP 認証が Cisco Unified Communications Manager で有効になっている場合、Cisco Unified Presence は Cisco

Unified Personal Communicator ユーザ認証用の LDAP ディレクトリに直接移動します。Cisco Unified Personal Communicator が認証されると、Cisco Unified Presence はこの情報を Cisco Unified Personal Communicator に転送してユーザ ログインを続行します。

Cisco Unified Personal Communicator が LDAP ディレクトリを使用して、連絡先を検索し、追加することに注意してください。



(注) Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications Manager でサポートされている LDAP サーバをサポートします。

関連項目

「Configuring the LDAP Server」(P.2-16)

シスコ統合

Cisco Unified Presence を Cisco Unified Mobility Advantage に統合する方法については、次の URL にある Cisco Unified Mobility Advantage のドキュメンテーションを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html

サードパーティ統合

このガイドでは、Cisco Unified Presence の基本的な展開を設定する方法に限って詳述します。サードパーティ統合については、次のドキュメントを参照してください。

サードパーティ統合	説明内容	参照ドキュメント
Microsoft Exchange と Cisco Unified Presence との統合	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Exchange 2003 および 2007 との統合 この統合のための Microsoft Active Directory の設定 	http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html
MOC コール制御のための Microsoft OCS/LCS と Cisco Unified Presence との統合	<ul style="list-style-type: none"> MOC コール制御の CSTA ゲートウェイとしての Cisco Unified Presence の設定 この統合のための Microsoft Active Directory の設定 TCP 経由のデュアル ノード Cisco Unified Presence 展開での MOC 要求のロード バランシング 	
ドメイン間フェデレーションのための Microsoft OCS/LCS と Cisco Unified Presence との統合	<ul style="list-style-type: none"> ある Cisco Unified Presence エンタープライズと別の Cisco Unified Presence とのフェデレーション Cisco Unified Presence エンタープライズと Microsoft OCS/LCS エンタープライズとのフェデレーション 	

詳細な情報の取得

Cisco Unified Presence Solution Reference Network Design (SRND) ドキュメント :
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html

Cisco Unified Presence 互換性マトリクスおよびポート リスト :
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html

Cisco Unified Presence のリリース ノート :
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_release_notes_list.html

Cisco Unified Communications Manager のドキュメンテーション :
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html

Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノート :
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html



CHAPTER 2

Cisco Unified Presence のスケーラビリティ

- 「用語の定義」 (P.2-1)
- 「クラスタ間展開」 (P.2-2)
- 「マルチノードのスケーラビリティ機能」 (P.2-3)
- 「マルチノード展開モデルについて」 (P.2-3)
- 「システム トポロジ管理 GUI について」 (P.2-8)
- 「ハードウェア推奨事項」 (P.2-11)
- 「マルチノード機能のインストールおよび設定」 (P.2-12)
- 「マルチノード機能の DNS 設定オプションについて」 (P.2-17)



(注)

Cisco Unified Presence 展開オプションの詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Presence SRND』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html

用語の定義

Cisco Unified Presence 用語	定義
クラスタ	単一の Cisco Unified Communications Manager クラスタにサービスを提供している 1 つまたは複数のサブクラスタ。Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに 1 つの Cisco Unified Presence クラスタが必要になります。
ハイ アベイラビリティ展開	サービスまたはハードウェアの障害に備えて、ユーザに冗長なサービスを提供する展開モデル。Cisco Unified Presence は、非ハイ アベイラビリティ展開、ベスト エフォート ハイ アベイラビリティ展開、および冗長ハイ アベイラビリティ展開をサポートしています。
クラスタ間	どの Cisco Unified Presence クラスタにも均一のプレゼンスおよび IM サービスを提供するために相互接続された Cisco Unified Presence クラスタの集まり。

Cisco Unified Presence 用語	定義
マルチノード機能	Cisco Unified Presence 7.x で導入された Cisco Unified Presence マルチノードにより、お客様は Cisco Unified Presence クラスタのスケラビリティを 3 倍に増やすことができます。 Cisco Unified Presence マルチノードを使用すると、お客様は Cisco Unified Presence クラスタ内に最大 10,000 人のユーザからなる Cisco Unified Presence グループ（サブクラスタとも呼ばれます）を作成できます。これにより、最大 30,000 人のユーザをサポートするように Cisco Unified Presence クラスタ容量が拡大されます。
サブクラスタ	共通ユーザをサポートできる共有プレゼンス データベースで動作している単一の Cisco Unified Presence サーバまたは 1 対の Cisco Unified Presence サーバ。サブクラスタ内の単一ノード展開では、そのノードに割り当てられているユーザに対してハイ アベイラビリティ フェールオーバー保護が提供されません。サブクラスタ内のデュアルノード展開では、ユーザに対してハイ アベイラビリティ フェールオーバー保護が提供されます。コンポーネントまたはノードが停止した場合には、クライアントがフェールオーバーできるように、各ノードが他のノードのバックアップとして機能しています。このハイ アベイラビリティ モードでは、サブクラスタのどのユーザにもフェールオーバー機能が提供されます。
ユーザ	Cisco Unified Presence がプレゼンス状態を維持するプレゼンス ユーザ。Cisco Unified Presence ユーザがサブクラスタのノードに割り当てられます。
ノード	最大 5,000 人のユーザをサポートする単一の Cisco Unified Presence サーバ インスタンス。 Cisco Unified Presence ノードをサブクラスタに割り当てることができます。

クラスタ間展開

クラスタ間機能を使用すると、ある Cisco Unified Presence クラスタのユーザが、同じドメイン内の別の Cisco Unified Presence クラスタに所属するユーザのプレゼンスに通知し、登録できます。

Cisco Unified Presence は、AXL/SOAP インターフェイスを使用して、ホーム クラスタ関連付けのエンドユーザ情報を取得します。Cisco Unified Presence は、このエンドユーザ情報を使用して、ユーザがローカル ユーザ（ローカル クラスタのユーザ）であるのか、それとも同じドメイン内のリモート Cisco Unified Presence クラスタのユーザであるのかを検出します。

Cisco Unified Presence は、登録および通知トラフィックに SIP インターフェイスを使用します。ユーザが同じドメイン内のリモート Cisco Unified Presence クラスタに存在していると検出された場合、Cisco Unified Presence は SIP URI メッセージのホスト部分を書き換えて、SIP メッセージをリモートの Cisco Unified Presence クラスタに再ルーティングします。

どの Cisco Unified Presence クラスタでも、TCP をクラスタ間トランク転送として使用することをお勧めします。

プレゼンス ユーザ プロファイルの特定など、クラスタ間展開のサイズ設定およびパフォーマンスに関する推奨事項については、次の URL にある Cisco Unified Presence SRND ドキュメントを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html

関連項目

- 「AXL/SOAP インターフェイス」(P.1-3)
- 「クラスタ間ピアを設定する方法」(P.5-6)

マルチノードのスケーラビリティ機能

Cisco Unified Presence マルチノードは、最大 6 つのノードが含まれている Cisco Unified Presence クラスタをサポートします。この 6 つのノードは、各ユーザが平均 100 人の連絡先（友人）を持つとして、30,000 人のユーザまでサポートできます。これにより、Cisco Unified Communications Manager の 30,000 人のユーザ展開レベルに合わせて Cisco Unified Presence 展開のスケールを拡大できます。

Cisco Unified Presence マルチノードについて考慮に入れておくべきポイントには、これ以外に次のものがあります。

- この機能は、Cisco Unified IP Phone およびプレゼンス クライアントでノードごとに 5,000 人のユーザをサポートします（ユーザごとに 2 個のエンドポイント、つまりノードごとに 10,000 個のエンドポイント）。
- ユーザは、最大で 200 人からなる友人リストを持つことができます。
- 次のエンドポイントがサポートされます。
 - Cisco Unified Communications Manager（デスク電話）
 - Cisco Unified Personal Communicator（ソフトクライアント）
 - Cisco Unified Mobile Communicator
 - Microsoft Office Communicator（Microsoft ソフトクライアント）
 - Lotus Sametime（Lotus ソフトクライアント）
 - サードパーティ インターフェイス クライアント
- 各 Cisco Unified Presence サーバ上のリソースがメモリ、ディスク サイズ、および世代という点で等しい場合、最適なパフォーマンスが得られます。ハードウェアのクラスが混在していると、サーバの能力が十分に発揮されず、良好なパフォーマンスが得られません。
- Cisco Unified Presence は、マルチノードを備えており、これまでどおりクラスタ間展開をサポートします。
- マルチノードを活用するため、Cisco Unified Presence のハードウェアはこの章で説明するハードウェア推奨事項に従ったものにするをお勧めします。

マルチノード展開モデルについて

Cisco Unified Presence システム トポロジ管理 GUI を使用すると、使用中のネットワークに望みどおりの展開モデルを設定できます。

Cisco Unified Presence 展開をハイ アベイラビリティ展開として設定することをお勧めします。単一の展開にハイ アベイラビリティ サブクラスタと非ハイ アベイラビリティ サブクラスタを用意するなど、展開のモードを混在させることもできますが、このような設定はお勧めしません。

Cisco Unified Presence は、デフォルトのバランス モード ユーザ割り当てで最適なパフォーマンスが得られるようになっています。Sync Agent は、Cisco Unified Presence でユーザ割り当てを管理します。



(注)

Cisco Unified Presence では、WAN のラウンドトリップ時間が 3 ミリ秒以下でない限り、全面的には Clustering over WAN (CoW; WAN 経由のクラスタリング) をサポートしません。詳細については、次の URL にある Cisco Unified Presence SRND を参照してください。

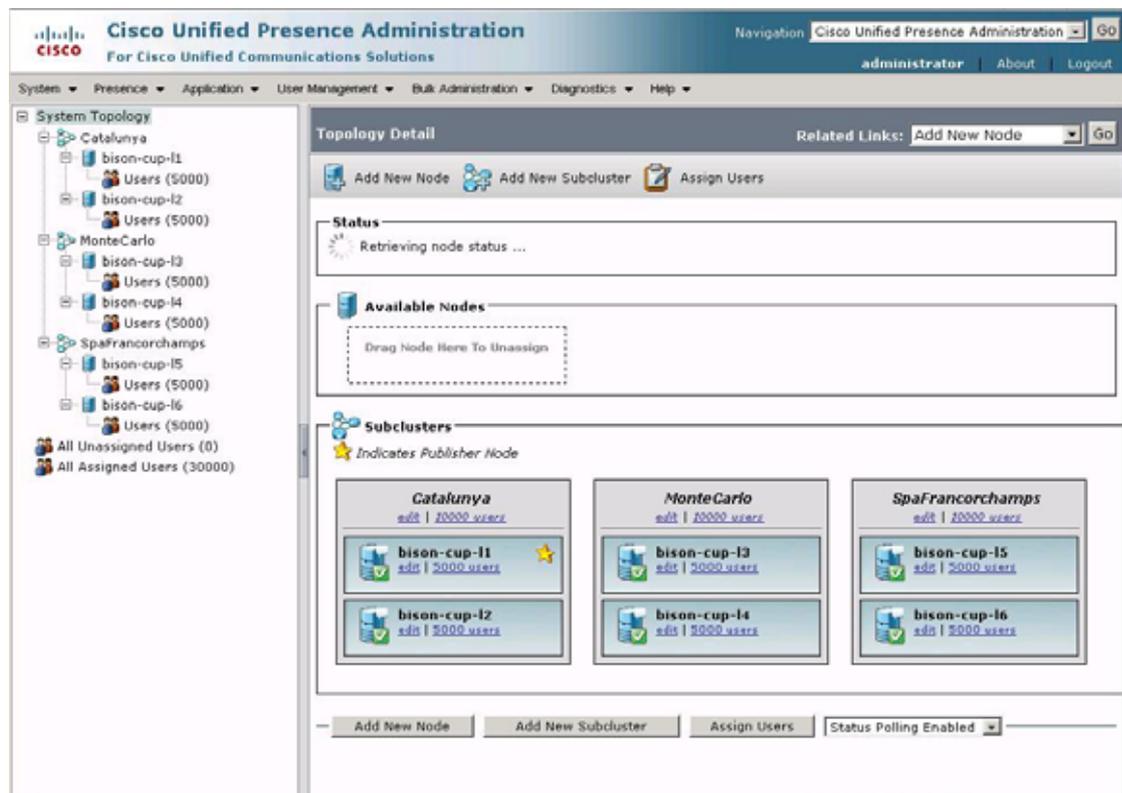
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/srnd/7x/presence.html

- 「平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ展開」 (P.2-4)
- 「平衡型冗長ハイ アベイラビリティ展開」 (P.2-5)
- 「アクティブ/スタンバイ冗長ハイ アベイラビリティ展開」 (P.2-6)
- 「平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ展開」 (P.2-4)

平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ展開

- この展開を実現するには、次の手順を実行します。
 - サブクラスタを作成し、そのサブクラスタに 2 つの Cisco Unified Presence ノードを割り当てます。
 - 両方のノードにユーザを割り当てます。ユーザはバックアップ ノードにフェールオーバーできます。
- システム トポロジ管理 GUI でのこの展開モデルのサンプルについては、図 2-1 を参照してください。
- 平衡型のハイ アベイラビリティ展開を実現するには、Cisco Unified Presence サーバの CPU を最大 70% 使用して展開の全ノードにユーザを均等に分散させます。
- この展開モデルでは、全ユーザをそれぞれの Cisco Unified Presence ノードに半分ずつ割り当てます。
- 非冗長で平衡型のハイ アベイラビリティ展開オプションを使用すると、平衡型冗長ハイ アベイラビリティ展開オプションと比較して 2 倍のユーザを割り当てることができますが、Cisco Unified Presence ハードウェアを最大容量まで使用することになります。
- 一方のノードが失敗した場合、他方のノードがサブクラスタ内のユーザの半数分の負荷をさらに処理できますが、ピーク トラフィック時にはこの負荷を持続できなくなることもあります。このモードでは、トラフィックが少ない期間には全面的にフェールオーバーできますが、ピーク トラフィック期間になると全面的にはフェールオーバーできなくなります。

図 2-1 平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ展開



関連項目

- 「システム トポロジ管理 GUI について」 (P.2-8)
- 「ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン」 (P.A-2)

平衡型冗長ハイ アベイラビリティ展開

この展開を実現するには、次の手順を実行します。

- サブクラスタを作成し、そのサブクラスタに 2 つの Cisco Unified Presence ノードを割り当てます。
 - 両方のノードにユーザを割り当てます。ユーザが第 2 (バックアップ) ノードにフェールオーバーできます。
- 平衡型のハイ アベイラビリティ展開を実現するには、サブクラスタ内の全ノードにユーザを均等に分散させ、各 Cisco Unified Presence サーバの CPU の使用率を最大 35% にとどめます。
- この展開モデルでは、全ユーザをそれぞれの Cisco Unified Presence ノードに半分ずつ割り当てます。
- 冗長モードで平衡型のハイ アベイラビリティ展開オプションを使用すると、非冗長モードと比較して半数のユーザが各ノードに割り当てられます。
- 一方のノードが失敗した場合、他方のノードがピーク トラフィック時でもサブクラスタ内のユーザの半数分の負荷をさらに処理します。

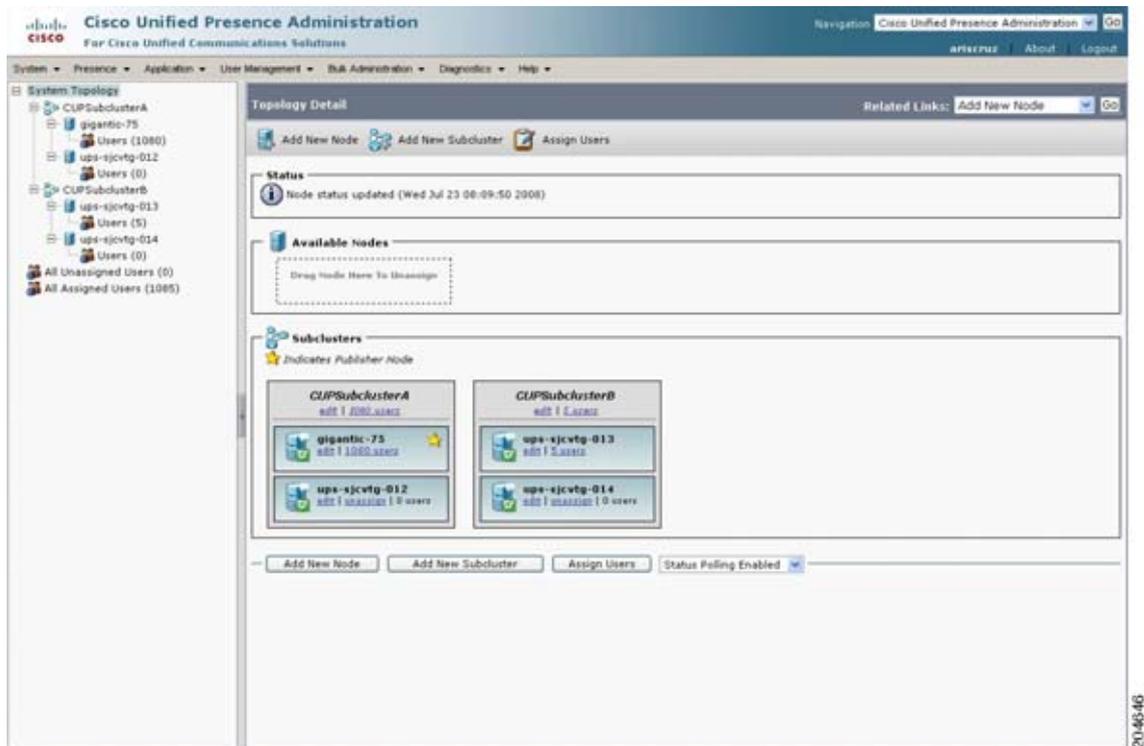
関連項目

- 「システム トポロジ管理 GUI について」(P.2-8)
- 「ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン」(PA-2)

アクティブ/スタンバイ冗長ハイ アベイラビリティ展開

- この展開を実現するには、次の手順を実行します。
 - サブクラスタを作成し、そのサブクラスタに 2 つの Cisco Unified Presence ノードを割り当てます。
 - 全ユーザをアクティブ ノードに割り当てます。ユーザはサブクラスタ内の 1 つのノードに割り当てられますが、このノードは冗長なスタンバイ ノードにフェールオーバーできます。
- この展開モデルの設定例については、図 2-2 を参照してください。
- この展開モデルの場合、全ユーザをアクティブな Cisco Unified Presence ノードに割り当てることになり、バックアップ ノードには 1 人のユーザも割り当てません。
- アクティブ ノードが失敗した場合、スタンバイ ノードがアクティブ ノードから全トラフィックを引き継いで処理できます。
- クラスタ間トラフィックはサブクラスタ内の両ノード間にロード バランシングされますが、クラスタ内トラフィックはアクティブ/スタンバイ展開モデルを使用して設定する必要があります。

図 2-2 アクティブ/スタンバイ ハイ アベイラビリティ展開



関連項目

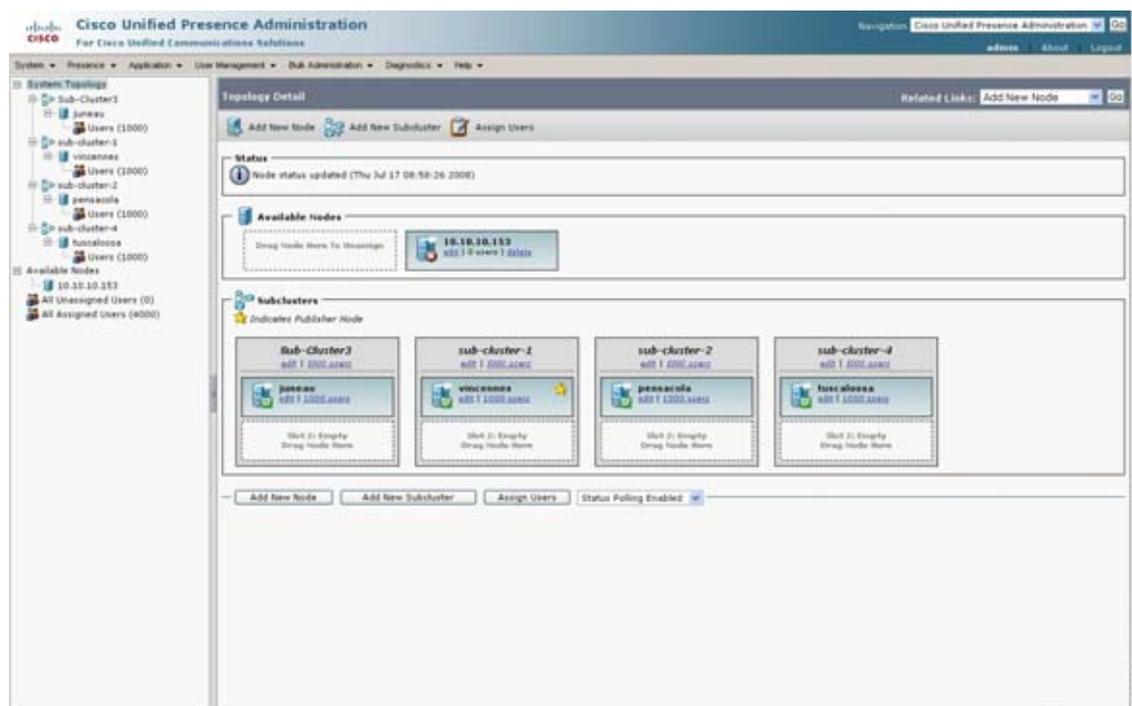
- 「システム トポロジ管理 GUI について」(P.2-8)

- 「Sync Agent サービス」(P.2-10)
- 「ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン」(P.A-2)

非ハイ アベイラビリティ展開

- この展開を実現するには、次の手順を実行します。
 - サブクラスタを作成し、Cisco Unified Presence ノードを 1 つだけサブクラスタに割り当てます。
 - 全ユーザをこのノードに割り当てます。
- この展開モデルの設定例については、[図 2-3](#) を参照してください。
- このノードでサービスやハードウェアが失敗しても、このノードに割り当てられているどのユーザにもフェールオーバー保護が提供されません。フェールオーバー保護を実現するには、サブクラスタに冗長なノードを設定する必要があります。
- この展開モデルはお勧めしませんが、導入することは可能です。

図 2-3 非ハイ アベイラビリティ展開



関連項目

「システム トポロジ管理 GUI について」(P.2-8)

システム トポロジ管理 GUI について

Cisco Unified Presence スケーラビリティ拡張を管理するには、システム トポロジ管理 GUI を使用します。システム トポロジ管理 GUI では、サブクラスタ、ノード、およびユーザを設定し、管理できます。

Cisco Unified Presence の管理 GUI からシステム トポロジ管理 GUI にアクセスするには、[Cisco Unified Presence] > [トポロジ] を選択します。システム トポロジ管理 GUI の詳細については、次の URL にある『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html

Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードで Cisco Unified Presence 展開のシステム トポロジ設定を実行します。システム トポロジを設定する前に、関連項目に挙げているベスト プラクティスのガイドラインに目を通すことをお勧めします。

関連項目

「マルチノード機能のインストールおよび設定」(P.2-12)

- 「ノード管理について」(P.2-8)
- 「ユーザ管理について」(P.2-9)
- 「Sync Agent サービス」(P.2-10)

ノード管理について

- 「ノードの作成と移動」(P.2-8)
- 「ノード名設定」(P.2-9)

ノードの作成と移動

- システム トポロジ管理 GUI を使用してノードを作成するときには、次の操作を実行できます。
 - Cisco Unified Presence のサブクラスタにそのノードを割り当てることができます。未割り当てのままにしておくこともできます。これらの状態は交換可能です。
 - Cisco Unified Presence ユーザに関連付けることができます。ユーザ割り当てなしのままにしておくこともできます。
 - ノードは、割り当て済でまだユーザがない場合には、サブクラスタ間で移動できます。
 - ping 可能な物理ノードを設定できます。また、後でインストールし、それまではアクセスできないままとなる論理ノードも設定できます。
- ノードを割り当て解除したり、移動したりするには、そのノードから全ユーザを削除する必要があります。
- ユーザが割り当てられているノードを移動するには、次の手順のいずれかを実行します。
 - ユーザを割り当て解除し、ノードを移動してから、ノードにユーザを再割り当てします。ユーザを割り当て解除すると、ユーザがサービスを失うことに注意してください。
 - ハイ アベイラビリティ展開を使用している場合は、ハイ アベイラビリティのノードのペアの第 2 ノードにユーザを移動します。第 1 ノードを移動してから、第 1 ノードにユーザを再割り当てします。

- 論理ノードを作成し、ユーザをその論理ノードに移動します。ノードを移動し、ノードにユーザを再割り当てし、論理ノードを削除します。
- ノードの移動に多数のユーザの割り当て解除または移動が伴う場合には、その移動をオフピーク時に実行することを強くお勧めします。このような大規模な操作は、パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

Cisco Unified Presence の管理 GUI でシステム トラブルシュータを使用すると、システム トポロジ設定を確認できます。

ノード名設定

ノードの名前は、デフォルトでは Cisco Unified Presence のインストール時に設定するホスト名となります。たとえば、Cisco Unified Presence ノードのホスト名が「cup1」である場合、ノード名は「cup1」となります。システム トポロジ管理 GUI から、ノード名を、「192.168.0.1」や「cup1.acme.com」というように、ドット付き IP アドレスや FQDN に変更できます。ノードのデフォルト名を変更する場合は、次の点に注意してください。

- Cisco Unified Presence サーバおよび Cisco Unified Personal Communicator クライアント コンピュータからホスト名または FQDN を解決できる必要があります。
- Cisco Unified Presence サーバまたは Cisco Unified Personal Communicator クライアント コンピュータがホスト名または FQDN を解決できない場合は、ノード名値の IP アドレスを設定する必要があります。
- Cisco Unified Presence サーバから名前解決をテストするには、次のコマンドを使用します。

```
utils network ping <node_name>
```
- Cisco Unified Personal Communicator クライアント コンピュータから名前解決をテストするには、次のコマンドを使用します。

```
ping <node_name>
```

関連項目

- 「マルチノード機能のインストールおよび設定」(P.2-12)
- 「マルチノード機能の DNS 設定オプションについて」(P.2-17)

ユーザ管理について

- 「ユーザ割り当て」(P.2-9)
- 「ユーザ再分散」(P.2-10)

ユーザ割り当て

エンドユーザを単一のノードに割り当て、クラスタまたは特定のサブクラスタ内の 1 つ以上のノードにユーザのグループを分散させます。

ユーザは、サブクラスタ内のノードのいずれかに割り当てることができます。サブクラスタの他のノードは、ユーザのバックアップ（冗長）ノードになります。サブクラスタにバックアップ ノードを設定しないと、ユーザにはハイ アベイラビリティ フェールオーバー保護が提供されません。

ユーザ割り当てを設定するときは、次の点に注意してください。

- 一括管理ツール（BAT）を使用すると、多数のユーザを一括してエクスポートできます。

- ユーザが未割り当てのままになっていることがあります。未割り当てのユーザはプレゼンス情報を受け取りません。
- 割り当て済のユーザを再割り当てできます。つまり、別のサブクラスタや特定のノードに移動できます。
- ユーザを個別に移動したり、多数のユーザを一括して移動したりできます。
- ユーザを割り当て解除したり、再割り当てしたりすると、アクティブなセッションが終了します。このような場合は、クライアントが新しい場所に再接続する必要があります。
- Cisco Unified Presence で Sync Agent の [User Assignment Mode] パラメータを使用すると、ユーザ割り当てを管理できます。
- Sync Agent の [User Assignment Mode] パラメータを使用すると、全ユーザまたはひとまとまりのユーザをクラスタまたはサブクラスタに割り当てることができます。Cisco Unified Presence の GUI で [User Assignment Mode] パラメータを設定するには、[Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] を選択します。次のユーザ割り当てモードを設定できます。
 - [Balanced] : ユーザはそれぞれ、サブクラスタまたはクラスタ内の全ノードに均等に割り当てられます。
 - [なし] : ユーザはサブクラスタにもノードにも割り当てられません。管理者はどのモードを使用するかを設定するように求められます。

ユーザ再分散

ノードの移動に多数のユーザの割り当て解除または移動が伴う場合には、その移動をオフピーク時に実行することを強くお勧めします。このような大規模な操作は、パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。



(注)

Cisco Unified Presence の管理 GUI でシステム トラブルシュータを使用すると、システム トポロジ設定を確認できます。

関連項目

- 「Sync Agent サービス」 (P.2-10)
- 「マルチノード機能のインストールおよび設定」 (P.2-12)
- 「ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン」 (PA-2)

Sync Agent サービス

Cisco Unified Presence マルチノード機能を設定するときには、次の点に注意してください。

- Sync Agent を起動する前に、システム トポロジを設定することをお勧めします。
- Cisco Unified Presence で Sync Agent の [User Assignment Mode] パラメータを使用すると、Cisco Unified Presence でユーザを自動的に割り当てる方法を手動で設定できます。Cisco Unified Presence の GUI で [User Assignment Mode] パラメータを設定するには、[Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] を選択します。
- 次のユーザ割り当てモード オプションを使用できます。

- [Balanced] に設定すると、全ユーザが全サブクラスタの全ノードに等しく分散されます。このモードは、この章ですでに説明した平衡型非冗長ハイ アベイラビリティと平衡型冗長ハイ アベイラビリティの展開オプションに使用します。
- [なし] に設定すると、ユーザは自動的にサブクラスタおよびノードに割り当てられません。システム トポロジ GUI を使用して、手動でユーザをノードに割り当てる必要があります。
- 同期エージェントの完了後、それ以外の Cisco Unified Presence サービスを起動します。

関連項目

- 「ユーザ管理について」(P.2-9)
- 「マルチノード展開モデルについて」(P.2-3)

ハードウェア推奨事項

Cisco Unified Presence マルチノードを設定するときには、次の点を考慮してください。

- ハイ アベイラビリティ展開オプションをお勧めします。
- 展開のどのノードにも同種のハードウェアを使用します。
- ハードウェアの数を最小限に抑えます。たとえば、MCS 7825 サーバを 6 台使用して 6,000 人のユーザをサポートするのではなく、MCS 7845 サーバを 2 台使用して 5,000 人のユーザをサポートします。
- 同世代のサーバ ハードウェアを使用します。
- 同種のハードウェアの世代をいくつか混在させる必要がある場合は、同世代のものを同じサブクラスタにまとめ、このサブクラスタのユーザ数を、高性能の世代を配置したサブクラスタよりも少なくします。ただし、このような展開にすることはお勧めしません。
- マルチノードには次のディスク ドライブをお勧めします。
 - MCS 7816 : 少なくとも 1 台の 160 GB ドライブ (250 GB ドライブを 1 台使用することもできます)
 - MCS 7825 : 少なくとも 2 台の 160 GB ドライブ (250 GB ドライブを 2 台使用することもできます。容量の少ない 80 GB ドライブからのアップグレードが必要です)
 - MCS 7835 : 少なくとも 2 台の 146 GB ドライブ (容量の少ない 72 GB ドライブからのアップグレードが必要です)
 - MCS 7845 : 少なくとも 4 台の 72 GB ドライブ (4 台の 146 GB ドライブへのアップグレードをお勧めします)



(注) 4 台の 72 GB ドライブを搭載した MCS 7845 でスケーラビリティ機能を実行することもできますが、4 台の 146 GB ドライブにすることをお勧めします。

- 古い世代のハードウェアを使用している場合は、このディスク ドライブ アップグレード推奨事項に従ってください。スケーラビリティを確保するには、クラスタの各サーバで最小ディスク容量を満たす必要があります。



(注) ドライブをアップグレードすると、古くなったハードウェアもマルチノードクラスタで使用できます。ただし、CPU が高性能で、メモリ容量が多く、入力/出力処理が高速であるため、マルチノードには最新のハードウェアを使用することをお勧めします。

関連項目

「マルチノード機能のハードウェアに関するマトリクス」(P.A-1)

マルチノード機能のインストールおよび設定

Cisco Unified Presence マルチノードを設定するときには、ここで説明するインストール手順および設定手順に従ってください。

- 「新規インストールの実行」(P.2-12)
- 「アップグレードの実行」(P.2-13)
- 「アップグレードに関するその他の考慮事項」(P.2-13)
- 「新しいノードの追加」(P.2-13)
- 「ユーザの展開および割り当て」(P.2-14)
- 「クラスタの拡張」(P.2-15)
- 「ハードウェア問題の解決」(P.2-15)
- 「ベストプラクティス情報」(P.2-16)
- 「マルチノードシステムの監視」(P.2-17)

新規インストールの実行

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence パブリッシャ ノード (Cisco Unified Presence クラスタの第 1 サーバ) をインストールします。
- ステップ 2** システム トポロジ管理 GUI を使用して、クラスタにサブクラスタおよびノードをすべて作成します。
- ステップ 3** Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードに、クラスタの後続の各 Cisco Unified Presence ノードを関連付けます。
- ステップ 4** クラスタの後続の各 Cisco Unified Presence ノードをインストールします。
- ステップ 5** 必要に応じて、これらのノードをサブクラスタ配置に割り当てます。
- ステップ 6** すべての Cisco Unified Presence ノードを同じクラスタにインストールした場合は、パブリッシャ ノードで同期エージェント サービスを起動して、Cisco Unified Communications Manager ユーザおよびデバイスの設定情報と同期します。
- ステップ 7** この同期が完了したら、各 Cisco Unified Presence ノードで PE サービスおよびプロキシ サービスを起動します。
-

トラブルシューティング項目

- 後続の Cisco Unified Presence ノードのインストールを実行する前に、そのノードをパブリッシャ ノードのトポロジ ビューに関連付ける必要があります。
- 後続のノードはインストールするまでサブクラスタに割り当てないでください。インストールする前に後続の Cisco Unified Presence ノードをサブクラスタに割り当てると、リモート クラスタのユーザがプレゼンス情報を受け取ることができなくなります。後続のノードをインストールするまで、プレゼンス停止が発生します。

関連項目

- 「システム トポロジ管理 GUI について」 (P.2-8)
- 「同期エージェントのアクティブ化」 (P.5-5)
- 「Cisco Unified Presence サービスのアクティブ化」 (P.5-6)

アップグレードの実行

手順

-
- ステップ 1** まず、Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードをアップグレードします。
 - ステップ 2** Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードをアップグレードした後、クラスタ内の後続の各 Cisco Unified Presence ノードをアップグレードします。
 - ステップ 3** サブスクリバ ノードをすべてアップグレードしたら、一度に 1 つのノードずつ順次ソフトウェアを新規ソフトウェア リリースに切り替えます。最初のサブスクリバ ノードが再起動し、新規ソフトウェア リリースでオンラインに復帰したら、次のサブスクリバ ノードでソフトウェア リリースを切り替えます。
 - ステップ 4** すべてのサブスクリバ ノードで新規ソフトウェア リリースが実行されるまで手順 3 を繰り返します。
-

アップグレードに関するその他の考慮事項

MCS 7845 H1/I1 プラットフォームで最初の Cisco Unified Presence インストールがソフトウェア リリース 1.0.3 である場合、リリース 1.0.3 からリリース 7.x、またはリリース 1.0.3 からリリース 6.x、そしてリリース 7.x へとアップグレードするときは、/spare パーティションを使用して大規模なユーザ データベースをサポートするため、次のアップグレード ガイドラインに従ってください。

1. リリース 7.x へのアップグレードを実行します。
2. DRS バックアップを実行します。
3. パブリッシャ ノードおよびサブスクリバ ノード（ある場合）でリリース 7.x の新規インストールを実行します。
4. DRS 復元を実行します。

Cisco Unified Presence でバックアップと復元手順を実行する方法の詳細については、『*Disaster Recovery System Guide for Cisco Unified Presence Release 7.0*』を参照してください。

関連項目

- 「アップグレードの実行」 (P.2-13)
- 「新規インストールの実行」 (P.2-12)

新しいノードの追加

インストールの実行後に新しいノードを追加する必要がある場合は、この手順に従ってください。

手順

-
- ステップ 1** (必要に応じて) サブクラスタを新規に作成します。
- ステップ 2** ノードを新規に作成します。
- ステップ 3** (必要に応じて) ノードをサブクラスタに関連付けます。ノードは、クラスタに所属することになりますが、ユーザをそのノードに割り当てるまでトラフィックを受け取りません。
- ステップ 4** 必要に応じて、ユーザを他のノードから新しいノードに割り当てます。
-

関連項目

「ノード管理について」(P.2-8)

ユーザの展開および割り当て

ユーザ展開に関する次のガイドラインに従ってください。

- Cisco Unified Presence ノードにユーザを手動でも自動的に展開できます。Cisco Unified Presence で Sync Agent の [User Assignment Mode] パラメータを使用すると、ユーザ割り当てを管理できます。[User Assignment Mode] パラメータを [Balanced] (自動の場合) または [なし] (手動の場合) に設定できます。
- クラスタのすべてのハードウェアが同世代で同じ容量である場合は、自動管理に設定することをお勧めします。
- ノードに世代や容量が混在したハードウェアを搭載している場合は、このパラメータを [なし] に設定することをお勧めします。その場合、容量に応じて各サーバに負荷が分散するように、手動でユーザを割り当てる必要があります。

ユーザ割り当てに関する次のガイドラインに従ってください。

- システム トポロジ管理 GUI を使用して、ユーザの割り当て解除、割り当て、または再割り当てを実行できます。
- ユーザを割り当てることができるのは、そのユーザにライセンスが付与されている場合に限りです。
- BAT ツールを使用すると、ノード間で大量のユーザ再割り当てを一括して実行できます。
- 一括で処理を実行するときは、PE サービスおよびプロキシ サービスをオフラインにすることをお勧めします。ただし、これらのサービスをオフラインにすると、パフォーマンスに悪影響が及ぶことに注意してください。

関連項目

- 「ユーザ管理について」(P.2-9)
- 「Sync Agent サービス」(P.2-10)
- 「ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン」(P.A-2)

クラスタの拡張

手順

- ステップ 1** 新しい Cisco Unified Presence サーバをアプリケーション サーバとして Cisco Unified Communications Manager に追加します。
- ステップ 2** (必要に応じて) システム トポロジ管理 GUI でサブクラスタを 1 つ以上新規に作成します。
- ステップ 3** システム トポロジ管理 GUI にノードを新規に作成します。
- ステップ 4** そのノードを (新しい) サブクラスタに割り当てます。
- ステップ 5** 各ノードをインストールし、それぞれのノードをオンラインにします。
- ステップ 6** どのノードもオンラインになったら、次のユーザ割り当てオプションを使用してユーザを新しいノードに割り当てます。
 - リスト検索機能を使用して、各ノードからユーザを選択してその割り当てを解除し、[User Assignment Mode] パラメータを使用して、新しいサブクラスタおよびノードに新規ユーザを再割り当てします。
 - リスト検索機能を使用して、手動でユーザを新しいノードに移動します。
 - すべてのユーザを割り当て解除してから、クラスタ全体に適した [User Assignment Mode] パラメータ設定を使用して、クラスタにユーザを再割り当てします。



(注)

ノードの移動に多数のユーザの割り当て解除または移動が伴う場合には、その移動をオフピーク時に実行することを強くお勧めします。このような大規模な操作は、パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

関連項目

- 「システム トポロジ管理 GUI について」 (P.2-8)

ハードウェア問題の解決

サーバに問題が発生したり、一般的なハードウェア障害が発生したりした場合には、この手順に従ってください。

手順

- ステップ 1** システム トポロジ管理 GUI を使用して、ノードを新規に作成します。
- ステップ 2** このノードで新規インストールを実行します。
- ステップ 3** 問題のノードからユーザを割り当て解除します。
- ステップ 4** 問題のノードですべてのサービスを停止します。
- ステップ 5** 問題のノードを割り当て解除します。
- ステップ 6** 新しいノードをサブクラスタに割り当てて、問題のノードを置き換えます。
- ステップ 7** 新しいノードに未割り当てのユーザを再割り当てします。

- ステップ 8** 問題のノードを削除します。
- ステップ 9** 新しいノードですべてのサービスをアクティブにします。

関連項目

- 「新規インストールの実行」(P.2-12)
- 「ノード管理について」(P.2-8)
- 「ユーザ管理について」(P.2-9)

ベスト プラクティス情報

ベスト プラクティス	ガイドライン
CoW	CoW は、WAN 接続が非常に高速でないと（3 ミリ秒のラウンドトリップ時間）全面的にはサポートされません。Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシュャがインストールされているサイトにインストールでき、クライアントは WAN 経由で Cisco Unified Presence にアクセスするように設定できます。詳細については、次の URL にある Cisco Unified Presence SRND を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html
クラスタ間接続	クラスタ間接続が、地理的に分散している Cisco Unified Presence クラスタ間に Cisco Unified Presence によって確立されます。リモートクラスタを設定する方法については、次の URL にある『 <i>Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence</i> 』のクラスタ間割り当てに関するセクションを参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html
パフォーマンス	Cisco Unified Presence の最適なパフォーマンスを実現するには、平衡型の展開モデルを設定します。[User Assignment Mode] を [Balanced] に設定します。これはデフォルトの設定です。
ハイ アベイラビリティ展開	ハイ アベイラビリティ展開を実現するには、平衡型（冗長なハイ アベイラビリティ）またはアクティブ/スタンバイ冗長ハイ アベイラビリティの展開モデルを設定します。

関連項目

- 「マルチノード展開モデルについて」(P.2-3)
- 「ユーザ管理について」(P.2-9)

マルチノード システムの監視

手順

- ステップ 1** クラスタの Cisco Unified Presence ノードごとに CPU とメモリの使用率を監視するには、Cisco Unified Presence RTMT ツールを使用します。
- ステップ 2** 追加のハードウェアが必要になるかどうかを判断するには、次のガイドラインに従ってください。

展開モデル	推奨事項
非ハイ アベイラビリティまたは平衡型非冗長ハイ アベイラビリティ	いずれかの Cisco Unified Presence ノードで一定期間 CPU の使用率が 70% を超えている場合は、現在の展開にハードウェア リソースを追加することをお勧めします。
平衡型冗長ハイ アベイラビリティ	サブクラスタのいずれかの Cisco Unified Presence ノードで一定期間 CPU の使用率が 35% を超えている場合は、現在の展開にハードウェア リソースを追加することをお勧めします。
アクティブ/スタンバイハイ アベイラビリティ	アクティブな Cisco Unified Presence ノードで一定期間 CPU の使用率が 70% を超えている場合は、現在の展開にハードウェア リソースを追加することをお勧めします。

マルチノード機能の DNS 設定オプションについて

- 「クラスタレベルの DNS SRV」 (P.2-17)
- 「サブクラスタレベルの DNS SRV」 (P.2-18)

クラスタレベルの DNS SRV

この DNS 設定の場合、クラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレスを定義する必要があります。このアドレスは、Cisco Unified Communications Manager SIP パブリッシュ トランクが、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence クラスタの全ノードに SIP パブリッシュ メッセージをロード バランシングするのに使用されます。とりわけ、この設定にすると、初期 SIP パブリッシュ メッセージが Cisco Unified Presence クラスタの全ノードにロード バランシングされるようになります。また、ノードで障害が発生した場合には、DNS によって SIP パブリッシュ メッセージが残りのノードに転送されるため、ハイ アベイラビリティ展開を実現できます。



(注)

この DNS 設定は必須の設定ではありません。初期 SIP パブリッシュ メッセージを Cisco Unified Presence クラスタの全ノードにロード バランシングする方法を提供するお勧めの設定です。Cisco Unified Presence は、デバイスごとに後続の SIP パブリッシュ メッセージを、Cisco Unified Presence でそのデバイスがホームにしているノードに送信します。

クラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレス パラメータを設定するには、
[Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] > [Cisco UP SIP プロキシ] > [SRV Cluster Name] を選択します。このパラメータはデフォルトでは空です。

サブクラスタレベルの DNS SRV

この DNS 設定の場合、サブクラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレスを定義する必要があります。このアドレスは、サブクラスタに定義されている両方のノードを表すものとなります。サブクラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレスは、DNS によるプロビジョニング済の重み付けと優先度を適用して、SIP SUBSCRIBE と MESSAGE 要求を宛先サブクラスタ内のノードに送信するのに使用します。この DNS 設定を使用すると、管理者は高度なロード バランシングを設定できます。たとえば、第 1 ノードではメッセージの 75% を受け取るようにプロビジョニングしつつ、第 2 ノードでは受け取るメッセージを 25% にとどめることができます。サブクラスタレベルのアドレスが未定義のままである場合、Cisco Unified Presence はサブクラスタ内の 2 つのノードのいずれかをランダムに選択して各メッセージのロード バランシングを実現します（各ノードに 50% ずつメッセージを分散させます）。どちらの場合も、まず選択したノードを試してから、必要に応じて他方のノードにフェールオーバーするという方法で、ハイ アベイラビリティ展開を実現しています。



(注)

Cisco Unified Presence はデフォルトではサブクラスタのどちらのノードにもクラスタ間メッセージをロード バランシングするため、この DNS 設定は必須ではありません。サブクラスタの一方のノードが失敗した場合は、他方のノードが使用されます。

サブクラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレス パラメータを設定するには、
[Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [トポロジ] を選択し、目的のサブクラスタで [編集] リンクをクリックします。[編集] フォームで、[Use SRV for Subcluster] をオンにし、所定のアドレス フィールドにサブクラスタレベルの Cisco Unified Presence アドレスを定義します。このフィールドはデフォルトでは空です。

この DNS 設定は、次の展開シナリオに使用することをお勧めします。

- ある特定のノードに別のノードよりも優先してトラフィックを転送するアクティブ/スタンバイ展開。
- サブクラスタの各ノードを地理的に分割し、ローカル トラフィックをローカル ノードに転送する CoW 展開。
- ハードウェアの性能に差がある展開（処理能力の大きいサーバにトラフィックを多く転送する場合など）。ただし、このようなタイプの展開はお勧めしません。

次の DNS 設定例では、サブクラスタ内に「mal.sip.com」と「inari.sip.com」の 2 つのノードがあり、TCP と UDP のどちらも使用しています。ただし、この設定例の場合、Cisco Unified Presence サーバに設定されるサブクラスタ SRV 値は「mal-inara.sip.com」であることに注意してください。

```
_sip_udp.mal-inara.sip.com.IN SRV 1 1 5060 mal.sip.com.
_sip_tcp.mal-inara.sip.com.IN SRV 1 1 5060 mal.sip.com.
_sip_udp.mal-inara.sip.com.IN SRV 2 1 5060 inara.sip.com.
_sip_tcp.mal-inara.sip.com.IN SRV 2 1 5060 inara.sip.com.
```



CHAPTER 3

Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator と を統合するための Cisco Unified Communications Manager の設定

- 「この統合の前提条件」 (P.3-1)
- 「サービス パラメータの設定」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager でライセンスを設定する方法」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法」 (P.3-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager で SIP トランクを設定する方法」 (P.3-10)
- 「Cisco Unified Communications Manager で CTI ゲートウェイを設定する方法」 (P.3-12)
- 「Cisco Unified Communications Manager で Cisco IP PhoneMessenger サービスを設定する方法」 (P.3-13)
- 「Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Personal Communicator クライアントを設定する方法」 (P.3-15)
- 「必要なサービスが実行されていることの確認」 (P.3-23)

この統合の前提条件

この統合の手順では、次の手順がすでに実行されていると想定しています。

- 『*Installation Guide for Cisco Unified Presence*』で説明する手順に従って、Cisco Unified Presence ソフトウェアがサーバにインストールされている。
- このインストール時に、この章で説明する設定タスクの実行先となる Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードに Cisco Unified Presence サーバが関連付けられている。



(注)

メニュー オプションおよびパラメータが Cisco Unified Communications Manager リリースによって異なることがあるため、使用中のリリースに合った Cisco Unified Communications Manager のドキュメンテーションを参照してください。

サービス パラメータの設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] を選択します。
- ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3 サービスとして [Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 [Clusterwide Parameters (System - Presence)] セクションで、デフォルトのプレゼンス間グループ登録に対して [登録の許可] を選択します。
- ステップ 5 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Communications Manager に Cisco Unified Presence をアプリケーション サーバとして手動で追加する必要はありません。system topology management GUI でノードを追加または削除すると、そのノードは Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション サーバリストに対して自動的に追加または削除されます。

次の操作

[「Cisco Unified Communications Manager でライセンスを設定する方法」 \(P.3-2\)](#)

Cisco Unified Communications Manager でライセンスを設定する方法

- [「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 \(P.3-2\)](#)
- [「Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件」 \(P.3-3\)](#)
- [「ライセンス ファイルの取得」 \(P.3-4\)](#)
- [「ライセンス情報の表示」 \(P.3-5\)](#)
- [「ライセンス機能の割り当て」 \(P.3-6\)](#)

Cisco Unified Presence のライセンス要件

どの Cisco Unified Presence 7.x にも、Cisco Unified Communications Manager バージョン 5.0、5.1 または 6.0 が必要になります。Cisco Unified Presence ソフトウェアは、1 台のサーバとして展開することも、最大 6 台のサーバからなるクラスターとしても展開することもできます。Cisco Unified Presence ごとにサーバ ライセンスを注文する必要があります。

各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で Cisco Unified Presence を有効にできます。Cisco Unified CM の管理ページの GUI にライセンス機能割り当て画面があり、Cisco Unified Communications Manager からユーザ プレゼンス機能が割り当てられます。ライセンス機能画面から、エンドユーザごとに Cisco Unified Presence および Cisco Unified Personal Communicator を有効にできます。これらの機能のそれぞれが、ユーザのデバイス ライセンス ユニットの消費します。

Cisco Unified Presence 7.x では準拠性を指向するお客様向けに、Cisco Unified Communications のライセンス構造に合わせて、エンドユーザライセンス契約が導入されました。

関連項目

- 「ライセンス情報の表示」(P.3-5)
- 「ライセンス機能の割り当て」(P.3-6)
- 「Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件」(P.3-3)

次の操作

「ライセンス ファイルの取得」(P.3-4)

Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、接続されている Cisco Unified Personal Communicator デバイスの数を追跡し、その数を購入済のデバイス ライセンスの数と比較します。

Cisco Unified Personal Communicator を次のように設定できます。

- 基本機能：この設定により、ユーザはプレゼンス対応の連絡先リスト、ディレクトリ検索、およびインスタント メッセージングを使用できるだけでなく、Cisco Unified IP Phone を制御して Cisco Unified Personal Communicator デスク電話モード経由でクリック ツー ダイヤルおよび着信コール通知を使用できるようになります。また、Web 会議およびボイスメール機能も、対応する製品のライセンスを保有していれば使用できます。サポート対象のサーバのリストについては、次のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

次のライセンスが必要となります。

- 1 つの Cisco Unified Personal Communicator ソフトウェア ライセンス。Cisco Unified Personal Communicator ライセンスには、1 つの Cisco Unified Communications Manager デバイス ユーザ ライセンスが付属しています。
- 1 つの Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス。このライセンスは、Cisco Unified Communications Manager 電話デバイス ライセンスとも呼ばれています。
- 基本機能とソフトフォン：基本機能以外に、ユーザがソフトフォン モードで Cisco Unified Personal Communicator を使用できるように、ビデオ対応ソフトフォンとして Cisco Unified Personal Communicator を設定できます。

次のライセンスが必要となります。

- 1 つの Cisco Unified Personal Communicator ソフトウェア ライセンス。Cisco Unified Personal Communicator ライセンスには、1 つの Cisco Unified Communications Manager デバイス ユーザ ライセンスが付属しています。
- 1 つの Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス。このライセンスは、Cisco Unified Communications Manager 電話デバイス ライセンスとも呼ばれています。
- Cisco Unified Communications Manager ソフトフォンとして登録する 3 つの Cisco Unified Communications Manager 電話デバイス ライセンス。



(注) Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0(1) では、セカンダリ デバイスをプライマリ デバイスに関連付けて、デバイスごとにただ 1 つのデバイス ライセンスを消費できます。これは付加ライセンスとも呼ばれています。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ、AXL、または BAT 経由で手動で付加ライセンスを設定できます。

関連項目

- 「電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加」 (P.3-16)
- 「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 (P.3-2)
- 「ライセンス ファイルの取得」 (P.3-4)
- 「ライセンス情報の表示」 (P.3-5)

次の操作

「ライセンス ファイルの取得」 (P.3-4)

ライセンス ファイルの取得

シスコ デバイスの注文時に、シスコから Product Authorization Key (PAK) が提供されます。PAK は、ソフトウェア アクティベーション キーおよびライセンス ファイルを備えています。

始める前に

- ライセンスおよび有効な電子メール ID を必要としている Cisco Unified Communications Manager の MAC アドレスを取得します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページ([システム] > [ライセンス] > [ライセンス ユニット計算 (License Unit Calculator)]) でライセンス ユニット計算を使用して、必要なデバイス ライセンスの数を特定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページのオンライン ヘルプまたは『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の手順に従って、必要なライセンス ファイルを取得します。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
- ステップ 2** ライセンスおよび有効な電子メール ID を必要としている Cisco Unified Communications Manager の MAC アドレスを入力した後、ライセンスを必要とするノードおよびデバイスの数を入力します。
- ステップ 3** ライセンスのアップロード後、ユーザに機能を割り当てます。

次の操作

「ライセンス ファイルのアップロード」 (P.3-5)

ライセンス ファイルのアップロード

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [ライセンス] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] を選択します。
- ステップ 2** [アップロード] をクリックします。
- ステップ 3** ローカル コンピュータ上でファイルを検索します。
- ステップ 4** [アップロード] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

ライセンス ファイルには、必ず *.lic* という接尾辞が付きます。

関連項目

「ライセンス情報の表示」 (P.3-5)

次の操作

「ライセンス機能の割り当て」 (P.3-6)

ライセンス情報の表示

目的	実行するタスク
ライセンス レポートを表示します。	[Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [ライセンス] > [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] を選択します。
必要なライセンス ユニットの数を特定します。	[Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [ライセンス] > [ライセンス ユニット計算 (License Unit Calculator)] を選択します。
ライセンスを持ち、Cisco Unified Communications Manager から同期化されている Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザの数を表示します。	[Cisco Unified Presence の管理] > [診断] > [システム ステータス (System Status)] を選択します。 ステータス ウィンドウには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ライセンスを持ち、Cisco Unified Communications Manager データベースから同期化されている Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザの数。 デバイスのユーザ ID とプライマリ内線番号、およびユーザに関連付けられている連絡先の数。 Cisco Unified Personal Communicator を使用するためのライセンスを持つユーザ。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件」 (P.3-3)

ライセンス機能の割り当て

エンドユーザがプレゼンス SIP メッセージング更新を送受信できるようにするには、そのユーザに対して Cisco Unified Presence を有効にする必要があります。ユーザに対して Cisco Unified Presence を有効にしないと、そのユーザにはプレゼンス メッセージングもステータス更新も許可されません。また、この手順を使用して Cisco Unified Personal Communicator クライアント機能やエンドユーザを有効にすることもできます。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [ライセンス] > [機能割り当て] を選択します。
- ステップ 2 [検索] をクリックします。
- ステップ 3 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. ユーザリンクをクリックして、[機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] ウィンドウを表示します。
 - b. 複数のユーザに機能を割り当てるには、次の手順を実行します。
 - 必要に応じてユーザをチェックします。
 - [一括割り当て (Bulk Assignment)] をクリックします。
- ステップ 4 [CUP (Cisco Unified Presence) を有効にする] をオンにします。
- ステップ 5 [CUPC (Cisco Unified Personal Communicator) を有効にする] をオンにして、Cisco Unified Personal Communicator 機能を有効にします。
- ステップ 6 [保存] をクリックします。

関連項目

[「ライセンス情報の表示」 \(P.3-5\)](#)

次の操作

[「Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法」 \(P.3-6\)](#)

Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法

- [「ユーザ クレデンシャル ポリシーの修正」 \(P.3-7\)](#)
- [「各電話へのプライマリ内線の関連付け」 \(P.3-7\)](#)
- [「エンドユーザおよび関連するデバイスの追加」 \(P.3-8\)](#)
- [「ライン アピランスへのエンドユーザの関連付け」 \(P.3-9\)](#)
- [「ユーザ グループへのエンドユーザの割り当て」 \(P.3-9\)](#)

ユーザ クレデンシャル ポリシーの修正

始める前に

この手順は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 6.0 以降と統合する場合には必須です。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [ユーザ管理] > [クレデンシャル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] を選択します。
 - ステップ 2** 必要に応じて、[アプリケーション ユーザ パスワード]、[エンド ユーザ パスワード]、[エンド ユーザ PIN] の各エントリを編集します。
 - ステップ 3** エントリごとに、次のように設定します。
 - [ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] をオフにします。
 - [無期限にする (Does Not Expire)] をオンにします。
 - ステップ 4** [保存] をクリックします。
-

各電話へのプライマリ内線の関連付け

プライマリ内線は、電話のプライマリ Directory Number (DN; 電話番号) です。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [デバイス] > [電話] を選択します。
 - ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
 - ステップ 3** [電話のタイプ (Phone Type)] メニューからデバイスを選択します。
 - ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5** [デバイス プロトコル (Device Protocol)] メニューからプロトコルを選択します。
 - ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 7** 必須パラメータを設定します。必須パラメータについては、Cisco Unified Communications Manager のオンライン ヘルプを参照してください。
 - ステップ 8** [保存] をクリックします。
 - ステップ 9** [新規 DN を追加] をクリックします。
 - ステップ 10** 電話の電話番号を入力します。
 - ステップ 11** [保存] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] をオンにして、電話が Cisco Unified Personal Communicator クライアントと相互運用できるようにします。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager で Cisco IP PhoneMessenger サービスを設定する方法」(P.3-13)
- 「Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Personal Communicator クライアントを設定する方法」(P.3-15)

次の操作

「エンドユーザおよび関連するデバイスの追加」(P.3-8)

エンドユーザおよび関連するデバイスの追加

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [ユーザ管理] > [エンド ユーザ] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** ユーザに対して次のパラメータを定義します。
- ユーザ ID (User ID)
 - パスワード (Password)
 - PIN
 - 姓 (Last Name)
-  **ヒント** PIN 値が数値であることを確認します。
- ステップ 4** [電話番号の割り当て (Directory Number Associations)] セクションのメニューから、このユーザのプライマリ内線 (プライマリ電話番号) を選択します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
- ステップ 6** [デバイスの割り当て] をクリックします。
- ステップ 7** [デバイスの割り当て] ウィンドウで、電話の MAC アドレス (プレフィクスとして SEP が付きます) を入力します。
- ステップ 8** [検索] をクリックします。
- ステップ 9** リストからユーザの電話を選択します。
- ステップ 10** [保存] をクリックします。
- ステップ 11** その新たに関連付けた電話のプライマリ内線を選択します。
- ステップ 12** [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- LDAP 同期化が有効になっている場合、ユーザ ID を表示することはできますが、修正することはできません。LDAP 同期化ステータスを確認するには、[Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [LDAP] > [LDAP システム] を選択します。
- LDAP 認証が有効になっている場合は、[パスワード] フィールドが表示されません。

- Cisco Unified Personal Communicator を展開している場合は、エンドユーザごとにユーザ ID 値が一意であることを確認します。ユーザ ID は、ソフトフォン デバイス名に変換されます。2 人のユーザが同じソフトフォン デバイス名を使用していると、Cisco Unified Personal Communicator はソフトフォン デバイス名を取得できず、そのため正しく機能しなくなります。

関連項目

[「電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加」 \(P.3-16\)](#)

次の操作

[「ユーザ グループへのエンドユーザの割り当て」 \(P.3-9\)](#)

ライン アピアランスへのエンドユーザの関連付け

ライン アピアランスは、特定のデバイスへの特定の回線の関連付けです。単一の回線を複数のデバイスに関連付けることができ、単一のデバイスを複数の回線に関連付けることができます。Cisco Unified Communications Manager リリース 6.x 以降では、1 人のユーザまたは数多くのユーザを回線やデバイスではなく、ライン アピアランスに関連付けることができます。

始める前に

- この手順は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 6.x 以降にだけ適用できます。
- [一括管理] を使用して、ライン アピアランスにユーザをマップできます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [デバイス] > [電話] を選択します。
 - ステップ 2** [検索] をクリックします。
 - ステップ 3** 設定する電話の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
 - ステップ 4** 関連付ける電話番号をクリックします。
 - ステップ 5** [エンドユーザの関連付け] をクリックします。
 - ステップ 6** ライン アピアランスに関連付けるユーザを選択します。
 - ステップ 7** [選択項目の追加] をクリックします。
 - ステップ 8** [保存] をクリックします。
-

次の操作

[「ユーザ グループへのエンドユーザの割り当て」 \(P.3-9\)](#)

ユーザ グループへのエンドユーザの割り当て

始める前に

[「エンドユーザおよび関連するデバイスの追加」 \(P.3-8\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [ユーザ管理] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2 [検索] をクリックします。
- ステップ 3 [Standard CCM End Users] をクリックします。
- ステップ 4 [グループにエンド ユーザを追加] をクリックします。
- ステップ 5 このグループに Cisco Unified Presence ユーザをすべて追加します。
- ステップ 6 [関連リンク] メニューで、[検索/リストに戻る] を選択します。
- ステップ 7 [Standard CTI Enabled] をクリックします。
- ステップ 8 [グループにエンド ユーザを追加] をクリックします。
- ステップ 9 このグループに Cisco Unified Presence ユーザをすべて追加します。

Cisco Unified Communications Manager で SIP トランクを設定する方法

- 「Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定」 (P.3-10)
- 「Cisco Unified Presence の SIP トランクの設定」 (P.3-11)

Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [システム] > [セキュリティ プロファイル (Security Profile)] > [SIP トランク セキュリティ プロファイル (SIP Trunk Security Profile)] を選択します。
- ステップ 2 [検索] をクリックします。
- ステップ 3 [Non Secure SIP Trunk Profile] をクリックします。
- ステップ 4 [デバイス セキュリティ モード (Device Security Mode)] の設定が [非セキュア] であることを確認します。
- ステップ 5 [着信転送タイプ (Incoming Transport Type)] の設定が [TCP+UDP] であることを確認します。
- ステップ 6 [発信転送タイプ (Outgoing Transport Type)] の設定が [TCP] であることを確認します。
- ステップ 7 次の項目をオンにして有効にします。
 - プレゼンス登録の許可 (Accept Presence Subscription)
 - アウトオブダイアログ REFER の許可 (Accept Out-of-dialog REFER)
 - 未承諾 NOTIFY の許可 (Accept Unsolicited Notification)
 - REPLACE ヘッダの許可 (Accept Replaces Header)

ステップ 8 [保存] をクリックします。

次の操作

[「Cisco Unified Presence の SIP トランクの設定」 \(P.3-11\)](#)

Cisco Unified Presence の SIP トランクの設定

始める前に

[「Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定」 \(P.3-10\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページから [デバイス] > [トランク] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3 [トランク タイプ (Trunk Type)] に [SIP トランク (SIP Trunk)] を選択します。
- ステップ 4 [デバイス プロトコル (Device Protocol)] に [SIP] を選択します。
- ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 [デバイス名 (Device Name)] に CUPS-SIP-Trunk と入力します。
- ステップ 7 [デバイス プール (Device Pool)] に [デフォルト (Default)] を選択します。
- ステップ 8 ウィンドウの一番下にある [SIP 情報 (SIP Information)] セクションで、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドに次のように入力します。
my-cups.sip.com
my-cups.sip.com には、Cisco Unified Presence サーバの FQDN を指定します。
- ステップ 9 [接続先ポート (Destination Port)] に「5060」と入力します。
- ステップ 10 [SIP トランク セキュリティ プロファイル (SIP Trunk Security Profile)] で [Non Secure SIP Trunk Profile] を選択します。
- ステップ 11 [SIP プロファイル (SIP Profile)] で [Standard SIP Profile] を選択します。
- ステップ 12 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- この Cisco Unified Communications Manager に関連付けられている Cisco Unified Presence サーバごとに SIP トランクを設定する必要があります。
- このチップは、[Publish SIP trunk] を設定している場合に限り適用できます。Cisco Unified Communications Manager は、SIP トランクのパブリッシュ メッセージ経由で IP デバイス (電話) のプレゼンス状態の変化を送信できます。SIP トランクの宛先アドレスは、SRV レコードまたはポート番号になります。ポート番号または IP アドレスを変更して [Publish SIP trunk] SRV レコードの DNS エントリを修正する場合は、以前にパブリッシュしたデバイスをすべて再起動し、どのデバイスも正しい Cisco Unified Presence 連絡先を指していることを確認する必要があります。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定」 (P.3-10)

Cisco Unified Communications Manager で CTI ゲートウェイを設定する方法

- 「CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザの設定」 (P.3-12)
- 「CTI 対応ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加」 (P.3-12)
- 「アプリケーション ユーザへの CTI デバイス制御の割り当て」 (P.3-13)

CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザの設定

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Administration] > [ユーザ管理] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。
 - ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
 - ステップ 3** [ユーザ ID (User ID)] フィールドにアプリケーション ユーザ名を「CtiGW」というように入力します。
 - ステップ 4** このアプリケーション ユーザのパスワードを入力し、パスワードを確定します。
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

関連項目

- 「CTI インターフェイス」 (P.1-3)
- 「CTI ゲートウェイの有効化」 (P.5-4)

次の操作

「CTI 対応ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加」 (P.3-12)

CTI 対応ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加

始める前に

「CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザの設定」 (P.3-12) の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Administration] > [ユーザ管理] > [ユーザ グループ (User Group)] を選択します。
 - ステップ 2** [検索] をクリックします。
 - ステップ 3** [Standard CTI Enabled] をクリックします。

- ステップ 4 [グループにアプリケーション ユーザを追加] をクリックします。
- ステップ 5 CTI ゲートウェイ用に作成したアプリケーション ユーザを選択します。
- ステップ 6 [選択項目の追加] をクリックします。
- ステップ 7 [保存] をクリックします。

関連項目

- 「CTI インターフェイス」 (P.1-3)
- 「CTI ゲートウェイの有効化」 (P.5-4)

次の操作

「アプリケーション ユーザへの CTI デバイス制御の割り当て」 (P.3-13)

アプリケーション ユーザへの CTI デバイス制御の割り当て

始める前に

「CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザの設定」 (P.3-12) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Administration] > [ユーザ管理] > [ユーザ グループ (User Group)] を選択します。
- ステップ 2 [検索] をクリックします。
- ステップ 3 [Standard CTI Allow Control of All Devices] をクリックします。
- ステップ 4 [グループにアプリケーション ユーザを追加] をクリックします。
- ステップ 5 CTI ゲートウェイ用に作成したアプリケーション ユーザを選択します。
- ステップ 6 [選択項目の追加] をクリックします。
- ステップ 7 [保存] をクリックします。

関連項目

- 「CTI インターフェイス」 (P.1-3)
- 「CTI ゲートウェイの有効化」 (P.5-4)

Cisco Unified Communications Manager で Cisco IP PhoneMessenger サービスを設定する方法

- 「アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定」 (P.3-14)
- 「Cisco IP PhoneMessenger の電話サービスの設定」 (P.3-14)
- 「Cisco IP PhoneMessenger サービスへの電話の登録」 (P.3-15)

アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [ユーザ管理] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3 [ユーザ ID (User ID)] フィールドにアプリケーション ユーザ名を「PhoneMessenger」というように入力します。
- ステップ 4 このアプリケーション ユーザのパスワードを入力し、パスワードを確定します。
- ステップ 5 アプリケーション ユーザに制御させるデバイスを選択します。
- ステップ 6 [保存] をクリックします。

関連項目

[「Cisco IP PhoneMessenger サービスへの電話の登録」 \(P.3-15\)](#)

次の操作

[「Cisco IP PhoneMessenger の電話サービスの設定」 \(P.3-14\)](#)

Cisco IP PhoneMessenger の電話サービスの設定

始める前に

[「アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定」 \(P.3-14\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [デバイス] > [デバイスの設定] > [IP Phone サービス] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3 [サービス名 (Service Name)] フィールドに「PhoneMessenger」と入力します。
- ステップ 4 [サービスの説明 (Service Description)] フィールドに「IP Phone Messenger」と入力します。
- ステップ 5 [サービス URL (Service URL)] フィールドに次の URL を入力します。
`http://my-cups:8081/ippm/default?name=#DEVICENAME#`
my-cups には、DNS が電話で有効になっていない限り、Cisco Unified Presence の IP アドレスを指定します。
- ステップ 6 [サービス カテゴリ (Service Category)] メニューから [XML サービス] を選択します。
- ステップ 7 [サービス タイプ (Service Type)] メニューから [標準 IP Phone サービス] を選択します。
- ステップ 8 [有効 (Enable)] をオンにします。
- ステップ 9 [保存] をクリックします。

関連項目

「アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定」 (P.3-14)

次の操作

「Cisco IP PhoneMessenger サービスへの電話の登録」 (P.3-15)

Cisco IP PhoneMessenger サービスへの電話の登録

始める前に

「Cisco IP PhoneMessenger の電話サービスの設定」 (P.3-14) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] > [デバイス] > [電話] を選択します。
- ステップ 2 [検索] をクリックします。
- ステップ 3 電話デバイスのリンクをクリックして、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにアクセスします。
- ステップ 4 画面右上にある [関連リンク] ナビゲーション ボックスのメニューから [サービスの登録/登録解除] を選択します。
- ステップ 5 [移動] をクリックします。
- ステップ 6 [登録済みの Cisco IP Phone サービス] ウィンドウの [サービスの選択 (Select a Service)] メニューから [Phone Messenger] を選択します。
- ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8 ウィンドウが再表示されたら [登録] をクリックします。
- ステップ 9 ウィンドウが再表示されたら [保存] をクリックします。
- ステップ 10 電話を個別にリセットするか、またはいくつかまとめてリセットします。

関連項目

「アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定」 (P.3-14)

Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Personal Communicator クライアントを 設定する方法

- 「電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加」 (P.3-16)
- 「回線、ユーザ、および電話番号の関連付け」 (P.3-18)
- 「Cisco Unified Personal Communicator でのサイレント動作」 (P.3-18)
- 「エクステンション モビリティの設定」 (P.3-20)
- 「ダイヤル ルールを設定する方法」 (P.3-21)

電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加

Cisco Unified Personal Communicator ソフトフォン機能を有効にするには、ユーザごとに手動で新しいソフトフォン デバイスを作成する必要があります。

制約事項

- Cisco Unified Communications Manager の自動登録機能は、Cisco Unified Personal Communicator とは併用できません。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0(1) 以降では、セカンダリ ソフトフォン デバイスをプライマリ デバイスに関連付けて、デバイスごとにただ 1 つのデバイス ライセンスを消費できます (セカンダリ ライセンスまたは付加ライセンスとも呼ばれます)。Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0(1) よりも前のリリースの場合、3 つのデバイス ライセンスが消費されます。
- 付加ライセンスには次の制限があります。
 - プライマリ電話に最大 2 つのセカンダリ ソフトフォン デバイスに関連付けることができます。
 - 関連付けたセカンダリ ソフトフォン デバイスを削除しない限り、プライマリ電話は削除できません。
 - プライマリ電話は、ほとんどのライセンスを消費するデバイスである必要があります。ソフトフォン デバイスをプライマリ電話にして、それをセカンダリ デバイスとして Cisco Unified IP Phone に関連付けることはできません。
 - セカンダリ ソフトフォン デバイスは、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Unified Mobile Communicator に限られています。

手順

- ステップ 1** [デバイス]>[電話] を選択します。
- ステップ 2** [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** [Cisco Unified Personal Communicator] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [デバイス名] フィールドにソフトフォン デバイス名を指定します。ソフトフォン デバイス名は、次のガイドラインに準拠している必要があります。
 - ユーザ名から生成します。
 - UPC で始めます。
 - 大文字と数字だけを含めます。
 - UPC の後に続く文字は 12 文字以内とします。
 例については、表 3-1 を参照してください。

表 3-1 Cisco Unified Personal Communicator ソフトフォン デバイスのユーザ名変換

Cisco Unified Communications Manager ユーザ名	関連付けられたソフトフォン デバイス名
jjackson	UPCJJACKSON
johnnie_jackson	UPCJOHNNIEJACKS
johnniejackson	UPCJOHNNIEJACKS
john.jackson	UPCJOHNJACKSON



(注) 表 3-1 に示すように、ユーザ名 *johnnie_jackson* および *johnniejackson* は同じソフトフォン デバイス名に変換され、いわゆる衝突が発生します。ソフトフォン デバイス名を設定するときには、衝突を発生させないユーザ名を作成するように留意する必要があります。Cisco Unified Personal Communicator は、ソフトフォン デバイス名を取得できないと、登録が正しく行われず、想定どおりに機能しません。この問題を回避するには、標準のユーザ名以外の名前を使用するようにユーザを再設定することが必要になる場合があります。

- a. [説明 (Description)] フィールドに電話のわかりやすい名前を入力します。たとえば、「Richard のソフトフォン」と入力します。
- b. 使用中の環境に必須のフィールドをすべて設定します。
- c. [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] からユーザ ID を選択します。
- d. プライマリ電話から Cisco Unified Personal Communicator に関連付ける Cisco Unified IP Phone のデバイス名を選択します。
- e. CTI によるこのデバイスの制御および監視を無効にするには、[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] をオフにします。

ステップ 6 [プロトコル固有の情報 (Protocol Specific Information)] セクションに次のように情報を入力します。

フィールド	設定
プレゼンス グループ (Presence Group)	[Standard Presence Group] を選択します。
デバイス セキュリティ プロファイル (Device Security Profile)	[Cisco Unified Personal Communicator - Standard SIP Non-Secure Profile] を選択します。
SIP プロファイル (SIP Profile)	デフォルト SIP プロファイルを指定するには、[Standard SIP Profile] を選択します。SIP プロファイルは、登録、キープアライブ タイマー、メディア ポート、Do Not Disturb 制御など、電話に関する情報の中でも特に SIP 情報を提供するものです。
ダイジェスト ユーザ (Digest User)	ユーザ ID を選択します。これは、[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] で選択したものと同一ユーザ ID です。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

ステップ 8 ページの上部に表示されているステータスが、保存の正常終了を示していることを確認します。

ステップ 9 ウィンドウの左側に表示される [割り当て情報 (Association Information)] ペインで [新規 DN を追加] リンクをクリックします。

ステップ 10 [電話番号情報 (Directory Number Information)] セクションで、Cisco Unified Personal Communicator の電話番号およびルート パーティションを入力します。このユーザの Cisco Unified IP Phone で使用するのと同じものとします。

この設定により、Cisco Unified Personal Communicator はこのユーザの Cisco Unified IP Phone と回線を共有することになります。

ステップ 11 [デバイス *Device-Name*] セクションの回線 1 に [表示 (Display、内線発信者 ID)] を入力します。

ステップ 12 [デバイス <デバイス名> の複数コール/コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device <devicename>)] に次のように情報を入力します。

- a. [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] に Cisco Unified Personal Communicator に提示できる最大コール数として「6」を入力します。

- b. [ビジー トリガー (Busy Trigger)] に、着信コールがビジー信号を受け取るきっかけとなるトリガーを指定します。

この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が設定されている場合に機能します。たとえば、最大コール数を 6 に設定し、ビジー トリガーを 6 に設定した場合、着信コール 7 がビジー信号を受け取ります。

ステップ 13 [保存] をクリックします。

ページの上部に表示されているステータスが保存の正常終了を示し、その結果ステータスが [受信可] になることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager により、回線または電話番号の設定を変更するには再起動が必要であることが示されます。ただし、再起動が必要になるのは、修正時に実行中の Cisco Unified IP Phone で回線を編集する場合に限られます。

関連項目

- 「回線、ユーザ、および電話番号の関連付け」 (P.3-18)
- 「エクステンション モビリティの設定」 (P.3-20)
- 「Cisco Unified Personal Communicator のライセンス要件」 (P.3-3)
- 「ビデオ会議リソースの設定」 (P.B-21)

回線、ユーザ、および電話番号の関連付け

Cisco Unified Personal Communicator の可用性ステータスが正確に表示されるようにするには、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.x でユーザとそのユーザに設定されている回線との間に関連付けが必要になります。

手順

- ステップ 1** [デバイス] > [電話] を選択し、電話番号を検索します。
- ステップ 2** ウィンドウの左側にある [割り当て情報 (Association Information)] セクションで、回線に設定されているリンクをクリックします。
- ステップ 3** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、ページの最下部にスクロールし、ユーザが回線に関連付けられていることを確認します。
- ステップ 4** ユーザがその電話番号に使用するどの電話についても、回線とユーザを関連付けていることを確認します。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法」 (P.3-6)
- 「電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加」 (P.3-16)

Cisco Unified Personal Communicator でのサイレント動作

Cisco Unified Personal Communicator のサイレント機能は、常にユーザ インターフェイスから使用でき、表 3-2 で説明するようにソフトフォンとデスク電話のどちらのモードでもサポートされます。

表 3-2 Cisco Unified Personal Communicator でのサイレント動作

設定	動作
Cisco Unified Personal Communicator がソフトフォンモードで、ユーザによりサイレントに設定	<p>コールを拒否します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザは Cisco Unified Personal Communicator から着信コールに 응답できません。 着信通知が表示されません。 着信コールが、Cisco Unified Personal Communicator の [履歴] ペインに表示されません。 応答がないコールが、Call Forward No Answer (CFNA; コール転送応答なし) ターゲットに方向転換されます。CFNA のデフォルト設定は、Cisco Unified Communications Manager ではボイスメールです。 <p>CFNA ターゲットを設定しないと、着信コールが Cisco Unified Communications Manager によって拒否され、発信者にはビジー トーンが再生されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (シェアドライン) Cisco Unified Personal Communicator が他のデバイスとラインアピアランスを共有している場合は、サイレント コール拒否に設定されていないエンドポイントに着信アラートが送信され、発信者には呼び出し音が再生されます。ラインアピアランスを共有しているすべてのエンドポイントがサイレント コール拒否に設定されている場合は、着信コールが CFNA ターゲットに転送されます。
Cisco Unified Personal Communicator がデスク電話モードで、Cisco Unified Communications Manager ではサイレント コール拒否を設定	<p>Cisco Unified Personal Communicator のサイレント動作は制御 Cisco Unified IP Phone と同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザは、Cisco Unified Personal Communicator から、デスク電話からも、コールに 응답できません。 着信通知が表示されません。 着信コールが、Cisco Unified Personal Communicator の [履歴] ペインに表示されません。 (シェアドライン) Cisco Unified Personal Communicator が他のデバイスとラインアピアランスを共有している場合は、サイレント コール拒否に設定されていないエンドポイントに着信アラートが送信され、発信者には呼び出し音が再生されます。ラインアピアランスを共有しているすべてのエンドポイントがサイレント コール拒否に設定されている場合は、着信コールが Call Forward Busy (CFB; コール転送ビジー) ターゲットに転送されます。
Cisco Unified Personal Communicator がデスク電話モードで、Cisco Unified Communications Manager ではサイレント リンガー オフを設定	<p>Cisco Unified Personal Communicator のサイレント動作は制御 Cisco Unified IP Phone と同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザは、Cisco Unified Personal Communicator から、デスク電話からも、着信コールに 응답できます。どちらの場合も、Cisco Unified Personal Communicator はコール進捗ウィンドウを開いて接続コールステータスを表示します。 着信通知が Cisco Unified Personal Communicator デスク電話制御の下で Cisco Unified IP Phone に音声警告なしで表示され、Cisco Unified Personal Communicator がその着信通知を表示します。コールへの応答がないと、そのコールは CFNA ターゲットに方向転換されます。CFNA が設定されていないと、コールは拒否され、発信者にはビジー トーンが再生されます。 着信コールが、Cisco Unified Personal Communicator とデスク電話通信履歴のどちらにも表示されます。

Cisco Unified Personal Communicator を除き、他のデバイスを特定のユーザに関連付けることもできます。たとえば、Cisco Unified Communications Manager に登録されている IP Phone Messenger や

Cisco Unified IP Phone などのデバイスを特定のユーザに関連付けることができます。

サイレント ステータスが他のデバイスに設定されている場合、Cisco Unified Personal Communicator はそのサイレント ステータスを表示します。同じく、Cisco Unified Presence はサイレント設定を Cisco Unified Personal Communicator からこの Cisco Unified Personal Communicator ユーザに関連付けられている他のデバイスに渡します。

ユーザがサイレント ステータスをクリアすると、エンドポイントを他のユーザと共有している場合でも、Cisco Unified Presence はこのユーザに関連付けられているすべてのエンドポイントからサイレントをクリアします。

関連項目

- サイレントに対応するように Cisco Unified IP Phone を設定する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』を参照してください。
- http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
- Cisco Unified IP Phone モデルによるサイレント機能のサポートについては、特定の電話モデルのアドミニストレーション ガイドを参照してください。
- http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/prod_maintenance_guides_list.html

エクステンション モビリティの設定

ユーザが Cisco Unified IP Phone に一時的にログインし、独自に設定できるようにするには、エクステンション モビリティ機能を使用します。ユーザがログインした後、電話では回線番号、短縮ダイヤル、サービス リンク、その他のユーザ固有の電話プロパティなど、そのユーザのデフォルトのデバイス プロファイル情報が使用されます。

たとえば、ユーザ A がデスクを占有し、電話にログインした場合、電話にはそのユーザの電話番号、サービス、短縮ダイヤルなどのプロパティが表示されます。しかし、A とは違う時間にユーザ B が同じデスクを使用すると、ユーザ B の情報が表示されます。エクステンション モビリティ機能は、現在電話にログインしているユーザに応じて動的に電話を設定します。

エクステンション モビリティを使用すると、Cisco Unified Personal Communicator ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理ページのデフォルトのデスク電話と同じ電話番号がプライマリ回線にあるデスク電話のいずれかにこのアプリケーションを関連付けることができます。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス]>[電話] を選択し、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにアクセスします。
 - ステップ 2** ユーザの電話関連付けリスト (ある場合) からデバイスをすべて削除します。
 - ステップ 3** 『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の Cisco Unified Communications Manager エクステンション モビリティ設定情報に従ってください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
 - ステップ 4** デバイス ユーザ プロファイルを作成する場合は ([デバイス]>[デバイスの設定]>[デバイス プロファイル])、そのプロファイルが CTI から制御可能であることと、回線が CTI から制御可能であることを確認します。
 - ステップ 5** Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加する場合は ([デバイス]>[電話])、その電話が CTI から制御可能であることを確認します。
-

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法」 (P.3-6)

ダイヤル ルールを設定する方法

- 「アプリケーション ダイヤル ルールおよびディレクトリ検索ルール」 (P.3-21)
- 「Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法」 (P.3-21)
- 「アプリケーション ダイヤル ルールの設定」 (P.3-22)
- 「ディレクトリ検索ルールの設定」 (P.3-22)

アプリケーション ダイヤル ルールおよびディレクトリ検索ルール

会社のダイヤル プランおよび LDAP ディレクトリに保存されている情報（ユーザの電話番号）に基づいて、Cisco Unified Communications Manager ルーティング情報管理ページでアプリケーション ダイヤル ルールおよびディレクトリ検索ルールを定義することが必要になる場合があります。

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications Manager に問い合せて、Cisco Unified Personal Communicator のこれらのダイヤル ルールを取得します。

これらのルールでは、Cisco Unified Personal Communicator でディレクトリ検索キーとして使用されるように着信コール ID を再フォーマットする方法と、LDAP ディレクトリから取得した電話番号を発信ダイヤリング用に変換する方法を定義します。

着信番号のプラス文字をサポートするように Cisco Unified Communications Manager リリース 7.0 を設定できます。Cisco Unified Personal Communicator リリース 7.0 は、着信番号からプラス文字を削除しません。リリース 7.0 よりも前の Cisco Unified Personal Communicator リリースは、着信番号からプラス文字を削除します。

着信番号からプラス文字を削除するように Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション ダイヤル ルールを設定することが必要になる場合があります。

関連項目

- 「Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法」 (P.3-21)
- 「アプリケーション ダイヤル ルールの設定」 (P.3-22)
- 「ディレクトリ検索ルールの設定」 (P.3-22)

Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法

Cisco Unified Personal Communicator は、連絡先情報から電話をかける前に、ダイヤルする電話番号から文字と数字以外をすべて削除します。また、文字を数字に変換し、Cisco Unified Presence のダイヤル ルールを適用します。文字と数字のマッピングは、ロケール固有であり、そのロケールの標準の電話機のキーパッドにある文字に対応しています。たとえば、アメリカ英語ロケールの場合、1800-GOTMILK は 18004686455 に変換されます。

Cisco Unified Personal Communicator が変換後の番号を配置しないと、ユーザはその番号を表示したり修正したりできません。変換ミスのために着信番号に問題がある場合は、ダイヤル ルールを修正する必要があります。

ダイヤル ルールの概念およびタスクベースの情報については、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのオンライン ヘルプまたは『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

関連項目

- 「アプリケーションダイヤルルールおよびディレクトリ検索ルール」(P.3-21)
- 「アプリケーションダイヤルルールの設定」(P.3-22)
- 「ディレクトリ検索ルールの設定」(P.3-22)

アプリケーションダイヤルルールの設定

アプリケーションダイヤルルールを適用すると、ユーザがダイヤルする電話番号に対して数字の追加と削除が自動的に行われます。たとえば、7桁の電話番号の先頭に自動的に9を追加して外線にアクセスするように、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでダイヤルルールを設定できます。アプリケーションダイヤルルールは、Cisco Unified Personal Communicator からダイヤルされる数字を操作するのに使用します。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング]>[ダイヤルルール]>[アプリケーションダイヤルルール]を選択します。
- ステップ 2** このページのオンラインヘルプに従ってダイヤルルールを設定するか、または『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
-

関連項目

- 「アプリケーションダイヤルルールおよびディレクトリ検索ルール」(P.3-21)
- 「Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法」(P.3-21)
- 「ディレクトリ検索ルールの設定」(P.3-22)

ディレクトリ検索ルールの設定

ディレクトリ検索ルールは、発信者識別番号を Cisco Unified Personal Communicator のディレクトリで検索できる数字に変換します。各ルールには、先頭の数字および番号の長さに基づいてどの数字を変換するかを指定します。たとえば、10桁の電話番号から市外局番と2桁の局番を自動的に削除するように、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでディレクトリ検索ルールを作成できます。このルールを適用すると、4089023139 は 23139 に変換されます。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング]>[ダイヤルルール]>[ディレクトリ検索ダイヤルルール]を選択します。
- ステップ 2** このページのオンラインヘルプに従ってルールを設定するか、または『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
-

関連項目

- 「アプリケーションダイヤルルールおよびディレクトリ検索ルール」(P.3-21)
- 「Cisco Unified Personal Communicator での着信番号の変換方法」(P.3-21)

- 「アプリケーション ダイアル ルールの設定」 (P.3-22)

必要なサービスが実行されていることの確認

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] > [ツール] > [コントロール センタ - Feature Services] を選択します。
- ステップ 2** [コントロール センタ - Feature Services] ウィンドウのドロップダウン リストから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** [コントロール センタ - Feature Services] ウィンドウが再表示されたら、次のサービスが実行中であることを確認します。
- Cisco Communications Manager
 - Cisco TFTP
 - Cisco Extension Mobility
 - Cisco Communications Manager Cisco IP Phone サービス
 - Cisco AXL Web サービス
-

■ 必要なサービスが実行されていることの確認



CHAPTER 4

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間のセキュ リティの設定

- 「セキュリティを設定するための前提条件」 (P.4-1)
- 「証明書交換を設定する方法」 (P.4-1)
- 「Cisco Unified Presence で TLS 設定を設定する方法」 (P.4-4)

セキュリティを設定するための前提条件

この章で説明するセキュリティ設定以外に、Cisco Unified Communications Manager サーバで次の事項も設定されていることを確認してください。

- 「Cisco Unified Presence の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定」 (P.3-10)
- 「必要なサービスが実行されていることの確認」 (P.3-23)

証明書交換を設定する方法

ここでは、Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco Unified Presence サーバとの間で自己署名証明書を交換する方法について説明します。

- 「Cisco Unified Communications Manager からの証明書のダウンロード」 (P.4-2)
- 「Cisco Unified Presence からの証明書のダウンロード」 (P.4-2)
- 「Cisco Unified Presence への Cisco Unified Communications Manager 証明書のアップロード」 (P.4-2)
- 「SIP プロキシ サービスの再起動」 (P.4-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager への Cisco Unified Presence 証明書のアップロード」 (P.4-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager サービスの再起動」 (P.4-4)

Cisco Unified Communications Manager からの証明書のダウンロード

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager サーバ上で Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページにログインします。
 - ステップ 2 [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
 - ステップ 3 [検索] をクリックして、証明書を一覧表示します。
 - ステップ 4 CallManager.der ファイルをクリックします。
 - ステップ 5 [ダウンロード] をクリックして、ローカル コンピュータにファイルを保存します。
-

次の操作

[「Cisco Unified Presence からの証明書のダウンロード」\(P.4-2\)](#)

Cisco Unified Presence からの証明書のダウンロード

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Presence サーバ上で Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページにログインします。
 - ステップ 2 [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
 - ステップ 3 [検索] をクリックして、証明書を一覧表示します。
 - ステップ 4 sipproxypem ファイルをクリックします。
 - ステップ 5 [ダウンロード] をクリックして、ローカル コンピュータにファイルを保存します。
-

トラブルシューティングのヒント

sipproxycsr ファイルへのアクセスに関してエラーが表示されても無視してください。
Cisco Unified Communications Manager と交換する証明書には Certificate Authority (CA; 認証局) の署名は必要ありません。

次の操作

[「Cisco Unified Presence への Cisco Unified Communications Manager 証明書のアップロード」\(P.4-2\)](#)

Cisco Unified Presence への Cisco Unified Communications Manager 証明書のアップロード

始める前に

[「Cisco Unified Communications Manager からの証明書のダウンロード」\(P.4-2\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Presence サーバ上で Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページにログインします。
- ステップ 2 [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
- ステップ 3 [証明書のアップロード (Upload Certificate)] をクリックします。
- ステップ 4 [証明書の名前 (Certificate Name)] メニューから [sipproxy-trus] を選択します。
- ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager からダウンロードした証明書 (.der ファイル) を参照し、選択します。
- ステップ 6 [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

次の操作

[「SIP プロキシ サービスの再起動」 \(P.4-3\)](#)

SIP プロキシ サービスの再起動

始める前に

[「Cisco Unified Presence への Cisco Unified Communications Manager 証明書のアップロード」 \(P.4-2\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Presence サーバ上で Cisco Unified Serviceability にログインします。
- ステップ 2 [ツール] > [コントロール センタ - Feature Services] を選択します。
- ステップ 3 [Cisco UP SIP プロキシ] を選択します。
- ステップ 4 [リスタート] をクリックします。

次の操作

[「Cisco Unified Communications Manager への Cisco Unified Presence 証明書のアップロード」 \(P.4-3\)](#)

Cisco Unified Communications Manager への Cisco Unified Presence 証明書のアップロード

始める前に

[「Cisco Unified Presence からの証明書のダウンロード」 \(P.4-2\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager サーバ上で Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページにログインします。

- ステップ 2 [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
- ステップ 3 [証明書のアップロード (Upload Certificate)] をクリックします。
- ステップ 4 [証明書の名前 (Certificate Name)] メニューから [Callmanager-trust] を選択します。
- ステップ 5 Cisco Unified Presence から以前にダウンロードした証明書 (.pem ファイル) を参照し、選択します。
- ステップ 6 [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

次の操作

「Cisco Unified Communications Manager サービスの再起動」(P.4-4)

Cisco Unified Communications Manager サービスの再起動

始める前に

「Cisco Unified Communications Manager への Cisco Unified Presence 証明書のアップロード」(P.4-3) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager サーバ上で Cisco Unified Serviceability にログインします。
- ステップ 2 [ツール] > [コントロール センタ - Feature Services] を選択します。
- ステップ 3 [Cisco CallManager] の横にあるオプション ボタンを選択します。
- ステップ 4 [リスタート] をクリックします。

次の操作

「Cisco Unified Presence で TLS 設定を設定する方法」(P.4-4)

Cisco Unified Presence で TLS 設定を設定する方法

- 「TLS ピア サブジェクトの設定」(P.4-4)
- 「TLS コンテキストの設定」(P.4-5)



(注)

自己署名証明書をインポートすると、TLS ピア サブジェクトが自動的に作成されます。

TLS ピア サブジェクトの設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [セキュリティ] > [TLS ピア サブジェクト] を選択します。

- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** ピア サブジェクト名に対して次の手順のいずれかを実行します。
- a. サーバが提示する証明書のサブジェクト CN を入力します。
 - b. 証明書を開き、CN を探してここに貼り付けます。
- ステップ 4** [説明] フィールドにサーバの名前を入力します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

次の操作

[「TLS コンテキストの設定」\(P.4-5\)](#)

TLS コンテキストの設定

始める前に

[「TLS ピア サブジェクトの設定」\(P.4-4\)](#) の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [セキュリティ] > [TLS コンテキスト設定] を選択します。
- ステップ 2** [検索] をクリックします。
- ステップ 3** [Default_Cisco_UPS_SIP_Proxy_Peer_Auth_TLS_Context] をクリックします。
- ステップ 4** 使用可能な TLS ピア サブジェクトのリストから、設定した TLS ピア サブジェクトをクリックします。
- ステップ 5** この TLS ピア サブジェクトを [選択された TLS ピア サブジェクト (Selected TLS Peer Subjects)] に移動します。
- ステップ 6** [保存] をクリックします。
- ステップ 7** [Cisco Unified Presence のサービスアビリティ] > [ツール] > [Service Activation] を選択します。
- ステップ 8** Cisco Unified Presence SIP プロキシ サービスを再起動します。
-

トラブルシューティングのヒント

TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。



CHAPTER 5

ネットワークで展開するための Cisco Unified Presence の設定

- 「システム トポロジ」 (P.5-1)
- 「ライセンス ファイルのアップロード」 (P.5-1)
- 「プレゼンス ゲートウェイを設定する方法」 (P.5-2)
- 「プロキシ サーバ設定の設定」 (P.5-3)
- 「CTI ゲートウェイの有効化」 (P.5-4)
- 「Cisco IP PhoneMessenger 設定の設定」 (P.5-4)
- 「Cisco Unified Presence サービスをアクティブにする方法」 (P.5-4)
- 「クラスタ間ピアを設定する方法」 (P.5-6)

システム トポロジ

Cisco Unified Presence スケーラビリティ拡張機能の概要、および Cisco Unified Presence 展開のスケラビリティに関する推奨事項については、「[Cisco Unified Presence のスケラビリティ](#)」 (P.2-1) を参照してください。

Cisco Unified Presence の管理 GUI でシステム トポロジを設定する手順については、『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

関連項目

[「システム トポロジ管理 GUI について」](#) (P.2-8)

ライセンス ファイルのアップロード

始める前に

Cisco Unified Presence Server の新規インストール用のライセンス ファイルを取得する必要があります。ライセンスを取得する方法、およびライセンスをアップロードする方法の詳細については、『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence アプリケーションのライセンスを行使するライセンス ファイルをアップロードする必要があります。Cisco Unified Presence クラスタの第 1 ノードにだけライセンス ファイルをアップロードしてください。ライセンス ファイルには、クラスタ内でお客様がライセンスを持つ Cisco Unified Presence Server の数が記載されています。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [ライセンス] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] を選択します。
- ステップ 2** [アップロード] をクリックします。
- ステップ 3** ローカル コンピュータ上でファイルを検索します。
- ステップ 4** [アップロード] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

ライセンス ファイルには、必ず *.lic* という接尾辞が付きます。

関連項目

[「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 \(P.3-2\)](#)

次の操作

[「プレゼンス ゲートウェイを設定する方法」 \(P.5-2\)](#)

プレゼンス ゲートウェイを設定する方法

- [「プレゼンス ゲートウェイ設定オプション」 \(P.5-2\)](#)
- [「プレゼンス ゲートウェイの設定」 \(P.5-3\)](#)

プレゼンス ゲートウェイ設定オプション

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間のプレゼンス情報交換を処理する SIP 接続を有効にするには、Cisco Unified Presence で Cisco Unified Communications Manager をプレゼンス ゲートウェイとして設定する必要があります。Cisco Unified Presence Server は、SIP トランク経由で SIP サブスクライブ メッセージを Cisco Unified Communications Manager に送信します。この SIP トランクにより、Cisco Unified Presence Server はプレゼンス情報（電話のオン/オフフック ステータスなど）を受信できるようになります。

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Presence Server をアプリケーション サーバとして追加し、Cisco Unified Presence Server 用に SIP トランクを設定する必要があります。

プレゼンス ゲートウェイを設定するときは、関連付ける Cisco Unified Communications Manager サーバの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) または IP アドレスを指定する必要があります。この値は、使用中のネットワークに応じて次のいずれかになります。

- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの FQDN アドレス
- Cisco Unified Communications Manager サブスクライバ ノードに解決される DNS SRV FQDN
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレス

DNS SRV がオプションである場合は、(重み付けが等しい) Unified CM サブスクライバの DNS SRV FQDN が設定された Cisco Unified Presence Server でプレゼンス ゲートウェイを設定します。これにより、プレゼンス情報交換に使用する全サーバでプレゼンス メッセージングを等しく共有できます。

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Presence パブリッシャおよびサブスクライバの DNS SRV FQDN が設定された Cisco Unified Presence Server 用に SIP トランクを設定する必要があります。

DNS SRV がオプションでなく、関連付ける Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスを使用する場合は、その IP アドレスが単一のサブスクライバ ノードを指すため、複数のサブスクライバ ノード間でプレゼンス メッセージング トラフィックを等しく分散させることができません。

プレゼンス ゲートウェイの設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理] > [プレゼンス] > [ゲートウェイ] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3 [プレゼンス ゲートウェイ タイプ (Presence Gateway Type)] で [CUCM] を選択します。
- ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドにプレゼンス ゲートウェイの説明を入力します。
- ステップ 5 [プレゼンス ゲートウェイ] フィールドに、関連付ける Cisco Unified Communications Manager サーバの FQDN、DNS SRV FQDN、または IP アドレスを指定します。
- ステップ 6 [保存] をクリックします。

関連項目

- [「Cisco Unified Presence の SIP トランクの設定」 \(P.3-11\)](#)

次の操作

[「プロキシ サーバ設定の設定」 \(P.5-3\)](#)

プロキシ サーバ設定の設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理] > [プレゼンス] > [ルーティング] > [設定] を選択します。
- ステップ 2 [メソッド/イベント ルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)] で [オン] を選択します。
- ステップ 3 [優先プロキシ リスナー] で [Default SIP Proxy TCP Listener] を選択します。
- ステップ 4 [保存] をクリックします。

次の操作

[「CTI ゲートウェイの有効化」 \(P.5-4\)](#)

CTI ゲートウェイの有効化

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理] > [アプリケーション] > [固定電話制御] > [設定] を選択します。
- ステップ 2 [アプリケーションのステータス (Application Status)] メニューから [オン] を選択します。
- ステップ 3 CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ名とパスワードを入力します。
- ステップ 4 ハートビート間隔の値 (秒単位) を入力します。これは、CTI 接続を監視するために Cisco Unified Presence から Cisco Unified Communications Manager ノードに送信されるハートビートメッセージの間隔です。
- ステップ 5 セッション間隔の値 (秒単位) を入力します。これは、Cisco Unified Presence から Cisco Unified Communications Manager ノードに送信されるハートビートメッセージの間隔です。
- ステップ 6 必要に応じて、CTI 接続を確立する各 Cisco Unified Communications Manager ノードの IP アドレスを入力します。最大 8 つの Cisco Unified Communications Manager ノードと CTI 接続を設定できます。
- ステップ 7 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

CTI ゲートウェイを有効にする必要があります。[アプリケーションのステータス (Application Status)] の値はデフォルトでは [オフ] になっています。

関連項目

- 「[CTI インターフェイス](#)」 (P.1-3)
- 「[Cisco Unified Communications Manager で CTI ゲートウェイを設定する方法](#)」 (P.3-12)

Cisco IP PhoneMessenger 設定の設定

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理] > [アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] を選択します。
- ステップ 2 アプリケーション パスワードは、関連付ける Cisco Unified Communications Manager サーバでの Cisco IP PhoneMessenger アプリケーション ユーザ パスワードと同じものにします。
- ステップ 3 [保存] をクリックします。

関連項目

「[アプリケーション ユーザとしての Cisco IP PhoneMessenger の設定](#)」 (P.3-14)

Cisco Unified Presence サービスをアクティブにする方法

- 「[プロキシサービスのアクティブ化](#)」 (P.5-5)

- 「同期エージェントのアクティブ化」(P.5-5)
- 「Cisco Unified Presence サービスのアクティブ化」(P.5-6)

同期エージェントのアクティブ化

始める前に

- 同期エージェントを起動する前に、使用中の展開に合わせて Cisco Unified Presence システム トポロジを設定する必要があります。
- Cisco Unified Presence とともに Cisco Unified Personal Communicator クライアントを展開し、ユーザに対してシステムレベルのデフォルトのアプリケーション プロファイル (LDAP、CTI ゲートウェイ、ボイスメール、会議プロファイル) を設定している場合は、同期エージェントをアクティブにする前に、デフォルトプロファイルを設定し、有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] を選択します。
 - ステップ 2** [サーバ] メニューから Cisco Unified Presence Server を選択します。
 - ステップ 3** [サービス] メニューからサーバとして [Cisco UP Sync Agent] を選択します。
 - ステップ 4** [User Assignment Mode] の値を次のように選択します。
 - [Balanced] に設定した場合、同期エージェントは Cisco Unified Presence にユーザ情報を同期化し、全ノードにユーザ割り当てが均等に分散するようにトポロジの各ノードにユーザを割り当てます。
 - [なし] に設定した場合、ユーザ情報は同期化されますが、ユーザは割り当てられません。ユーザの割り当ては、システム トポロジ GUI を使用して手動で実行できます。
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

関連項目

- 「システム トポロジ」(P.5-1)
- 「Cisco Unified Personal Communicator と統合するための Cisco Unified Presence の設定」(P.6-1)

次の操作

「プロキシ サービスのアクティブ化」(P.5-5)

プロキシ サービスのアクティブ化

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] > [システム] > [サービス パラメータ] を選択します。
 - ステップ 2** [サーバ] メニューから Cisco Unified Presence Server を選択します。
 - ステップ 3** Cisco UP SIP プロキシ サーバをチェックします。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

次の操作

[「Cisco Unified Presence サービスのアクティブ化」 \(P.5-6\)](#)

Cisco Unified Presence サービスのアクティブ化

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence のサービスアビリティ] > [ツール] > [Service Activation] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ] メニューから Cisco Unified Presence Server を選択します。
- ステップ 3** アクティブにするサービスを選択します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
-

クラスタ間ピアを設定する方法

- [「クラスタ間ピアの設定」 \(P.5-6\)](#)
- [「クラスタ間同期エージェントのアクティブ化」 \(P.5-7\)](#)

クラスタ間ピアの設定

始める前に

Cisco Unified Presence はデフォルトでは、AXL 権限を持つクラスタ間アプリケーション ユーザを作成します。この手順を実行するには、Cisco Unified Presence ピア サーバでクラスタ間アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードが必要になります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] > [プレゼンス] > [ゲートウェイ] を選択します。
- ステップ 2** ピア アドレスとして、リモート Cisco Unified Presence クラスタのパブリッシャ ノードの IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** Cisco Unified Presence ピア サーバで AXL 権限を持つアプリケーション ユーザのユーザ名を入力します。
- ステップ 4** Cisco Unified Presence ピア サーバで AXL 権限を持つアプリケーション ユーザのパスワードを入力します。
- ステップ 5** SIP 通信の優先プロトコルを入力します。
- ステップ 6** (オプション) [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] の値を入力します。これは、リモート クラスタから取得された電話番号に適用する E164 マスクです。
-

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence ピア サーバでは、AXL インターフェイスがアクティブになっている必要があります。
- ローカル クラスタとのピア関係を構築するリモート Cisco Unified Presence クラスタごとにこの手順を実行します。
- ネットワークで DNS が使用可能である場合、クラスタ間ピアに設定するアドレスを、リモートの Cisco Unified Presence クラスタ ノードに解決される DNS SRV FQDN にすることができます。

関連項目

[「クラスタ間展開」 \(P.2-2\)](#)

次の操作

[「クラスタ間同期エージェントのアクティブ化」 \(P.5-7\)](#)

クラスタ間同期エージェントのアクティブ化

Cisco Unified Presence はデフォルトでは Intercluster Sync Agent パラメータをアクティブにします。Intercluster Sync Agent パラメータがアクティブになっていることを確認するか、またはこのパラメータを手動でアクティブにするには、この手順を使用します。

Intercluster Sync Agent は、次の処理のために AXL/SOAP インターフェイスを使用します。

- ユーザが（ローカル クラスタ上の）ローカル ユーザであるか、それとも同じドメイン内のリモート Cisco Unified Presence クラスタ上のユーザであるかを Cisco Unified Presence が判断できるように、エンドユーザ情報を取得します。
- ユーザがクラスタにローカルなユーザに変更されたことをリモート Cisco Unified Presence クラスタに通知します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence のサービスアビリティ]> [ツール]> [コントロール センタ - Network Services] を選択します。
 - ステップ 2** [サーバ] メニューから Cisco Unified Presence Server を選択します。
 - ステップ 3** [Cisco UP Intercluster Sync Agent] をクリックします。
 - ステップ 4** [開始] をクリックします。
-

関連項目

- [「クラスタ間ピアの設定」 \(P.5-6\)](#)
- [「クラスタ間展開」 \(P.2-2\)](#)



CHAPTER 6

Cisco Unified Personal Communicator と統合するための Cisco Unified Presence の設定

- 「この統合の要件」 (P.6-1)
- 「LDAP サーバの設定」 (P.6-1)
- 「Cisco Unified Personal Communicator に Cisco Unified Presence を設定する方法」 (P.6-2)
- 「Cisco Unified Personal Communicator トラフィックを通すためのファイアウォールの設定」 (P.6-19)
- 「ポイントツーポイント ビデオ コールおよびマルチポイント ビデオ会議に対応するためのユーザの設定」 (P.6-19)

この統合の要件

この統合手順では、ネットワークが次の条件を満たしていると想定しています。

- Cisco Unified Presence が正しくインストールされ、設定されている。
 - 「Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator とを統合するための Cisco Unified Communications Manager の設定」 (P.3-1)
 - 「ネットワークで展開するための Cisco Unified Presence の設定」 (P.5-1)
- Cisco Unified Personal Communicator が正しくインストールされ、Cisco Unified Communications Manager およびそれ以外の必須のサーバと統合されている。
 - 「Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator とを統合するための Cisco Unified Communications Manager の設定」 (P.3-1)

関連項目

「Cisco Unified Personal Communicator の推奨サーバの設定」 (P.B-1)

LDAP サーバの設定

LDAP ディレクトリは、ディレクトリ検索経由で連絡先の情報を提供するために Cisco Unified Personal Communicator を操作します。

始める前に

- サポート対象の LDAP ディレクトリ サーバを購入します。Cisco Unified Personal Communicator のサポート対象の LDAP ディレクトリ サーバの詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- Cisco Unified Presence で LDAP 固有の設定を施す前に、LDAP サーバがインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ 1 製造業者から提供された手順に従って、サーバおよびソフトウェアをインストールします。

ステップ 2 LDAP サーバを設定し、Cisco Unified Communications Manager で LDAP 認証を有効にします。



(注)

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence が Secure Sockets Layer (SSL) を使用して LDAP サーバと通信するには、[LDAP サーバ] 設定ウィンドウで [SSL を使用 (Use SSL)] をオンにします。

ステップ 3 LDAP サーバと Cisco Unified Presence との間のセキュリティ証明書を設定します。Cisco Unified Presence で LDAP セキュリティ証明書をディレクトリ信頼証明書としてアップロードする必要があります。

ステップ 4 Cisco Unified Presence で Tomcat サービスを再起動します。

関連項目

- 「LDAP 設定を設定する方法」(P.6-6)
- 「証明書交換を設定する方法」(P.4-1)

次の操作

「Cisco Unified Personal Communicator に Cisco Unified Presence を設定する方法」(P.6-2)

Cisco Unified Personal Communicator に Cisco Unified Presence を設定する方法

- 「ノードの設定」(P.6-3) (必須)
- 「プロキシ リスナーの選択」(P.6-3) (必須)
- 「TFTP サーバアドレスの指定」(P.6-4) (必須)
- 「LDAP 設定を設定する方法」(P.6-6) (必須)
- 「CTI ゲートウェイ設定を設定する方法」(P.6-12) (必須)
- 「アプリケーション プロファイルを変更する方法」(P.6-16)
- 「インスタント メッセージングのグローバルな無効化」(P.6-18)
- 「連絡先リストの最大サイズの設定」(P.6-18)

ノードの設定

以前のリリースでは2つのノードまでに限られていたクラスタの制限を超えて Cisco Unified Presence サーバの数を増やし、単一の Cisco Unified Presence クラスタ内の全ユーザにプレゼンス サービスを提供できます。ノードを使用する場合は、次の機能を使用できます。

- プライマリ ノードからセカンダリ ノードへの自動フェールオーバー : Cisco Unified Personal Communicator がユーザのプライマリ ノードに到達できない場合は、クライアント ソフトウェアが自動的にセカンダリ Cisco Unified Presence サーバをフェールオーバー ノードとして使用します。
- ユーザが非ホーム ノードにログインしようとした場合の自動リダイレクト : Cisco Unified Personal Communicator ユーザが非ホーム ノードにログインしようとする、Cisco Unified Presence 非ホーム ノードが正しいホーム ノードアドレスを含むリダイレクト応答を送信します。Cisco Unified Personal Communicator は、ユーザに代わって自動的にプライマリ ノードにログインします。
- ユーザがオフラインのときにユーザのホームを別のサブクラスタに変更します。Cisco Unified Personal Communicator は、ユーザの介入なしでホーム サブクラスタ内の新しいノードに切り替わります。
- ログインしているユーザのホームを変更します。Cisco Unified Personal Communicator は、新しいホーム サブクラスタに対して登録、パブリッシュ、およびサブスクライブを行います。この移行中、インスタントメッセージ機能、ユーザ ステータス、および連絡先リスト ステータスは一時的に使用できなくなることがあります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページ ([システム] > [トポロジ]) で、サブクラスタを作成し、そのサブクラスタにプライマリ ノードおよびセカンダリ ノードを関連付けます。
- ステップ 2** サブクラスタのノードに各 Cisco Unified Personal Communicator ユーザをユーザのホーム ノードまたはプライマリ ノードとして割り当てます。サブクラスタの他のノードは、冗長性を確保するためのフェールオーバー ノードになります。このサブクラスタの組み合わせは、パーティションのロードシェアリング/バランシングと冗長性を確保するものとなります。
-

関連項目

[「マルチノードのスケラビリティ機能」 \(P.2-3\)](#)

プロキシ リスナーの選択

Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unified Communications Manager または他のサーバと通信するプロキシ サーバに対して SIP メッセージを送受信します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定] を選択して、設定ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** プロキシ リスナーに対して [Default Cisco SIP Proxy TCP Listener] を選択します。
- この設定にすると、Cisco Unified Personal Communicator が TCP を使用してプロキシ サーバと通信します。



(注) 連絡先リストが大きくなると Cisco Unified Personal Communicator リストに記載された連絡先の可用性情報が使用できなくなることがあるため、[Default Cisco SIP Proxy TCP Listener] は選択しないでください。また、インターネット経由の VPN など損失も珍しくないネットワーク経由で接続しているときには、可用性情報が使用できなくなることがあります。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

ステップ 4 Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence との間でやり取りされる可用性関連のメッセージがすべて TCP を使用することを確認してください。

- a. [システム] > [サービス パラメータ] の順に選択します。
- b. [サーバ (Server)] から Cisco Unified Presence サーバを選択します。
- c. [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでサービスとして [Cisco UP SIP プロキシ] を選択します。
- d. [SIP Parameters (Clusterwide)] セクションで [Use Transport in Record-Route Header] を [オン] に設定します。
これで、レコードルート ヘッダーにトランスポート パラメータを使用するようにプロキシが設定されます。
- e. [保存] をクリックします。

関連項目

- 「TFTP サーバ アドレスの指定」(P.6-4)

TFTP サーバ アドレスの指定

Cisco Unified Presence の管理ページで TFTP サーバ アドレスを指定する必要があります。Cisco Unified Personal Communicator は、起動時に、いったん一時停止してから再開し、ドロップしたネットワーク接続を再確立するため、プライマリ TFTP サーバ (Cisco Unified Presence からアドレスを取得します) に接続します。接続が確立されると、Cisco Unified Personal Communicator は各ユーザの Cisco Unified Communications Manager から `UPCusername.cnf.xml` 設定ファイルをダウンロードします。

この設定ファイルには、Cisco Unified Communications Manager プライマリ サーバとフェールオーバー サーバのアドレス、および Cisco Unified Personal Communicator が Cisco Unified Communications Manager に接続するのにソフトフォン モードで使用する転送プロトコルを記載したリストがあります。

ファイルのダウンロードが正常に終了すると、設定情報が他の Cisco Unified Personal Communicator サブシステムで使用可能になり、Cisco Unified Personal Communicator が TFTP サーバから切断されます。

Cisco Unified Personal Communicator は設定ファイルをダウンロードしようとするたびに、プライマリ TFTP サーバに問い合わせようとします。プライマリ TFTP サーバが応答しない場合、Cisco Unified Personal Communicator はバックアップ TFTP サーバが存在すればそのサーバにフェールオーバーします。Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unified Presence の管理ページに指定されている順にバックアップ TFTP サーバにフェールオーバーします。

どの TFTP サーバ接続も失敗すると、Cisco Unified Personal Communicator は次の場所から最後にダウンロードした有効な設定をロードしようとします。

- Windows XP の場合：ドライブ:\Documents and Settings\ユーザ名\AppData\Cisco\Unified Personal Communicator
- Windows Vista の場合：ドライブ:\Users\ユーザ名\AppData\Local\Cisco\Unified Personal Communicator

ローカル ファイルのロードが正常に終了すると、Cisco Unified Personal Communicator は警告通知 (黄色のインジケータ) で [サーバの状態] ウィンドウを更新します。ファイル転送が失敗し、ファイルが存在しない場合、Cisco Unified Personal Communicator は障害通知で [サーバの状態] ウィンドウを更新し、使用不可モードに切り替わります。

始める前に

- サポート対象の Cisco Unified Presence リリースを使用していることを確認します。次のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- TFTP サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。

制約事項

次の Cisco Unified Communications Manager フェールオーバー制限が Cisco Unified Personal Communicator に適用されます。

- 自動登録はサポートされません。
- Cisco Unified Personal Communicator は、設定ファイルをダウンロードしようとするときに、設定済の TFTP サーバにフェールオーバーします。また、バックアップ TFTP サーバからファイルをダウンロードしようとします。
- Cisco Unified Personal Communicator ソフトウェアでは、TFTP 経由の自動更新およびアップグレードはサポートされません。

手順

-
- | | |
|---------------|--|
| ステップ 1 | [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定] を選択して、設定ウィンドウを表示します。 |
| ステップ 2 | プライマリ (必須) およびバックアップ (オプション) の TFTP サーバのアドレスをそれぞれ所定のフィールドに割り当てます。IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力できます。 |
| ステップ 3 | [保存] をクリックします。 |
-

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Personal Communicator の [サーバヘルス] ウィンドウで TFTP サーバアドレスを参照できます (Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示])。

LDAP 設定を設定する方法

- 「LDAP 属性マップの設定」(P.6-6)
- 「連絡先名の表示に関する規則」(P.6-7)
- 「Web サーバからの連絡先画像のフェッチ」(P.6-8)
- 「LDAP サーバの名前とアドレスの指定」(P.6-9)
- 「LDAP プロファイルの作成」(P.6-10)

LDAP 属性マップの設定

Cisco Unified Presence の管理ページで LDAP 属性マップを設定する必要があります。使用中の環境の LDAP 属性を入力し、所定の Cisco Unified Personal Communicator 属性にマップします。

始める前に

- Cisco Unified Presence の管理ページで LDAP 属性マップを設定する前に、LDAP サーバをインストールし、セットアップします。
- デフォルトでは、Cisco Unified Personal Communicator は Windows 2003 Active Directory スキーマにある *jpegPhoto* LDAP 属性を使用します。一方、Windows 2000 Active Directory は *thumbnailPhoto* 属性を使用します。

制約事項

- LDAP 属性マップの UPC UserID 設定は、Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID と一致する必要があります。このマッピングを機能させるには、LDAP での連絡先を Cisco Unified Personal Communicator の連絡先リストに追加する必要があります。このフィールドによって、LDAP ユーザが Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence の対応するユーザに関連付けられます。
- LDAP フィールドは、ただ 1 つの Cisco Unified Personal Communicator フィールドとだけ対にすることができます。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定] を選択して、設定ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** ディレクトリ サーバ タイプからサポート対象の LDAP サーバを選択します。LDAP サーバは、LDAP 属性マップに Cisco Unified Personal Communicator ユーザ フィールドおよび LDAP ユーザ フィールドを入力します。
 - ステップ 3** 必要に応じて、特定の LDAP ディレクトリと一致するように LDAP フィールドに変更を加えます。値はどの LDAP サーバ ホストにもグローバルとなります。
 - ステップ 4** Microsoft Active Directory と統合している場合は、次のマッピングで LDAP 属性マップをセットアップします。
 - LastName = SN
 - UserID = sAMAccountName
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

- 現在の属性マッピングを使用するのを止めて、工場出荷時のデフォルト設定を使用するには、[デフォルトに戻す] をクリックします。
- Cisco Unified Personal Communicator の [サーバヘルス] ウィンドウで LDAP 属性マッピングを参照できます (Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示])。
- LDAP 検索の高速化については、Cisco Unified Personal Communicator のトラブルシューティングガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_troubleshooting_guides_list.html

関連項目

- 「LDAP 属性マップの設定」 (P.6-6)
- 「Web サーバからの連絡先画像のフェッチ」 (P.6-8)
- 「LDAP サーバの名前とアドレスの指定」 (P.6-9)

連絡先名の表示に関する規則

次の規則によって、名前を連絡先として Cisco Unified Personal Communicator にどのように表示するかが決まります。

- ユーザが Cisco Unified Personal Communicator で連絡先名を編集する場合は、この名前を表示します。これは、Cisco Unified Presence の Nickname LDAP 属性です。
- DisplayName の LDAP ユーザ フィールドを設定した場合は、この名前を表示します。
- Nickname の LDAP ユーザ フィールドを設定した場合は、この名前と姓を表示します。
- それ以外の場合、[連絡先] ペインの姓名に設定済の LDAP ユーザ フィールドを表示します。名だけで姓がない場合は、名を表示します。姓だけで名がない場合は、姓を表示します。
- FirstName および LastName に対応する LDAP ユーザ フィールドを設定していない場合は、[連絡先] ペインの LDAP UserID または Cisco Unified Presence ユーザ ID を表示します。
- ユーザは、非 LDAP 連絡先を追加する場合、Cisco Unified Personal Communicator の連絡先詳細を使用して [表示名] の名前、名、および姓を編集できます。

関連項目

- 「LDAP 属性マップの設定」 (P.6-6)
- 「LDAP サーバの名前とアドレスの指定」 (P.6-9)

Web サーバからの連絡先画像のフェッチ

Cisco Unified Personal Communicator が LDAP サーバではなく Web サーバから画像をフェッチできるように、Cisco Unified Presence の管理ページで LDAP 属性マップの [写真] フィールドにパラメータ化された URL を設定できます。

始める前に

- `%%uid%%` を置換文字列として使用します。
一意にユーザの画像を識別するデータをクエリ値に含めた LDAP 属性を使用できます。次に例を示します。
 - `http://wwwin.cisco.com/photo/std/%%uid%%.jpg`
 - `http://wwwin.cisco.com/photo/std/%%sAMAccountName%%.jpg` (ActiveDirectory の場合)
- 2 つ並んだパーセント記号は必須であり、置換する LDAP 属性の名前を囲むのに使用する必要があります。

制約事項

- URL の長さは、Cisco Unified Presence の管理ページで 50 文字に制限されています。この問題に対処するには、<http://tinyurl.com> から短縮した URL を取得します。たとえば、`http://wwwin.cisco.com/dir/photo/std` は `http://tinyurl.com/2rwkf9` にマップされます。これで 11 文字が節約され、Cisco Unified Presence の管理ページに「`http://tinyurl.com/2rwkf9/%%sAMAccountName%%`」と入力できます。
- この置換技術が機能するのは、Cisco Unified Personal Communicator がクエリ結果を使用でき、それを前記のテンプレートに挿入して、JPG 画像をフェッチするように働く URL を生成できる場合に限られます。社内で画像を搭載している Web サーバが、POST を必要する場合（たとえば、ユーザの名前は URL にない場合）や、ユーザ名ではなく画像のクッキー名（たとえば、`http://www.../1234.jpg`）を使用する場合、この置換技術は機能しません。Cisco Unified Personal Communicator は、このクエリに対する認証をサポートしません。画像は、資格情報なしで Web サーバから取得可能である必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定] を選択して、設定ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** LDAP 属性マップで、[写真] フィールドにパラメータ化された URL を設定します。`%%uid%%` を置換文字列として使用します。
 - ステップ 3** [保存] をクリックします。

Cisco Unified Personal Communicator は、パーセント記号を削除し、パーセント記号で囲んでいたパラメータを、ユーザの画像取得のために実行した LDAP クエリの結果に置き換えます。

たとえば、クエリ結果に属性「uid」と値「johndoe」が含まれている場合、`http://mycompany.com/photos/%%uid%%.jpg` などのテンプレートによって、`http://mycompany.com/photos/johndoe.jpg` という URL が作成されます。Cisco Unified Personal Communicator は画像をフェッチしようとします。

関連項目

- 「LDAP 属性マップの設定」 (P.6-6)
- 「LDAP サーバの名前とアドレスの指定」 (P.6-9)

LDAP サーバの名前とアドレスの指定

Cisco Unified Presence の管理ページで LDAP サーバ名、アドレス、ポート、およびプロトコルタイプを指定して、Cisco Unified Personal Communicator が該当するサーバを操作できるようにする必要があります。

始める前に

LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。

制約事項

Cisco Unified Personal Communicator でフェールオーバーをサポートするために Cisco Unified Presence の管理ページで複数の LDAP サーバを指定している場合、そのサーバはどれも同じタイプ（Microsoft Active Directory、Netscape、または Sun One Directory）である必要があります。LDAP 属性スキーマは、どのサーバでも同じである必要があります。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、サーバを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	サーバ名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) サーバの説明を入力します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。
ポート (Port)	LDAP サーバが使用するポート番号を指定します。デフォルト値は 389 です。 この情報については、LDAP サーバのドキュメンテーションまたは LDAP サーバの設定をチェックしてください。 Microsoft Active Directory と統合しており、サーバがグローバル カタログである場合は、ポート番号として「3268」を入力します。 (注) jpegPhoto 属性は、Microsoft Active Directory グローバル カタログサーバでは使用できず、インデックスが付けられません (http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/ms676813.aspx)。LDAP 設定でグローバル カタログ ポート 3268 を使用すると、jpegPhoto を取得できなくなります。その代わりに、Cisco Unified Presence の管理ページでの設定を TCP およびポート 389 に変更します。画像は、再度 Cisco Unified Personal Communicator にログインするときに取得されます。
プロトコルタイプ	[TCP] を選択します。 Microsoft Active Directory と統合しており、サーバがグローバル カタログである場合は、[TCP] を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- アプリケーションダイヤル規則が設定されている場合、連絡先に電話をかけるときと連絡先の詳細画面に画像が表示されるようにするには、Cisco Unified Communications Manager に適切なディレクトリ ルックアップダイヤル規則を作成します。Cisco Unified Personal Communicator で連絡先を追加するとき、ディレクトリ ルックアップから 10 桁の番号（たとえば、1234567890）が返されます。ユーザが 4 桁だけ（たとえば、7890）をダイヤルして電話をかける場合は、7890 が 1234567890 に一致しないため、画像は表示されません。この問題を修正するには、次の規則を作成します。
 - 市外局番を削除する発信規則。画像は、連絡先の詳細画面に表示されます。
 - 市外局番をプレフィックスとして付加するディレクトリ ルックアップの着信規則（4 桁の内線番号を Active Directory に保存されている 10 桁の DID 番号に変換します）。画像は電話をかけたときに表示されます。
- Cisco Unified Personal Communicator の [サーバヘルス] ウィンドウで LDAP サーバ情報を参照できます（Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示]）。

関連項目

- 「LDAP 属性マップの設定」(P.6-6)
- 「LDAP プロファイルの作成」(P.6-10)

LDAP プロファイルの作成

LDAP ディレクトリを検索するための LDAP ディレクトリ設定およびコンテキスト情報を指定するには、Cisco Unified Presence の管理ページで LDAP プロファイルを作成する必要があります。LDAP プロファイルでは、冗長性を確保するためにプライマリ サーバとバックアップ サーバを割り当てることができます。

Cisco Unified Personal Communicator は、検索のたびに LDAP サーバに接続します。プライマリ サーバへの接続が失敗した場合、Cisco Unified Personal Communicator は最初のバックアップ LDAP サーバへの接続を試みます。それが使用できない場合は、2 番目のバックアップ サーバを試みます。また、Cisco Unified Personal Communicator は定期的にプライマリ LDAP サーバに復帰しようとします。セカンダリ サーバへのフェールオーバーの発生時に処理中の LDAP クエリがあると、そのクエリは次に使用可能なサーバで処理されます。

[サーバヘルス] ウィンドウ (Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示]) で、接続ステータス情報が更新されます。Cisco Unified Personal Communicator がどの LDAP サーバにも接続できない場合は、[サーバヘルス - すべて] ウィンドウに障害が報告されます。

始める前に

- この手順で LDAP サーバの名前とアドレスを選択するには、まず [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ] でその名前とアドレスを指定する必要があります。
- Cisco Unified Personal Communicator ライセンスを持つユーザをアプリケーション プロファイルに追加するには、まず LDAP プロファイルを作成する必要があります。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル] を選択します。

ステップ 2 [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、サーバを新規に追加します。

ステップ 3 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	プロファイル名を 128 文字内で入力します。
説明 (Description)	(オプション) 説明を 128 文字内で入力します。
バインド識別名 (DN)	(オプション) 管理者レベルのアカウント情報を 128 文字内で入力します。これは、バインドの認証のためにバインドしている識別名です。 このフィールドの構文は、展開する LDAP サーバのタイプによって異なります。詳細については、LDAP サーバのドキュメンテーションを参照してください。
Anonymous バインド (Anonymous Bind)	(オプション) ユーザ資格情報を使用してこの LDAP サーバにログインするには、このオプションをオフにします。 Anonymous 以外のバインド操作の場合、Cisco Unified Personal Communicator は一組の資格情報を受け取ります。これらの資格情報は、バックアップ LDAP サーバで有効にする必要があります (バックアップ LDAP サーバを設定している場合)。 (注) [Anonymous バインド (Anonymous Bind)] をオンにすると、ユーザが匿名のまま LDAP サーバに読み取り専用アクセスでログインできます。匿名アクセスは、ディレクトリ サーバで許可してもかまいませんが、お勧めしません。その代わりに、検索対象のユーザが配置されているのと同じコンテナに対して読み取り専用権限を持つユーザを作成します。Cisco Unified Personal Communicator が使用できるように、Cisco Unified Presence にディレクトリ番号およびパスワードを指定します。
パスワード (Password)	(オプション) LDAP バインドのパスワードを 128 文字内で入力します。これは、ユーザにこの LDAP サーバへのアクセスを許可する [バインド識別名 (DN)] フィールドに指定した管理者レベルのアカウントのパスワードです。
パスワードの確認 (Confirm Password)	[パスワード (Password)] フィールドに入力したものと同一パスワードを入力します。 (オプション) LDAP サーバとのバインドを認証するように Cisco Unified Presence を設定した後、匿名の権限および匿名のログインに対応するように LDAP サーバを設定して、ディレクトリ情報 (名前、電話番号、メール、Fax、自宅電話番号など) がすべて Cisco Unified Personal Communicator クライアントに渡されるようにします。
検索コンテキスト (Search Context)	(オプション) LDAP ユーザ全員が設定されている場所を入力します。この場所はコンテナまたはディレクトリです。その名前を 256 文字内で入力します。1 つの OU/LDAP 検索コンテキストだけがサポートされます。 (注) Microsoft Active Directory と統合している場合は、次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • O および OU を設定します (OU にはユーザを含める必要があります。たとえば、ou=users,dc=cisco,dc=com とします)。 たとえば、cn=users,DC=EFT-LA,DC=cisco,DC=com とします。 • 検索ベースには、Cisco Unified Personal Communicator のユーザ全員が含まれている必要があります。

フィールド	設定
再帰検索 (Recursive Search)	(オプション) 検索ベースから始まるディレクトリの再帰検索を実行するにはオンにします。
プライマリ LDAP サーバ (Primary LDAP Server) およびバックアップ LDAP サーバ (Backup LDAP Server)	プライマリ LDAP サーバおよびオプションのバックアップ サーバを選択します。
これをシステムのデフォルト LDAP プロファイルに設定します。(Make This the Default LDAP Profile for the System) (注) リリース 6.x では使用できないオプションです。	(オプション) システムに新規に追加されたユーザがこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されるようにします。 Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence にすでに同期化されているユーザは、このデフォルト プロファイルに追加されません。ただし、デフォルト プロファイルを作成した場合は、その後で同期化されたユーザがすべてそのデフォルト プロファイルに追加されることとなります。
プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)	[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。 [検索] をクリックして検索結果フィールドに値を入力するか、または特定のユーザを検索してから [検索] をクリックします。 対応するチェックボックスをオンにしてユーザを選択し、[選択項目の追加] をクリックしてこのプロファイルにユーザを追加します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Personal Communicator の [サーバヘルス] ウィンドウで LDAP プロファイル情報を参照できます (Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示])。

関連項目

- 「アプリケーション プロファイルを変更する方法」(P.6-16)

CTI ゲートウェイ設定を設定する方法

- 「CTI ゲートウェイ サーバの名前とアドレスの指定」(P.6-13)
- 「デスク電話モードのフェールオーバーおよびリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」(P.6-15)

CTI ゲートウェイ サーバの名前とアドレスの指定

Cisco Unified Communications Manager の CTIManager コンポーネントである CTI ゲートウェイは、Cisco Unified Personal Communicator ユーザにデスク電話制御（電話アソシエーション モード）を提供します。CTIManager サービスは、Cisco Unified Communications Manager のインストール時にインストールされます。

ユーザが Cisco Unified Personal Communicator にログインしたときに CTI ゲートウェイ サーバに到達するための情報をダウンロードできるように、Cisco Unified Presence Administration リリース 7.0 で CTI ゲートウェイ サーバの名前、アドレス、ポート、およびプロトコル タイプを指定する必要があります。

始める前に

- 以前に Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム] > [サーバ] メニューで IP アドレスとともに Cisco Unified Communications Manager を設定した場合、Cisco Unified Presence はそのアドレスの TCP ベースの CTI ゲートウェイ ホスト プロファイルを自動的に作成します。Cisco Unified Presence の管理ページのフィールド ([アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ]) には自動的に値が入力されます。この手順を実行する必要はありません。
- CTI ゲートウェイのホスト名または IP アドレスを取得します。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、サーバを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	サーバ名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) サーバの説明を入力します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	CTI サービスを実行している Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。
ポート (Port)	2748 を入力します。
プロトコル タイプ	[TCP] を選択します。

- ステップ 4** [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Personal Communicator の [サーバヘルス] ウィンドウで CTI ゲートウェイ情報を参照できます (Windows の場合、[ヘルプ] > [サーバヘルスの表示])。

関連項目

- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」 (P.6-15)
- 「デスク電話モードのフェールオーバーおよびリカバリ」 (P.6-14)

- 「CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ」(P.6-14)

デスク電話モードのフェールオーバーおよびリカバリ

Cisco Unified Personal Communicator がデスク電話モードで動作しているときに Cisco Unified Communications Manager への CTI 接続が失われた場合は、まずプライマリ サーバへの再接続が試みられ、その後バックアップ サーバへの接続が試みられます。接続の試みがラウンドロビン ベースで続けられ、もう一度プライマリ サーバが試されます。接続を再確立するまで、サーバへの再接続が 4、8、16、32、および 60 秒（最大）の間隔で連続して試されます。

関連項目

- 「CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」(P.6-15)

CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ

CTI 接続が失敗し、コールが存在しない場合は、次の処理が実行されます。

- Cisco Unified Personal Communicator が、次に使用可能な CTI サーバへの再接続を試みます。
- 接続が確立されるまで、Cisco Unified Personal Communicator ユーザは Cisco Unified Personal Communicator 経由で新しいコールを開始できません。Cisco Unified Personal Communicator 経由で新しい着信コールが通知されません。
- ユーザは、デスク電話を手動で制御して、コールの発信と受信を行います。
- Cisco Unified Personal Communicator が CTI サーバのいずれかに再接続すると、Cisco Unified Personal Communicator ユーザは再度 Cisco Unified Personal Communicator 経由で新しいコールを制御および監視できるようになります。

関連項目

- 「CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ」(P.6-14)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」(P.6-15)

CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ

CTI 接続が失敗し、1 つ以上のコールが存在する場合は、次の処理が実行されます。

- Cisco Unified Personal Communicator が、次に使用可能な CTI サーバへの再接続を試みます。
- 既存のコールは影響を受けませんが、ユーザは Cisco Unified Personal Communicator 経由での制御を失い、コール状態の更新情報または変更情報を受信しなくなります。既存の Cisco Unified Personal Communicator セッション ウィンドウがすべて閉じられます。
- ユーザは、物理的な電話を手動で制御して、コールの発信と受信を行います。
- Cisco Unified Personal Communicator は CTI サーバのいずれかに再接続すると、コールごとに新しいセッション ウィンドウを開き、現在の状態を表示します。
- Cisco Unified Personal Communicator は、ユーザが Cisco Unified Personal Communicator を再起動するまで（プライマリかバックアップかに関係なく）現在のサーバに接続したままとなります。また、接続障害が発生したときにも、現在のサーバに再接続されます。

関連項目

- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」 (P.6-15)

CTI ゲートウェイ プロファイルの作成

Cisco Unified Presence の管理ページで CTI ゲートウェイ プロファイルを作成し、冗長性を確保するためプライマリ サーバおよびバックアップ サーバを割り当てる必要があります。

始める前に

- Cisco Unified Personal Communicator ライセンスを持つユーザをアプリケーション プロファイルに追加するには、まず CTI ゲートウェイ プロファイルを作成する必要があります。
- この手順で CTI ゲートウェイ サーバをプライマリ サーバまたはバックアップ サーバとして選択するには、まず [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ] でその名前とアドレスを指定する必要があります。
- Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications Manager のホスト名に基づいて TCP ベースの CTI ゲートウェイ プロファイルを動的に作成します。このプロファイルを使用する前に、Cisco Unified Presence および Cisco Unified Personal Communicator クライアントが DNS 名で Cisco Unified Communications Manager に ping を実行できることを確認してください。目的のサーバに問い合わせることができない場合は、Cisco Unified Presence の管理ページ ([アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ]) で Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを追加する必要があります。自動的に作成されたホスト プロファイルを削除する必要はありません。
- 以前に Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム] > [サーバ] メニューで IP アドレスとともに Cisco Unified Communications Manager を設定した場合、Cisco Unified Presence はそのアドレスに基づいて TCP ベースの CTI ゲートウェイ プロファイルを動的に作成します。Cisco Unified Presence の管理ページ ([アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル]) のフィールドには自動的に値が入力されるため、作成されるデフォルト CTI TCP プロファイルにユーザを追加するだけで済みます (手順 4 を参照)。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、プロファイルを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	プロファイル名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) プロファイルの説明を入力します。
プライマリ CTI ゲートウェイ サーバ (Primary CTI Gateway Server) およびバックアップ CTI ゲートウェイサーバ (Backup CTI Gateway Server)	プライマリ サーバおよびバックアップ サーバを選択します。

フィールド	設定
これをシステムのデフォルト CTI ゲートウェイプロファイルに設定します。 (Make this the Default CTI Gateway Profile for the System)	(リリース 6.x では使用不可。オプション) システムに新規に追加されたユーザがこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されるようにします。 Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence にすでに同期化されているユーザは、このデフォルト プロファイルに追加されません。ただし、デフォルト プロファイルを作成した場合は、その後で同期化されたユーザがすべてそのデフォルト プロファイルに追加されることになります。
プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)	このボタンをクリックした後、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを使用してユーザの検索と選択を行います。[選択項目の追加] をクリックして、プロファイルにユーザを追加します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

関連項目

- 「デスク電話モードのフェールオーバーおよびリカバリ」 (P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在しない場合のリカバリ」 (P.6-14)
- 「CTI 接続障害およびコールが存在する場合のリカバリ」 (P.6-14)
- 「アプリケーション プロファイルを変更する方法」 (P.6-16)

アプリケーション プロファイルを変更する方法

アプリケーション プロファイルを使用すると、パフォーマンスおよびスケーラビリティを確保するために Cisco Unified Personal Communicator ユーザ ベースを分割できます。ユーザごとにアプリケーション プロファイルを変更できます。

アプリケーション プロファイルは必須ではありません。Cisco Unified Personal Communicator ユーザによっては、ボイスメール プロファイルや会議プロファイルが必要ない場合もあります。この場合、ドロップダウンの選択肢には [なし] と表示されます。

以降のセクションの説明に従ってユーザ設定を変更するには、まずサーバ プロファイルを作成する必要があります。

- 「プロキシ リスナーの選択」 (P.6-3)
- 「LDAP プロファイルの作成」 (P.6-10)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの作成」 (P.6-15)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」 (P.B-11)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成」 (P.B-20)

アプリケーション プロファイルを変更する方法については、次の各セクションを参照してください。

- 「単独のユーザのアプリケーション プロファイルの変更」 (P.6-17)
- 「複数のユーザのアプリケーション プロファイルの変更」 (P.6-17)

単独のユーザのアプリケーション プロファイルの変更

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ユーザ設定] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウで [検索] をクリックして検索結果フィールドに値を入力するか、またはユーザを検索してから [検索] をクリックします。
- ステップ 3** リンクをクリックして、ユーザを選択します。
- ステップ 4** (リリース 6.x だけ、オプション) [CTI コントロール情報 (CTI Control Information)] セクションのドロップダウン リストから優先 CTI デバイスをユーザに割り当てます。
- 優先 CTI デバイスは、ユーザがデスク電話モードのときに制御するプライマリ デスク電話の MAC アドレス (SEPxxxxxxxxxxxx 形式) です。
- ユーザが Cisco Unified Personal Communicator で優先デバイスを指定していない場合、Cisco Unified Presence の管理ページに優先 CTI デバイスとして指定しているデバイスが使用されます。これらのオプションのいずれも指定していない場合、Cisco Unified Personal Communicator は Cisco Unified Communications Manager でユーザに関連付けられている最初の CTI 対応電話を選択します。
- ステップ 5** [アプリケーション プロファイルの設定 (Application Profile Configuration)] セクションでユーザの変更対象のプロファイルを指定します。
- このウィンドウでユーザ アプリケーション プロファイルを変更した場合 (たとえば、LDAP プロファイル 1 から LDAP プロファイル 2 への変更)、変更内容は [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル (LDAP Profile)] ウィンドウに反映されます。
- 特定のサーバにユーザのアプリケーション プロファイルがない場合は、[なし (None)] を選択してください。
- ステップ 6** [保存] をクリックします。
-

複数のユーザのアプリケーション プロファイルの変更

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [一括管理] > [CUPC/MOC] > [エクスポート] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザ クエリのエクスポート (Export Users Query)] ウィンドウの [検索] をクリックして、ユーザ全員を検索して現在のプロファイル情報を取得します。
- ステップ 3** ウィンドウの下部にある [次へ] をクリックします。
- ステップ 4** [CUP ユーザのエクスポート (Export CUP Users Configuration)] ウィンドウでエクスポートするファイル名を指定します。
- ステップ 5** [一括管理] > [ファイルのアップロード/ダウンロード] の順に選択します。
- ステップ 6** ダウンロードするファイルを探し、選択します。
- ステップ 7** [選択項目のダウンロード] をクリックします。
- ステップ 8** サンプル ファイルの手順に従って、プロファイル名を追加または削除します。
- ステップ 9** [一括管理] > [ファイルのアップロード/ダウンロード] の順に選択します。
- ステップ 10** [新規追加] をクリックします。

ステップ 11 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
ファイル (File)	アップロードするファイルの名前を入力します。
ターゲットの選択 (Select The Target)	ファイルを使用するターゲットを選択します。
トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)	ファイルに定義しているトランザクションタイプを選択します。
ファイルが存在する場合は上書きする。(Overwrite File if it exists)	同名の既存のファイルを上書きする場合は、このオプションをオンにします。

ステップ 12 [一括管理] > [CUPC/MOC] > [更新] を選択します。

ステップ 13 更新した .csv ファイルを選択します。

ステップ 14 [保存] をクリックして、プロファイル情報を一括で更新するファイルを送信します。

インスタントメッセージングのグローバルな無効化

Cisco Unified Presence の管理ページでクラスタ全体でインスタントメッセージングを無効にできます。インスタントメッセージングを無効にすると、Cisco Unified Personal Communicator で [インスタントメッセージの送信] オプションが使用できなくなります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理ページで [プレゼンス] > [設定] を選択します。

ステップ 2 [インスタントメッセージを有効にする] を選択解除します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

連絡先リストの最大サイズの設定

制限事項

この設定は、Cisco Unified Presence リリース 6.x では使用できません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理ページで [プレゼンス] > [設定] を選択します。

ステップ 2 [連絡先リストの最大サイズ (ユーザごと)] に 0 から 200 までの数値を入力します。

この設定では、Cisco Unified Personal Communicator と IP Phone Messenger のどちらでも保持できる連絡先の最大数を指定します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

Cisco Unified Personal Communicator トラフィックを通すためのファイアウォールの設定

ファイアウォールは、ネットワークに出入りする特定のインターネット トラフィックをブロックする働きをし、企業や教育機関でセキュリティを高めるためによく使用されます。

インターネット トラフィックは、ポートと呼ばれるサービス識別番号に基づいてファイアウォールを通過します。Cisco Unified Personal Communicator を機能させるには、特定のポートを開いておく必要があります。ネットワーク管理者は通常、最小限の数のネットワーク ポートを開いて、承認済のアプリケーションのトラフィックにはネットワークへの出入りを許可し、それ以外のネットワーク トラフィックはブロックします。

始める前に

リリース ノートで Cisco Unified Personal Communicator が使用するネットワーク ポートに関する情報に目を通してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

手順

- ステップ 1** ユーザが各自のコンピュータにソフトウェア ファイアウォールをインストールしているかどうか、または Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator とをつなぐネットワークにハードウェア ファイアウォールがあるかどうかを確認します。
- ステップ 2** Cisco Unified Personal Communicator トラフィックを通すようにファイアウォールを設定します。
この手順の実行に失敗すると、Cisco Unified Personal Communicator に可用性ステータスが表示されなくなるか、正しく表示されなくなるか、または断続的に表示されるようになります。

ポイントツーポイント ビデオ コールおよびマルチポイント ビデオ会議に対応するためのユーザの設定

手順

- ステップ 1** (ポイントツーポイント ビデオ コールの場合) ソフトフォンを使用するようにユーザを設定します。
- ステップ 2** (マルチポイント ビデオ会議の場合) Cisco Unified Personal Communicator ソフトフォン ユーザが電話会議 (相手 3 名以上) を音声とビデオのサポートとマージできるようにする場合は、まずビデオ会議リソースを設定する必要があります。
- ステップ 3** Cisco Unified Personal Communicator での使用がサポートされている Video Telephony (VT; ビデオテレフォニー) カメラを配布します。
カメラ ドライバ インストーラは、Cisco VT カメラに付属していません。インストーラを配布する必要があります。

- 新規インストールの場合は次の指示に従ってください。
 - ユーザがインストールを実行する場合は、カメラ、カメラ ドライバ インストーラ、および ユーザ ガイドを配布します。
 - ユーザがすでにサポート対象のカメラを保有している場合は、ドライバを配布しないでください。
- サポート対象のカメラの詳細については、次のリリース ノートを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

ステップ 4 インストールを完了するために適切なドキュメンテーションをユーザに提供します。

- 『*User Guide for Cisco Unified Personal Communicator*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html
 - 『*Cisco VT Camera Quick Start Guide*』 (Windows ベースのコンピュータで使用する場合)
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5662/prod_installation_guides_list.html
 - サードパーティ USB ビデオ カメラ : 製造業者からドキュメンテーションを提供します。
-



CHAPTER 7

Cisco Unified Personal Communicator の展開と更新

- 「アプリケーションを展開する方法」 (P.7-1)
- 「アプリケーションのインストール」 (P.7-4)
- 「アプリケーションの更新」 (P.7-4)
- 「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストールと設定」 (P.7-5)
- 「Cisco Unified Personal Communicator でのサードパーティ製のヘッドセットの使用」 (P.7-5)
- 「ユーザーに提供する情報」 (P.7-6)

アプリケーションを展開する方法

- 「インストーラ パッケージの名前」 (P.7-1)
- 「ソフトウェア ダウンロード サイト」 (P.7-2)
- 「Mac OS 環境でのアプリケーションの展開」 (P.7-3)
- 「Microsoft Windows 環境でのアプリケーションおよびカメラ ドライバの展開」 (P.7-3)

インストーラ パッケージの名前

Cisco Unified Personal Communicator を展開するには、次のインストーラ パッケージを使用します。

ファイル名	説明
CiscoUnifiedPersonalCommunicatorSetupK9_XXX ¹ .exe	この実行可能ファイルには、展開に必要な Windows インストーラ エンジン、Outlook プラグイン、ユーザ インターフェイス、および関連する DLL ² のセットが含まれています。 このパッケージは、通常、個々のユーザがアプリケーションをインストールする場合に使用します。
CiscoVTCameraDriverSetup.exe	この実行可能ファイルには、Cisco VT Camera および Cisco VT Camera II のデバイス ドライバのインストーラが含まれています。英語以外の言語が使用できる場合、ユーザは言語を選択するように求められます。

■ アプリケーションを展開する方法

ファイル名	説明
CiscoUnifiedPersonalCommunicatorSetupK9_XXX.msi	Microsoft Windows Installer (MSI; Microsoft Windows インストーラ) には、展開に必要な Outlook プラグイン、ユーザ インターフェイス、および関連する DLL のセットが含まれています。 このパッケージは、通常、IT 管理者が企業展開ツール (たとえば、Altiris、Systems Management Server (SMS)、Active Directory) でユーザにインストールをプッシュする場合に使用します。
CiscoVTCameraDriverSetup.msi	この MSI パッケージには、Cisco VT Camera および Cisco VT Camera II のデバイス ドライバのインストーラが含まれています。英語以外の言語の場合、言語ロケールをインストールするには、ロケール .mst ファイルを TRANSFORMS パラメータに関連付けます。
CiscoUnifiedPersonalCommunicator-K9_ENU.dmg CiscoUnifiedPersonalCommunicator-K9_ALL.dmg	このパッケージは、Mac OS X 向けアプリケーションのディスク イメージ (.dmg) です。 ENU はアメリカ英語だけのパッケージです。 ALL はアメリカ英語およびローカライズされた言語です。

1. XXX = 3 文字の言語ロケール
2. DLL = ダイナミック リンク ライブラリ



(注)

ローカライズしたソフトウェアは、英語版のリリースの後にリリースされます。更新版の有無については、シスコの Web サイトで確認してください。

関連項目

- 「ソフトウェア ダウンロード サイト」(P.7-2)

ソフトウェア ダウンロード サイト

ソフトウェア ダウンロード サイトにアクセスするには、Cisco.com でアカウントを登録する必要があります。ダウンロード サイトでは、インストーラ パッケージが .zip ファイルとして提供されています。 .zip ファイルには、アプリケーションおよびカメラ ドライバを展開するのに必要なファイルがすべて含まれています。

ソフトウェア ダウンロード サイトは次の URL にあります。

<http://www.cisco.com/public/sw-center/sw-voice.shtml>

関連項目

- 「インストーラ パッケージの名前」(P.7-1)
- 「Mac OS 環境でのアプリケーションの展開」(P.7-3)
- 「Microsoft Windows 環境でのアプリケーションおよびカメラ ドライバの展開」(P.7-3)

Mac OS 環境でのアプリケーションの展開

手順

- ステップ 1** Mac OS 環境で Cisco.com からディスク イメージ (.dmg) をダウンロードします。
- ステップ 2** そのディスク イメージを、ユーザがダウンロードできるように、内部サーバに置きます。また、内部配布用に CD にディスク イメージを焼き付けることもできます。
- ステップ 3** Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドの手順に従って Cisco Unified Personal Communicator のインストールを完了するようにユーザに要求します。
- http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html

関連項目

- 「アプリケーションのインストール」 (P.7-4)
- 「アプリケーションの更新」 (P.7-4)
- 「ユーザに提供する情報」 (P.7-6)

Microsoft Windows 環境でのアプリケーションおよびカメラ ドライバの展開

制限事項

Cisco Unified Personal Communicator では、管理者がデスクトップに配置したアイコンをユーザが開いてアプリケーションをインストールするという展開のアドバイジングまたはパブリッシュがサポートされていません。

手順

操作の目的	操作
ユーザがアクセス可能な共有の場所 (Web サーバなど) に実行可能ファイルまたは MSI パッケージを展開します。	ユーザがインストーラを実行し、インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了できるように、昇格した権限でインストーラをプッシュします。
クライアント コンピュータに直接実行可能ファイルまたは MSI パッケージを展開します。	ユーザがインストーラを実行し、インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了できるように、昇格した権限でインストーラをプッシュします。 または 管理者としてログインしている間に、クライアント コンピュータで直接インストール操作を実行します。
ソフトウェア展開ツールを使用して、クライアント コンピュータに Cisco Unified Personal Communicator およびカメラ ドライバを配布します。	ユーザがインストーラを実行し、インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了できるように、昇格した権限でインストーラをプッシュします。



(注)

ローカライズしたカメラ ドライバ ソフトウェアは、英語版のリリースの後にリリースされます。更新版の有無については、シスコの Web サイトで確認してください。

関連項目

- 「アプリケーションのインストール」(P.7-4)
- 「アプリケーションの更新」(P.7-4)
- 「ユーザに提供する情報」(P.7-6)

アプリケーションのインストール

アプリケーションおよびカメラ ドライバ (Windows だけ) をインストールする方法の詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html

アプリケーションの更新

始める前に

ソフトウェア ダウンロード サイトにアクセスできるように Cisco.com でアカウントを登録します。

制約事項

Windows 環境では、アップグレードでコマンドライン オプションがサポートされていません。新規インストールでだけサポートされます。

手順

-
- ステップ 1** Software Center から最新の Cisco Unified Personal Communicator ソフトウェアをダウンロードします。
<http://www.cisco.com/public/sw-center/sw-voice.shtml>
- ステップ 2** Windows の場合は、Software Center から Cisco VT カメラ ドライバもダウンロードします。
- ステップ 3** 更新されたソフトウェアを展開します。
- ステップ 4** Mac OS の場合は、ごみ箱にアプリケーション アイコンをドラッグして、Cisco Unified Personal Communicator の以前のバージョンをアンインストールするようにユーザに要求します。
アドレス帳プラグインをごみ箱にドラッグするようにユーザに要求します。詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html
- ステップ 5** Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドの手順に従ってアプリケーションをアップグレードするようにユーザに要求します。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html
-

関連項目

- 「Mac OS 環境でのアプリケーションの展開」(P.7-3)
- 「Microsoft Windows 環境でのアプリケーションおよびカメラ ドライバの展開」(P.7-3)

ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストールと設定

サウンドカードや USB ヘッドセットなど、ドライバを必要とするオーディオ デバイスをインストールし、設定します。ヘッドセットに付属のヘッドセット手順に従ってください。

オーディオ デバイスおよびコントロール パネルの設定方法については、Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html

サポート対象のヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの詳細については、リリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

関連項目

- 「Cisco Unified Personal Communicator でのサードパーティ製のヘッドセットの使用」(P.7-5)

Cisco Unified Personal Communicator でのサードパーティ製のヘッドセットの使用

シスコでは Cisco Unified Personal Communicator アプリケーションでのサードパーティ製ヘッドセットの動作について基本的なテストを行っていますが、ご使用の環境でヘッドセットをテストして適切なパフォーマンスが得られることを確認するのは、最終的にはお客様の責任となります。このアプリケーションの展開場所に応じて環境およびハードウェアがさまざまに異なるため、どの環境にも最適なただ1つのソリューションというものはありません。

ネットワークにヘッドセットを展開する前に（特に展開する数が多い場合）、ハムやエコーなど音声品質の問題が発生しないか、お客様のサイトで徹底的にテストすることをお勧めします。

ヘッドセットのサポートがインストールに適さない主な理由に、ハムが聞こえるというものがあります。このようなハムは、リモートの相手に聞こえる場合と、リモートの相手とこのアプリケーションユーザのどちらにも聞こえる場合があります。このハム音の原因には、コンピュータの近くにある電灯やコンピュータ自体の電源など、さまざまなものが考えられます。コンピュータの Universal Serial Bus (USB; ユニバーサル シリアル バス) ポートに直接つないだヘッドセットで聞こえたハムが、コンピュータから受電する USB ハブを使用すると、減少したり、まったく聞こえなくなったりすることがあります。

また、ヘッドセットの力学または電子工学的な要素が原因となって、Cisco Unified Personal Communicator ユーザと会話したときにリモートの相手に本人のエコーが聞こえることもあります。このアプリケーション ユーザにはそのエコーが聞こえません。

最後に、アナログ ヘッドセットの中には、サウンドカードが対応する電気的特性と一致しないものもあります。このようなヘッドセットのマイクロホンは、Cisco Unified Personal Communicator の入力レベルをそのヘッドセットの最小値まで小さくしても、感度がよすぎることがよくあります。このようなヘッドセットのユーザの声は、リモートの相手に歪んでいるように聞こえます。

特定のヘッドセットでよく聞こえるかどうかを Cisco Unified Personal Communicator ユーザに確認することが重要です。また、リモートの相手に、特定のヘッドセットを使用した場合のこのアプリケーションからの受信状況について確認してください。

関連項目

- 「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストールと設定」(P.7-5)

ユーザに提供する情報

Cisco Unified Personal Communicator を展開した後、次の表に記載されている情報をユーザに提供します。

提供する情報	説明	インストールするユーザへの提供	展開担当者がインストールした場合のユーザへの提供
クライアントのハードウェアおよびソフトウェアの要件に関する情報。	リリース ノートからこの情報をコピーできます。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html	はい	はい
Cisco Unified Personal Communicator とカメラ ドライバのインストーラの場所。	共有フォルダまたは CD で実行可能ファイルを提供します。	はい	いいえ
アプリケーションをインストールし、セットアップするための手順。	Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドを提供します。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html インストールとセットアップについては、最初の章に目を通すようにユーザに指示します。	はい	いいえ
ログイン情報。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ名。 • パスワード。 • Cisco Unified Presence のホスト名または IP アドレス。 	はい	はい
Cisco Unified Communications Manager のライセンスで利用できるユーザ機能 (プレゼンス、インスタント メッセージング、ビデオ ソフト フォン)。	使用可能な機能 (ライセンス) に関する情報をユーザに提供します。	はい	はい

提供する情報	説明	インストールするユーザへの提供	展開担当者がインストールした場合のユーザへの提供
サポートされている機能：ディレクトリサービス、ボイスメールの検索と再生、Web 会議へのアクセス、および Cisco Unified Communications Manager エクステンション モビリティ。	<p>LDAP ディレクトリ、ボイスメール サーバ、および Web 会議サーバとの統合によってサポートされる Cisco Unified Personal Communicator の機能に関する情報をユーザに提供します。Cisco Unified Personal Communicator の通話から Web 会議セッションを開始できることをユーザに通知します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager エクステンション モビリティを設定したことをユーザに通知します。ユーザに提供する情報のタイプについては、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html</p>	はい	はい
アカウント情報。	<p>[設定] ウィンドウに入力するアカウント情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボイスメール サーバ：ユーザ名および Web パスワード (Cisco Unified Personal Communicator でサポートされているボイスメール機能を使用するため) Web 会議サーバ：ユーザ名およびパスワード (Cisco Unified Personal Communicator の通話に Web 会議を追加するため) 	はい	はい
ユーザ オプションの Web ページへのアクセス情報。	<p>次のサーバでユーザ オプションの Web ページにアクセスするための URL (https://server-address/ccmuser)、ユーザ ID、およびパスワードを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager Cisco Unified Presence <p>これらのページから、ユーザは Cisco Unified IP Phone と Cisco Unified Personal Communicator に関連付けられている設定、機能、およびサービスを制御できます。</p>	はい	はい

■ ユーザに提供する情報

提供する情報	説明	インストールするユーザへの提供	展開担当者がインストールした場合のユーザへの提供
アプリケーションを使用するための手順。	<p>Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドおよびクイック スタート ガイドを提供します。アプリケーションのオンライン ヘルプを使用するようにユーザに通知します。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html</p> <p>PDF 版のユーザ ガイドを、ドライブ:¥Program Files¥Cisco Systems¥Cisco Unified Personal Communicator¥resources¥XXXX¥help¥CUPC-help から入手することもできます。XXXX は、ご使用の言語でドキュメントが保持されている番号付きのフォルダです。</p>	はい	はい
アプリケーションの社内サポート。	サポートの問い合わせ先となる担当者の名前、およびその担当者に問い合わせるための手順を提供します。	はい	はい



APPENDIX A

マルチノード機能のハードウェアに関するマトリクス

サポート対象のハードウェア

表 A-1 に、Cisco Unified Presence マルチノード機能のサポート対象のハードウェアを示します。



(注)

- 表 A-1 のハードウェア サポート情報は、Cisco Unified Presence マルチノード機能を使用した展開にだけ適用されます。シングル ノード設定またはデュアル ノード設定だけを展開する場合は、次の URL にある互換性マトリクスで示した一般的なハードウェア互換性ガイドラインに従ってください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html
- クラスタ間環境を展開する場合は、表 A-1 のハードウェア サポート情報に従ってください。
- 古いプラットフォーム上のハード ドライブをアップグレードするとマルチノード機能を実行できることに注意してください。たとえば、80 GB のドライブを搭載した古い 7825H2 プラットフォームが 2 つと、160 GB のドライブを搭載した新しい 7825H3 プラットフォームが 2 つある場合、ハードウェアが混在したプラットフォームであり、マルチノード機能は実行できません。この 2 つの 7825H2 プラットフォームをアップグレードして、それぞれに新しい 160 GB のハード ドライブを搭載すると、このハードウェアでマルチノード機能を実行できます。
- ドライブをアップグレードすると、マルチノードのクラスタで古いハードウェアを使用できます。ただし、最新のハードウェアは CPU が強力で、メモリ容量が多く、入力/出力処理が高速であるため、マルチノード機能に対応した最新のハードウェアを使用することをお勧めします。

表 A-1 Cisco Unified Presence マルチノード機能のサポート対象のハードウェア

プラットフォーム	ドライブの数	ドライブ サイズ (GB)	ドライブ タイプ	オペレーティングシステムに使用可能な容量 (GB)	マルチノード機能のサポート
MCS 7825-H1/I1-IPC1	2	80	IDE	80	いいえ
MCS 7825-H2/I2-IPC1	2	80	SATA	80	いいえ
MCS 7825-H3/I3-IPC1	2	160	SATA	160	はい
MCS 7835-H1/I1-IPC1	2	72	Ultra320 SCSI	72	いいえ

ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン

表 A-1 Cisco Unified Presence マルチノード機能のサポート対象のハードウェア (続き)

プラットフォーム	ドライブの数	ドライブ サイズ (GB)	ドライブ タイプ	オペレーティングシステムに使用可能な容量 (GB)	マルチノード機能のサポート
MCS 7835 -H1 /I1 -IPC1 (146 GB のドライブにアップグレード)	2	146	Ultra320 SCSI	146	はい
MCS 7835-H2/I2-IPC1	2	72	SAS	72	いいえ
MCS 7835-H2/I2-IPC1 (146 GB のドライブにアップグレード)	2	146	SAS	146	はい
MCS 7845-H1/I1-IPC1	4	72	Ultra320 SCSI	144	はい
MCS 7845 -H1 /I1 -IPC1 (146 GB のドライブにアップグレード)	4	146	Ultra320 SCSI	146	はい
MCS 7845-H2/I2-IPC1	4	72	SAS	144	はい
MCS 7845-H2/I2-IPC2	4	146	SAS	292	はい

ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン

表 A-2 に、Cisco Unified Presence マルチノード機能のユーザ割り当てガイドラインを示します。

表 A-2 ユーザ割り当てガイドライン

プラットフォーム	ハイ アベイラビリティ モード	ノード 1	ノード 2	サブクラスタ合計	クラスタ合計 (× 3)
MCS 7845	平衡非冗長	5k	5k	10k	30k
	平衡冗長	2.5k	2.5k	5k	15k
	アクティブ/スタンバイ	5k	0k	5k	15k
MCS 7835	平衡非冗長	2k	2k	4k	12k
	平衡冗長	1k	1k	2k	6k
	アクティブ/スタンバイ	2k	0k	2k	6k
MCS 7825	平衡非冗長	1k	1k	2k	6k
	平衡冗長	0.5k	0.5k	1k	3k
	アクティブ/スタンバイ	1k	0k	1k	3k
MCS 7816	平衡非冗長	0.5k	0.5k	1k	3k
	平衡冗長	0.25k	0.25k	0.5k	1.5k
	アクティブ/スタンバイ	0.5k	0k	0.5k	1.5k



(注)

表 A-2 に示したハードウェア ガイドラインは、プレゼンスと IM サービスだけをサポートするように設定された Cisco Unified Presence サーバを対象としています。これらのガイドラインには、ドメイン間フェデレーション、プレゼンス API、予定表機能など、追加の Cisco Unified Presence 機能のアクティベーションは含まれません。

■ ハイ アベイラビリティ ユーザ割り当てのハードウェア ガイドライン



APPENDIX **B**

Cisco Unified Personal Communicator の推奨サーバの設定

- 「ボイスメール サーバを設定する方法」(P.B-1)
- 「会議サーバを設定する方法」(P.B-13)
- 「ビデオ会議リソースの設定」(P.B-21)



(注)

まず、第 6 章「Cisco Unified Personal Communicator と統合するための Cisco Unified Presence の設定」に示したタスクを完了していることを確認します。この章に示すタスクを完了すると、Cisco Unified Personal Communicator はボイスメール、Web 会議、およびビデオ会議に関する機能を全面的にサポートします。

ボイスメール サーバを設定する方法

- 「Cisco Unity Connection サーバの設定」(P.B-2)
- 「Cisco Unity サーバの設定」(P.B-4)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-7)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定」(P.B-8)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-10)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」(P.B-11)

Cisco Unity Connection サーバの設定

Cisco Unity Connection を導入すると、Cisco Unified Personal Communicator ユーザは Cisco Unified Personal Communicator アプリケーションからボイスメール メッセージを表示、再生、ソート、および削除できるようになります。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager をインストールして設定します。詳細については、次の URL にあるインストール ガイド、アップグレード ガイド、およびメンテナンスとオペレーション ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html

- Cisco Unity Connection のサポート対象リリースをインストールして設定します。

- サーバ インストールの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html

- Cisco Unity Connection のサポート対象リリースの詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection を統合します。ボイスメール ポートを設定するには、必ず両方のサーバがインストール済みであり、かつ実行されている必要があります。ボイスメール設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

手順

ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理ページで新規または既存のサービス クラスをセットアップして、Internet Mail Access Protocol (IMAP) クライアントからボイス メッセージにアクセスできるようにします。

- 左ペインの [サービス クラス] を展開します。
- [サービス クラス] をクリックします。
- [サービス クラスの検索] ウィンドウの [検索結果] テーブルで、適用可能なサービス クラスの表示名をクリックします。
- [機能] で、ポート 7993 および TLS に対して [Unified Personal Communicator を使用したボイス メールへのアクセスをユーザに許可する] をオンにします。
- それ以外のポートおよびプロトコルに対しては、次の手順を実行します。
 - [ライセンス済み機能] の [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する] をオンにします。
 - [メッセージ本文へのアクセスをユーザに許可する] を選択します。
 - [機能] の [Unified Personal Communicator を使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する] をオンにします。
- [保存] をクリックします。

ステップ 2 次のとおりにユーザを設定します。

- ユーザが既存の Cisco Unity Connection ユーザである場合は、そのユーザを Cisco Unified Communications Manager データベースおよび Cisco Unified Presence に追加します。手順 4 に進みます。
- ユーザが新しい Cisco Unified Personal Communicator ユーザである場合は、そのユーザを Cisco Unified Communications Manager データベース、Cisco Unity Connection、および Cisco Unified Presence に追加します。

次の URL にある Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence のアドミニストレーション ガイドを参照してください。

- http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
- http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html

ステップ 3 Cisco Unified Personal Communicator ユーザごとに、ボイス メールボックスがある Cisco Unity Connection サーバで接続ユーザ アカウントを作成します。

Cisco Unity Connection のユーザ ID は、Cisco Unified Presence または Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ID と一致する必要はありません。Cisco Unified Personal Communicator には、[設定] ウィンドウで設定する独立したボイスメール ID があります。

そのアカウントをセットアップする方法の詳細については、『Cisco Unity Connection User Moves, Adds, and Changes Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html

ステップ 4 (オプション) 次の手順に従って安全なメッセージ機能を有効にします。

- a. 左ペインの [サービス クラス] を展開し、[サービス クラス] をクリックします。
- b. [メッセージ オプション] セクションの [セキュア メッセージングを必須にする] からオプションを選択して、安全なメッセージ機能を有効にします。

ステップ 5 (オプション) 次のように、ユーザのために身元不明発信者メッセージセキュリティを処理する方法を指定します。

- a. 左ペインの [ユーザ] を展開します。
- b. [ユーザ] をクリックします。
- c. ユーザのエイリアスをクリックします。
- d. [編集] > [メッセージ設定] を選択します。
- e. [識別できない発信者のメッセージのセキュリティ] で [暗号化する] をオンにします。

ステップ 6 まだ存在しない場合は、Cisco Unity Connection の管理ページで適用可能なユーザ アカウントの Web アプリケーション パスワードを指定します。

詳細については、『Cisco Unity Connection User Moves, Adds, and Changes Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html

ステップ 7 Cisco Unified Presence の管理ページでボイスメール設定を実行します。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Personal Communicator ユーザは各自の Cisco Unity Connection 資格情報、つまりユーザ名および Web アプリケーション パスワードを、Cisco Unified Personal Communicator の [設定] ウィンドウに入力する必要があります。
- サーバへの問い合わせが可能で、ユーザ資格情報が正しいにもかかわらず、ボイスメール メッセージがダウンロードされない場合は、次の手順を実行します。

- ポート 7993 の設定をチェックします。
- Cisco Unified Personal Communicator がポート 7993 でリッスンしていることを確認します。
- ファイアウォール設定をチェックします。リモート コンピュータから、Cisco Unified Personal Communicator を実行しているコンピュータに Telnet を使用し、接続できることを確認します。

詳細については、次の URL にある Cisco Unified Personal Communicator のトラブルシューティング ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_troubleshooting_guides_list.html

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-7)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定」 (P.B-8)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」 (P.B-11)

Cisco Unity サーバの設定

Cisco Unity は、コールを受け、グリーティングを再生し、ボイスメールを記録および符号化します。ボイスメールを受け取ると、Cisco Unity はその .wav ファイルを電子メールに追加して、設定済の電子メール アカウントに送信します。Cisco Unity は、メッセージ保管用のメールストア サーバとして使用するために Microsoft Exchange サーバにユーザ メールボックスを作成します。

Cisco Unified Personal Communicator ユーザが自分宛のボイスメールを聞くときには、Cisco Unified Personal Communicator を使用して IMAP 経由でメールストア サーバから目的のボイスメールを取得します。

Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unity 統合メッセージと Cisco Unity ボイス メッセージの両方の設定をサポートします。統合メッセージでは、Exchange サーバ電子メール アカウントがボイスメールと電子メールの両方をサポートします。ボイス メッセージでは、Exchange サーバ電子メール アカウントにはボイスメール メッセージだけが含まれています。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager をインストールして設定します。詳細については、次の URL にあるインストール ガイド、アップグレード ガイド、およびメンテナンスとオペレーション ガイドを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco Unity のサポート対象リリースをインストールして設定します。
 - Microsoft Exchange でのサーバ インストールの詳細については、次の URL を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_installation_guides_list.html
 - サポート対象の Cisco Unity リリースの詳細については、次の URL にある Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノートを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html
- Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity を統合します。ボイスメール ポートを設定するには、必ず両方のサーバがインストール済みであり、かつ実行されている必要があります。ボイスメール設定の詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

- SSL を使用してメールストア サーバにデータを安全に送信するには、インストール時またはアップグレード時に SSL を使用するように Cisco Unity をセットアップする必要があります（また、インストール後またはアップグレード後いつでもセットアップ可能です）。認証局として機能するようにサーバを指定し、証明書要求を送信し、証明書を発行して Cisco Unity サーバにインストールする必要があります。詳細については、次のセキュリティ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_maintenance_guides_list.html

手順

ステップ 1 IMAP 仮想サーバを使用するように Microsoft Exchange サーバを設定します。

Exchange 2003 の場合は、次の手順を実行します。

- [スタート]>[すべてのプログラム]>[Microsoft Exchange]>[システム マネージャ] を選択します。
- [システム マネージャ] の左ペインで、[サーバー] を展開します。
- サーバ名を選択します。
- [プロトコル]>[IMAP] を選択します。
- 右クリックし、[サーバーの開始] を選択します。

Exchange 2007 の場合は、次の手順を実行します。

- [スタート]>[ファイル名を指定して実行] を選択し、「services.msc」と入力し、[OK] をクリックします。
- [Microsoft Exchange IMAP4] サービスを選択し、[開始] をクリックします。このサービスはデフォルトでは開始されません。

ステップ 2 ポートおよび暗号化タイプを設定します。

Exchange 2003 の場合は、次の手順を実行します。

- [IMAP 仮想サーバー] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- [アクセス] タブから [認証] をクリックします。
 - [SSL/TLS 暗号化を要求する] がオフで、TCP および SSL 接続を使用するようになっていることを確認します。
 - [SSL/TLS 暗号化を要求する] がオンで、SSL だけを使用するようになっていることを確認します。
- [OK] をクリックします。

Exchange 2007 の場合は、次の手順を実行します。

- Exchange パワー シェル経由で IMAP4 サービスを実行しているクライアント アクセス サーバの認証設定を指定します。

[スタート]>[プログラム]>[Microsoft Exchange Server 2007]>[Exchange 管理シェル] を選択します。

Exchange 2007 はデフォルトで SSL を使用します。

- 適切に設定するために次のコマンドのいずれかを実行します。
 - プレーン テキスト ログインの場合 : **set-imapsettings -LoginType PlainTextLogin**
 - SSL の場合 : **set-imapsettings -LoginType SecureLogin**

ボイスメール サーバを設定する方法

ステップ 3 次のとおりにユーザを設定します。

- ユーザが既存の Cisco Unity ユーザである場合は、そのユーザを Cisco Unified Communications Manager データベースおよび Cisco Unified Presence に追加します。
- ユーザが新規ユーザである場合は、そのユーザを Cisco Unified Communications Manager データベース、Cisco Unity (ユーザを Exchange と Active Directory に追加します)、および Cisco Unified Presence に追加します。

次の URL にある Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence のアドミニストレーション ガイドを参照してください。

- http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
- http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html

ステップ 4 新規および既存のユーザのメールボックスを作成します。詳細については、Exchange サーバのマニュアルを参照してください。

ステップ 5 (オプション) 次の手順に従って安全なメッセージ機能を有効にします。

- ユーザ テンプレートに変更を加えるには、[ユーザ] > [ユーザ] > [機能] を選択します。
ここで加えた変更は、このテンプレートを使用して作成された既存のユーザ アカウントには適用されません。変更後にこのテンプレートを使用して作成されるユーザ アカウントにだけ適用されます。
- 安全なメッセージ機能を有効にするには、[Message Security When Sending a Message] リストからオプションを選択します。たとえば、[Encrypt All Messages] を選択します。
この設定では、ユーザがメッセージを他のユーザに送信するときにメッセージを暗号化するかどうかを指定します。
- [保存] をクリックします。
- 適宜ユーザまたはユーザ テンプレートを追加するには、これらの手順を繰り返します。

ステップ 6 (オプション) 身元不明発信者からのメッセージに対して安全なメッセージ機能を有効にします。

- [システム] > [設定] > [Message Security Settings] を選択します。
- 身元不明発信者からのメッセージを暗号化するかどうかを指定します。リストからオプションを選択します。
- [保存] をクリックします。

ステップ 7 Cisco Unified Presence の管理ページでボイスメールとメールストアの設定を実行します。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Personal Communicator ユーザは、Cisco Unity 資格情報を Cisco Unified Personal Communicator の [設定] ウィンドウに入力する必要があります。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-7)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定」 (P.B-8)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-10)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」 (P.B-11)

Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定

Cisco Unified Presence サーバが Cisco Unity または Cisco Unity Connection 上の Voice Message Web Service (VMWS; ボイス メッセージ Web サービス) を操作できるように、ボイスメール設定を設定する必要があります。VMWS サービスを使用すると、Cisco Unified Personal Communicator は削除済のボイスメール メッセージを正しい場所に移動できるようになります。また、このサービスは安全なメッセージ機能をサポートするメッセージ暗号化機能も備えています。

始める前に

- 次の項の説明に従って、サポート対象のサーバが設定されているかどうかを確認します。
 - 「Cisco Unity Connection サーバの設定」(P.B-2)
 - 「Cisco Unity サーバの設定」(P.B-4)
- Cisco Unity Connection の場合、ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。使用中の環境でユーザ数に関するサービスを提供する場合には、複数のホスト名の指定が必要となることがあります。
- Cisco Unity の場合、Cisco Unity サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。使用中の環境でユーザ数に関するサービスを提供する場合には、複数のホスト名の指定が必要となることがあります。
- Cisco Unity の場合、1 台または複数のピア Microsoft Exchange サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、サーバを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の表に示すように、情報をフィールドに入力します。

フィールド	設定
リリース 7.0 だけ	
サーバタイプ (Server Type)	[Unity] または [Unity Connection] を選択します。
名前 (Name)	Cisco Unity Connection または Cisco Unity サーバ名を入力します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
Web サービス ポート (Web Service Port)、 Web サービス プロトコル (Web Service Protocol)	[Web サービス ポート (Web Service Port)] に「443」と入力します。 [Web サービス プロトコル (Web Service Protocol)] で [HTTPS] を選択します。
リリース 6.x だけ	
名前 (Name)	Cisco Unity Connection または Microsoft Exchange サーバ名を入力します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	Exchange サーバの IP アドレスを入力します。

- ステップ 4** [保存] をクリックします。

ステップ 5 [新規追加] をクリックし、使用中の環境にあるボイスメール サーバごとにこの手順を繰り返します。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定」 (P.B-8)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-10)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」 (P.B-11)

Cisco Unified Presence の管理ページでの安全なメッセージ機能の設定

ユーザが Cisco Unified Personal Communicator から安全なボイスメール メッセージを取得して再生できるようにするには、次の手順を実行する必要があります。

- Cisco Unified Presence の管理リリース 7.0 で安全なメッセージ機能を設定します。
- メッセージを暗号化するように Cisco Unity を設定します。

Cisco Unity Connection

Cisco Unity Connection では、ユーザがメッセージを送信すると、サービス クラス設定によってメッセージのセキュリティ レベルが決まります。ユーザがメッセージにプライベートのマークを付けると、Cisco Unity Connection では安全に保護することを示すマークが自動的にメッセージに付けられます。

Cisco Unity Connection では、特別な IMAP ポート (ポート 7993) 経由で安全なボイスメール メッセージ向けの音声を提供されます。このポートには、Transport Layer Security (TLS; トランスポートレイヤセキュリティ) が必要です。Cisco Unified Personal Communicator は、このポートを使用して、安全なメッセージにアクセスし、ダウンロードし、再生します。

Cisco Unity

Cisco Unity は、公開鍵暗号法を使用して、安全なメッセージを送信します。ネットワークのどの Cisco Unity サーバにも、公開鍵および秘密鍵があります。各サーバの公開鍵は、Cisco Unity データベースに保存され、Active Directory を介してネットワーク内の他の Cisco Unity サーバと共有されます。

Cisco Unity サーバは、毎日新しいセッション鍵を生成します。セッション鍵を使用して、ボイスメールを暗号化し、メッセージの経過時間を制御します。ユーザは、経過時間ポリシーで許可している時間よりも古い鍵で暗号化されているメッセージを再生できません。

Cisco Unity は、Microsoft Exchange を使用して、安全なメッセージを保存します。どのユーザ メールボックスも、このようなメッセージストア サーバに設定します。Cisco Unified Personal Communicator は、メッセージストアに接続し、次の手順を実行します。

1. IMAP を使用して、Exchange からメッセージをダウンロードします。
2. そのメッセージが暗号化されているかどうかを判断します。
3. メッセージが暗号化されていない場合、Cisco Unified Personal Communicator はメッセージを再生します。
4. メッセージが暗号化されている場合は、次の手順を実行します。
 - a. Cisco Unified Personal Communicator は、メッセージの .wav ファイルから暗号化されたセッション鍵を抽出します。
 - b. Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unity サーバに鍵を送信します。

- c. Cisco Unity サーバは、セッション鍵の復号化を試みます。その際、Cisco Unity データベースの秘密鍵証明書を使用します。
- d. Cisco Unity サーバがセッション鍵を復号化すると、Cisco Unified Personal Communicator はその鍵を使用してメッセージを復号化し、ユーザに対してメッセージを再生します。
- e. Cisco Unity サーバがセッション鍵を復号化できない場合、Cisco Unified Personal Communicator はユーザに対して仮のメッセージを再生します。

始める前に

次のように、ボイスメール サーバに安全なメッセージ機能をインストール し、設定します。

- Cisco Unity Connection の場合は、Cisco Unity Connection サーバの設定方法についてこのガイドの情報を参照してください。また、製品オンライン ヘルプ、システム管理ガイド、および次の URL にあるユーザの移動、追加、変更ガイドも参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html

- Cisco Unity の場合は、Cisco Unity サーバの設定方法についてこのガイドの情報を参照してください。また、製品オンライン ヘルプまたは次の URL にある Microsoft Exchange で Cisco Unity を使用するためのセキュリティ ガイドも参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_maintenance_guides_list.html

制約事項

安全なメッセージ機能は、リリース 7.0 以前の Cisco Unified Presence の管理のリリースでは使用できません。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[ボイスメール サーバ]を選択します。
- ステップ 2** 使用中のサーバを探し、選択します。
- ステップ 3** 設定する安全なメッセージ機能のタイプに応じて、次の操作のいずれかを実行します。

安全なメッセージ機能のタイプ	操作
SOAP	Web サービスのポートおよびプロトコルが設定されていることを確認します。ボイスメール サーバの名前とアドレスを指定するときに、Web サービスのポートとプロトコルを設定します。
IMAP	IMAP のポートおよびプロトコルが設定されていることを確認します。メールストア サーバの名前とアドレスを指定するときに、IMAP サービスのポートとプロトコルを設定します。

関連項目

- 「Cisco Unity Connection サーバの設定」(P.B-2)
- 「Cisco Unity サーバの設定」(P.B-4)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-7)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-10)

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」(P.B-11)

Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定

Cisco Unified Personal Communicator がメールストアに接続できるように、メールストア情報で Cisco Unified Presence リリース 7.0 を設定する必要があります。Cisco Unified Personal Communicator は、IMAP を使用して、メッセージをダウンロードします。

Cisco Unity は、Microsoft Exchange サーバにメッセージ保管用のユーザ メールボックスを作成します。Cisco Unity Connection は、通常、メールストアを備えており、同じサーバでそのメールストアのホストとなります。

始める前に

- メールストア サーバのホスト名または IP アドレスを取得します。
- リリース 6.x からリリース 7.0 にアップグレードすると、Cisco Unified Presence はメールストア 設定ページに自動的に IMAP 設定をインポートします。リリース 6.x では、これらの設定は [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [Unity サーバ] ページにあります。

制約事項

- メールストア サーバをプロビジョニングしてから、そのサーバをボイスメール プロファイルに追加する必要があります。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックして、新しいサーバを追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	サーバ名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) サーバの説明を入力します。

フィールド	設定
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	メールストア サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
ポート (Port)、 プロトコル タイプ (Protokol Type)	サーバに設定されている IMAP ポート番号、および Cisco Unified Personal Communicator がこのサーバに問い合わせるときに使用する対応するプロトコルを指定します。 Cisco Unity Connection : <ul style="list-style-type: none"> • SSL = 993 • TCP = 143 • TLS = 143 または 7993 Exchange 搭載の Cisco Unity <ul style="list-style-type: none"> • SSL = 993 • TCP = 143 • TLS = 143

次の表では、使用できるプロトコルと、各プロトコルがボイスメール メッセージ用に実装しているセキュリティ機能について説明します。

プロトコル	説明
SSL	安全なソケットを使用して、ユーザ名、パスワード、およびボイスメール メッセージを暗号化します。
TCP	クリア テキストでユーザ名、パスワード、およびボイスメール メッセージを送信します。
TLS	IMAP の STARTTLS バージョンを使用して、ユーザ名、パスワード、およびボイスメール メッセージを暗号化します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

関連項目

- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成](#)」 (P.B-11)

Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成

始める前に

- Cisco Unified Personal Communicator ライセンスを持つユーザをプロファイルに追加するには、ボイスメール プロファイルを作成する必要があります。
- ボイスメール サーバの名前とアドレスを指定します。
- メールストア サーバの名前とアドレスを指定します。

ボイスメール サーバを設定する方法

制約事項

Cisco Unified Personal Communicator リリース 7.0(1) では、ボイスメール サーバのフェールオーバーもメールストア サーバのフェールオーバーもサポートされません。Cisco Unified Presence の管理ページのボイスメール プロファイルにバックアップ サーバを指定しないでください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。



(注) このウィンドウのフィールドは、Cisco Unified Presence のリリースによっては表に記載した並び順とは異なることがあります。

フィールド	設定
名前 (Name)	プロファイル名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) プロファイルの説明を入力します。
音声メッセージング パイロット (Voice Messaging Pilot)	(オプション) ボイスメール パイロット番号は、ユーザが各自のボイス メッセージにアクセスするためにダイヤルする電話番号です。ユーザが電話のメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified Communications Manager は自動的にボイス メッセージ番号をダイヤルします。パイロット番号はそれぞれ異なるボイス メッセージ システムに所属させることができます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 番号: システムのボイスメール パイロット番号を選択します。これは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメール パイロット (Voice Mail Pilot)] メニューから指定した番号と同じものです。 [ボイスメールなし]: 応答されなかった着信コールをボイスメールに送信する必要がない場合は、このオプションを選択します。
プライマリ ボイスメール サーバ (Primary Voicemail Server)	プライマリ サーバを選択します。指定したメールストア サーバのいずれかを選択します。 リリース 6.x では、このフィールドは [プライマリ Unity サーバ] という名前になっています。
バックアップ ボイスメール サーバ (Backup Voicemail Server)	(オプション) バックアップ ボイスメール サーバの名前を入力します。バックアップ ボイスメール サーバが必要ない場合は、[なし] を選択します。 リリース 6.x では、このフィールドは [バックアップ Unity サーバ] という名前になっています。
プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)	このボタンをクリックした後、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを使用してユーザの検索と選択を行います。[選択項目の追加] をクリックして、プロファイルにユーザを追加します。
リリース 7.0 だけ	
プライマリ メールストア	プライマリ メールストア サーバを選択します。指定したメールストア サーバのいずれかを選択します。

フィールド	設定
バックアップ メールストア	(オプション) バックアップ メールストア サーバの名前を入力します。バックアップ ボイスメール サーバが必要ない場合は、[なし]を選択します。
これをシステムのデフォルト ボイスメール プロファイルに設定	(オプション) 新規ユーザを自動的にデフォルト プロファイルに追加する場合は、このオプションをオンにします。 Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence にすでに同期化されているユーザは、このデフォルト プロファイルに追加されません。ただし、デフォルト プロファイルの作成後に同期化されるユーザはデフォルト プロファイルに追加されます。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 [新規追加] をクリックし、作成するボイスメール プロファイルごとにこの手順を繰り返します。

関連項目

- 「アプリケーション プロファイルを変更する方法」 (P.6-16)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-7)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのメールストア サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-10)
- 「単独のユーザのアプリケーション プロファイルの変更」 (P.6-17)

会議サーバを設定する方法

Cisco Unified Personal Communicator は、次の製品の音声またはビデオの会話ウィンドウから、スケジュールされていない Web 会議を開始するように設定できます。

- Cisco Unified MeetingPlace
- Cisco Unified MeetingPlace Express
- Cisco Unified MeetingPlace Express VT
- Cisco Webex Meeting Center
- 「Cisco Unified MeetingPlace Express および Cisco Unified MeetingPlace Express VT サーバの設定」 (P.B-14)
- 「Cisco Unified MeetingPlace サーバの設定」 (P.B-16)
- 「Cisco Webex Meeting Center サーバの設定」 (P.B-18)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-18)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成」 (P.B-20)

Cisco Unified MeetingPlace Express および Cisco Unified MeetingPlace Express VT サーバの設定

Cisco Unified MeetingPlace Express または Cisco Unified MeetingPlace Express VT を使用すると、Cisco Unified Personal Communicator ユーザは既存の音声またはビデオ通信セッションから Web 会議へと発展させることができます。Cisco Unified MeetingPlace Express VT では、ユーザはポイントツーポイントからマルチパーティの音声およびビデオ コールに移行できます。

始める前に

- Web 会議サーバ (Cisco Unified MeetingPlace Express または Cisco Unified MeetingPlace Express VT) のサポート対象のリリースをインストールします。サーバインストールの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/prod_installation_guides_list.html

Cisco Unified MeetingPlace Express のサポート対象リリースの詳細については、リリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- Web 会議サーバと Cisco Unified Communications Manager を統合します。コール制御機能の設定方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/products_installation_and_configuration_guides_list.html

- Cisco Unified Personal Communicator 経由で開始した会議に十分な数の Web ポートを確保するために必要な Cisco Unified MeetingPlace Express (または Cisco Unified MeetingPlace Express VT) ユーザ ライセンスの数を特定します。

手順

ステップ 1 Web 会議サーバと Cisco Unified Personal Communicator を統合します。

Cisco Unified MeetingPlace Express VT アド ホック会議機能の場合 :

- a. Cisco Unified MeetingPlace Express 管理センター経由で次のライセンスをインストールします。
 - adhocsoftware
 - webconf
 - maxadhoc

これで、Cisco Unified Personal Communicator ユーザに十分な数の Web ポートを確保できます。Cisco Unified Personal Communicator では、ボイス ポート、ビデオ ポート、Web ポートとも、6 個以上のサポートが必要です。

- b. コンフィギュレーション メンテナンス ガイドの手順に従って、アド ホック会議に対応するように Cisco Unified MeetingPlace Express VT を設定します。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/prod_maintenance_guides_list.html

Cisco Unified MeetingPlace Express 予約不要機能の場合 :

- a. 次のライセンスをインストールします。
 - systemsoftware
 - webconf
 - maxweb

これで、Cisco Unified MeetingPlace Express から開始するフル Web 会議および Cisco Unified Personal Communicator から開始する Web 会議のどちらにも十分な数の Web ポートを確保できます。

- b. Cisco Unified Personal Communicator との統合、証明書の管理、ユーザ プロファイルの作成、およびコール制御の設定に関する Cisco Unified MeetingPlace Express 固有の情報については、次のコンフィギュレーション メンテナンス ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/prod_maintenance_guides_list.html

ステップ 2 まだ有効にしていない場合は、信頼された Certificate Authority (CA; 認証局) から必要な証明書を取得してアップロードすることにより、Web 会議サーバで Secure Sockets Layer (SSL) 暗号テクノロジーを有効にします。

Cisco Unified Personal Communicator と Web 会議サーバの間でセキュアな通信を行うために、この証明書が必要となります。SSL を使用しないと、Cisco Unified Personal Communicator から Web 会議サーバへの通信と、ログインブラウザから Web 会議サーバへの通信でクリア テキストのパスワードが送信されます。

ステップ 3 Cisco Unified Personal Communicator 会話から Web 会議を開始できる Cisco Unified Personal Communicator ユーザごとに、Web 会議サーバにユーザ プロファイルをセットアップします。

- Web 会議に出席する Cisco Unified Personal Communicator ユーザのユーザ プロファイルを作成する必要はありません。ゲストとして Web 会議に参加でき、パスワードが必要ありません。
- Web 会議を開始できるユーザに対しては、[Method of Attending] を [I'll Call In] に設定してください。そのように設定しない場合、Web 会議システムは Cisco Unified Personal Communicator で [Escalate to Web Conference] ボタンをクリックしたユーザに問い合わせを行います。ユーザにこの設定を変更しないように要求してください。



ヒント

また、Cisco Unified Communications Manager で Administrative XML Layer Simple Object Access Protocol (AXL SOAP) 認証を設定して、Web 会議ユーザ プロファイル管理を単純化することもできます。この設定にした場合、Cisco Unified Personal Communicator で会議を開始するユーザは Web 会議ユーザ プロファイルではなく Cisco Unified Communications Manager プロファイルが必要になります。AXL 認証では、会議開始ユーザが Cisco Unified Personal Communicator 経由で初めて会議を要求すると、そのユーザの Web 会議プロファイルが自動的に作成されます。

ステップ 4 デスクトップ、ドキュメント、またはコンピュータ アプリケーションを共有できるように、プレゼンタ アドインをインストールしてユーザを支援します。詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/products_user_guide_list.html

ステップ 5 Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) から Cisco Unified Personal Communicator への着信コールが RFC2833 をサポートするように、ネットワーク設定を変更します。

- 着信コールが Dual Tone MultiFrequency (DTMF) デジタル収集を必要とする場合、Cisco Unified Personal Communicator では RFC2833 をサポートする必要があります。Key Press Markup Language (KPML) をサポートすると、クライアントへの着信コールに対して応答が返されません。

よくある着信コールのシナリオは、会議のセットアップ時に Web 会議サーバがユーザを呼び出すというものです。この場合、PSTN からの着信コールが RFC2833 をサポートしていると、Cisco Unified Personal Communicator ユーザはセッション ダイアルパッドを使用して会議に参加できます。

- 発信コールに対して、Cisco Unified Personal Communicator は KPML と RFC2833 のどちらのデジタル収集もサポートします。

- ステップ 6** Cisco Unified Presence の管理ページで Cisco Unified MeetingPlace Express サーバ固有の設定を実行します。

サポート対象とサポート対象外の Cisco Unified MeetingPlace Express 会議制御の詳細については、リリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

Cisco Unified Personal Communicator 会話に追加する Web 会議の特性については、Cisco Unified Personal Communicator のユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/products_user_guide_list.html

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Personal Communicator ユーザは、Cisco Unified MeetingPlace Express 資格情報を Cisco Unified Personal Communicator の [設定] ウィンドウに入力する必要があります。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定」 (P.B-18)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成」 (P.B-20)

Cisco Unified MeetingPlace サーバの設定

Cisco Unified MeetingPlace は、Cisco Unified MeetingPlace Express または Cisco Unified MeetingPlace Express VT よりも機能セットが豊富であり（スケジュール済でも予約なしでも開始できるリッチメディア会議など）、同時に参加できるユーザ数も多くなっています。

Cisco Unified MeetingPlace では、Cisco Unified Personal Communicator ユーザが既存の音声セッションから Web 会議セッションまたはビデオ会議セッションに発展させることができます。

始める前に

- Web 会議サーバのサポート対象のリリースをインストールします。サーバインストールの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

Cisco Unified MeetingPlace のサポート対象リリースの詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- Web 会議サーバと Cisco Unified Communications Manager を統合します。コール制御機能の設定方法については、次の URL を参照してください。

リリース 7.0 :

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

リリース 6.x :

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_implementation_design_guides_list.html

- Cisco Unified MeetingPlace 経由および Cisco Unified Personal Communicator 経由で開始する会議に十分な数の Web ポートを確認するために必要な Web 会議および音声会議のユーザ ライセンスの数を特定します。

リリース 7.0 :

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

リリース 6.x :

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_implementation_design_guides_list.html

手順

ステップ 1 Web 会議および音声会議のユーザ ライセンスをインストールします。

ステップ 2 まだ有効にしていない場合は、Web 会議サーバで SSL 暗号テクノロジーを有効にします。信頼された認証局 (CA) から必要な証明書を取得してアップロードする必要があります。

Cisco Unified Personal Communicator と Web 会議サーバの間でセキュアな通信を行うために、この証明書が必要となります。SSL を使用しないと、Cisco Unified Personal Communicator から Web 会議サーバへの通信と、ログインブラウザから Web 会議サーバへの通信でクリア テキストのパスワードが送信されます。

SSL をセットアップする方法の詳細については、Web 会議のコンフィギュレーション ガイド (リリース 6.x) またはコンフィギュレーション ガイド (リリース 7.0) を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

ステップ 3 Web 会議サーバにユーザ認証方法をセットアップします。

Cisco Unified Personal Communicator では、次の認証方法がサポートされています。

- MeetingPlace
- HTTP Basic Authentication (ドメイン)
- LDAP
- LDAP、次に MeetingPlace

認証方法を設定する方法の詳細については、Web 会議のコンフィギュレーション ガイド (リリース 6.x) またはコンフィギュレーション ガイド (リリース 7.0) を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

ステップ 4 Cisco Unified Personal Communicator 会話から Web 会議を開始できる Cisco Unified Personal Communicator ユーザごとに、Cisco Unified MeetingPlace サーバにユーザ プロファイルをセットアップします。

ステップ 5 Cisco Unified Presence の管理ページで会議サーバの設定を実行します。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Personal Communicator ユーザは、Cisco Unified MeetingPlace 資格情報を Cisco Unified Personal Communicator の [設定] ウィンドウに入力する必要があります。設定した認証方法で一貫したパスワードを提供してください。たとえば、認証方法として MeetingPlace を設定した場合は、ユーザに MeetingPlace パスワードを提供します。認証方法として LDAP を設定した場合は、ユーザに LDAP パスワードを提供します。
- Cisco Unified Personal Communicator ユーザ全員に対して Cisco Unified MeetingPlace ユーザ プロファイルを作成する必要はありません。Cisco Unified MeetingPlace プロファイルがない Cisco Unified Personal Communicator ユーザは、他の Cisco Unified Personal Communicator ユー

ザが開始した Web 会議にゲストとして出席でき、パスワードが必要ありません。ただし、HTTP Basic Authentication など認証方法の中には、Cisco Unified Personal Communicator ユーザがゲストとして Cisco Unified MeetingPlace にログインすることを許可しないものもあります。

認証方法の詳細については、Web 会議のコンフィギュレーションガイド（リリース 6.x）またはコンフィギュレーションガイド（リリース 7.0）を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

- 認証方法が異なり、資格情報が一致しない複数の Web サーバを設定した場合、ユーザが Web 会議にログインしようとする問題が発生することがあります。

次の操作

「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-18)

Cisco Webex Meeting Center サーバの設定

始める前に

Cisco Webex Meeting Center 会議サーバのサポート対象のリリースをインストールします。サーバのインストールと設定の詳細については、プロビジョニングした Cisco Webex サイトにある Cisco Webex Meeting Center ドキュメンテーションを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 必要に応じて、Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Webex Meeting Center サーバとのセキュアな接続を有効にします。信頼された認証局（CA）から必要な証明書を取得してアップロードする必要があります。
- ステップ 2** Web 会議機能を使用する Cisco Unified Personal Communicator ユーザごとに、Cisco Webex Meeting Center サーバにユーザ アカウントを作成します。
- ステップ 3** Cisco Unified Presence に Cisco Webex Meeting Center の会議サーバ エントリを設定します。
- ステップ 4** Cisco Unified Presence に会議プロファイルを作成し、その会議プロファイルに Cisco Unified Personal Communicator Web 会議ユーザを割り当てます。
-

次の操作

「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定」(P.B-18)

Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定

Cisco Unified Personal Communicator が会議サーバを操作できるように、Cisco Unified Presence の管理ページで会議サーバの名前、アドレス、ポート、およびプロトコル タイプを指定する必要があります。

始める前に

- サポートする会議サーバを設定します。

- 会議サーバのホスト名または IP アドレスと、ポート番号を取得します。
- 会議用に Cisco Webex Meeting Center サーバを設定している場合は、Cisco Webex サイトに割り当てられているサイト ID およびパートナー ID の値が必要になります。これらの値がない場合は、Cisco Webex 管理者から取得してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、サーバを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	サーバ名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) サーバの説明を入力します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。
ポート (Port)	サーバに設定するポート番号を指定します。 HTTP の場合は「80」、HTTPS の場合は「443」と入力します。
プロトコル (Protocol)	このサーバへの問い合わせに使用するプロトコルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTP : サーバ、Cisco Unified Personal Communicator、およびブラウザとの間でデータを転送するための標準の方法としてハイパーテキスト転送プロトコルを選択します。Cisco Unified MeetingPlace や Cisco Unified MeetingPlace Express で SSL を有効にしていない場合は、このオプションを選択します。 • HTTPS : サーバ、Cisco Unified Personal Communicator、およびブラウザとの間でデータを安全に転送するための方法として Hypertext Transfer Protocol over SSL を選択します。Cisco Unified MeetingPlace や Cisco Unified MeetingPlace Express サーバで SSL を有効にしている場合は、このオプションを選択します。
サーバタイプ (Server Type)	ドロップダウンメニューでサーバタイプを指定します。
サイト ID (Site ID)	Cisco Webex サイトに割り当てられている ID 番号を入力します。Cisco Webex では、Cisco Webex 製品の展開時にカスタマーサイトの ID 番号が提供されます。サイト ID 番号がない場合は、Cisco Webex 管理者に問い合わせてください。
パートナー ID (Partner ID)	Cisco Webex サイトに割り当てられている Partner ID (PID; パートナー ID) 値を入力します。Cisco Webex では、Cisco Webex サイトで Cisco Webex Application Programming Interface (API; アプリケーションプログラミングインターフェイス) を有効にすると PID が提供されます。PID がない場合は、Cisco Webex 管理者に問い合わせてください。



(注) [サイト ID] フィールドおよび [パートナー ID] フィールドが表示されるのは、サーバタイプとして Cisco Webex を選択している場合だけです。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

既存の Cisco Unified Presence サーバをアップグレードすると、サーバタイプ値はデフォルトで「未定義」に設定されることがあります。この場合は、メニューから会議サーバの既知のタイプのいずれかを選択します。会議サーバエントリを「未定義」のままにしておくと、Cisco Unified Personal Communicator で会議のパフォーマンスが低下することがあります。

次の操作

「[Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成](#)」(P.B-20)

Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成

Cisco Unified Presence の管理ページで会議プロファイルを作成して、プライマリサーバに割り当てる必要があります。



(注)

一方、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express のプロファイルには、このアプリケーションの特定のユーザに設定する特権およびプリファレンスを定義します。

始める前に

- Cisco Unified Personal Communicator ライセンスを持つユーザをアプリケーションプロファイルに追加するには、会議プロファイルを作成する必要があります。
- この手順で会議サーバの名前とアドレスを選択するには、まずそれらの値を指定する必要があります。

制約事項

Cisco Unified Personal Communicator リリース 7.0(1) では、会議サーバのフェールオーバーはサポートされません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロファイル] を選択します。
- ステップ 2** [LDAP ホストの検索と一覧表示] ウィンドウの [新規追加] をクリックして、プロファイルを新規に追加します。
- ステップ 3** 次の各フィールドに情報を入力します。

フィールド	設定
名前 (Name)	プロファイル名を入力します。
説明 (Description)	(オプション) プロファイルの説明を入力します。
プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)	プライマリサーバとして指定した会議サーバのいずれかを選択します。 リリース 6.x では、このフィールドは [プライマリ MeetingPlace サーバ (Primary MeetingPlace Server)] という名前になっています。

フィールド	設定
バックアップ会議サーバ (Backup Conferencing Server)	[なし] に設定します。 リリース 6.x では、このフィールドは [バックアップ MeetingPlace サーバ (Backup MeetingPlace Server)] という名前になっています。
プロフィールにユーザを追加 (Add Users to Profile)	このボタンをクリックした後、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを使用してユーザの検索と選択を行います。[選択項目の追加] をクリックして、プロフィールにユーザを追加します。
リリース 7.0 だけ	
これをシステムのデフォルト 会議プロフィールに設定 します	(オプション) システムに新規に追加されたユーザがこのデフォルトプロフィールに自動的に追加されるようにします。 Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence にすでに同期化されているユーザは、このデフォルトプロフィールに追加されません。ただし、デフォルトプロフィールを作成した場合は、その後で同期化されたユーザがすべてそのデフォルトプロフィールに追加されることとなります。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

関連項目

- 「[単独のユーザのアプリケーションプロフィールの変更](#)」 (P.6-17)
- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバの名前およびアドレスの指定](#)」 (P.B-18)

ビデオ会議リソースの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、Cisco Unified Personal Communicator ソフトフォンユーザに対して音声とビデオをサポートして、会議電話をマージできます (相手 3 名以上)。会議電話のどの参加者も、他の参加者を会議にマージできます。

始める前に

- ビデオ会議サーバのサポート対象のリリースをインストールします。サーバインストールの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/video/ps1870/tsd_products_support_series_home.html

Cisco Unified Videoconferencing のサポート対象リリースの詳細については、Cisco Unified Personal Communicator のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html

- ビデオ会議ブリッジの MAC アドレスを取得します。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [会議ブリッジ (Conference Bridge)] を選択します。
- ステップ 2** ビデオ会議ブリッジを追加します。
- ステップ 3** [メディアリソース (Media Resource)] > [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] を選択します。

ビデオ会議リソースの設定

- ステップ 4** メディア リソース グループ リストを作成します。
- ステップ 5** ビデオ会議ブリッジをメディア リソース グループ リストに追加します。
- ステップ 6** [メディア リソース (Media Resource)] > [メディア リソース グループ] を選択します。
- ステップ 7** メディア リソース グループを作成します。
- ステップ 8** メディア リソースをメディア リソース グループに追加します。
- ステップ 9** (オプション) どの参加者も会議に他の参加者を追加できるようにするには、次の手順を実行します。
- [システム] > [サービス パラメータ] の順に選択します。
 - Cisco Unified Communications Manager サーバおよびサービスを選択します。
 - [Clusterwide Parameter (Feature - Conference)] セクションで [Advanced Ad Hoc Conference Enabled] を [True] に設定します。
- ステップ 10** 新規に作成したメディア リソース グループ リストにソフトフォンを関連付けます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [デバイス] > [電話] を選択します。
 - [検索オプション] で電話の電話番号を検索し、見つかった場合にはそのデバイス名をクリックします。
 - [デバイス情報] セクションの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、メディア リソース グループ リストを検索し、ここで設定したばかりのメディア リソース グループ リストを選択します。
 - [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションでビデオ機能に対して [有効にする] を選択します。
 - [保存] をクリックします。
 - [リセット] をクリックします。

詳細な設定手順については、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのオンライン ヘルプまたは『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

関連項目

- 「電話タイプとしての Cisco Unified Personal Communicator の追加」 (P.3-16)
- 「ポイントツーポイント ビデオ コールおよびマルチポイント ビデオ会議に対応するためのユーザの設定」 (P.6-19)



APPENDIX C

Cisco Unified Personal Communicator の展開後の新規ユーザの追加

- 「[Cisco Unified Personal Communicator の全機能を活用するための新規ユーザの設定](#)」(P.C-1)

Cisco Unified Personal Communicator の全機能を活用するための新規ユーザの設定

次の表に、初期展開後に新規ユーザをさまざまなサーバに追加するのに必要な設定手順を示します。これらのタスクを完了すると、新規ユーザは初期展開後に Cisco Unified Personal Communicator の全機能を利用できるようになります。

手順

タスク	参照情報
Cisco Unified Communications Manager の設定	
Cisco Unified Communications Manager データベースに電話を追加します。	「 Cisco Unified Communications Manager で電話デバイスおよびユーザを設定する方法 」(P.3-6)
Computer Telephony Interface (CTI; コンピュータ テレフォニー インターフェイス) から Cisco Unified IP Phone の制御を許可します。	
電話に電話番号を関連付けます。	
ユーザ アカウントをセットアップし、ユーザに電話番号を関連付けます。	
ユーザに電話を関連付けます。	
標準 CTI 対応グループにユーザを追加します。	
CCM エンドユーザ グループにユーザを追加します。	

Cisco Unified Personal Communicator の全機能を活用するための新規ユーザの設定

タスク	参照情報
ユーザごとに手動でデバイスを新規に作成して、Cisco Unified Personal Communicator ソフトフォン機能を有効にします。	「Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Personal Communicator クライアントを設定する方法」(P.3-15)
Cisco Unified Personal Communicator の可用性ステータスが正確に表示されることを確認します。	
ユーザの回線を Cisco Unified Communications Manager のユーザに関連付けます。	
必要に応じて、ライセンス ファイルを取得します。	「Cisco Unified Communications Manager でライセンスを設定する方法」(P.3-2)
必要に応じて、ライセンス ファイルをアップロードします。	
機能を割り当てます。	
ボイスメール サーバの設定	
新規ユーザのアカウントをセットアップします。	「ボイスメール サーバを設定する方法」(P.B-1)
Web 会議サーバの設定	
新規ユーザのユーザ プロファイルをセットアップします。	「会議サーバを設定する方法」(P.B-13)
Cisco Unified Presence の設定	
新規ユーザの LDAP 属性マップを設定します。	「Cisco Unified Personal Communicator に Cisco Unified Presence を設定する方法」(P.6-2)
新規ユーザをサーバ プロファイルに追加します。	
	「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール プロファイルの作成」(P.B-11)
	「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議プロファイルの作成」(P.B-20)
優先 CTI デバイスをユーザのプライマリ デスク電話の MAC アドレスに割り当てます (Cisco Unified Presence リリース 6.x のみ)。	「単独のユーザのアプリケーション プロファイルの変更」(P.6-17)
ポイントツーポイント ビデオ コール	「ポイントツーポイントビデオコールおよびマルチポイントビデオ会議に対応するためのユーザの設定」(P.6-19)
マルチポイント ビデオ会議	
ビデオ テレフォニー カメラ	「ビデオ会議リソースの設定」(P.B-21)
ユーザに情報を提供します。	「ユーザに提供する情報」(P.7-6)
ヘッドセットおよびオーディオ デバイス情報	「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストールと設定」(P.7-5)